

# 『日本書紀』編纂誤認修正年表

2013年5月25日校了 内田祐治

西暦	天皇年紀（皇位/年齢）		誤認修正要因（傍線…誤認箇所。赤字…照合箇所）	皇統年補助	修正整理	周辺国および日本書紀以外の関連記事	西暦
B.C50						倭人が新羅の辺を侵す新羅本紀	B.C50
49							49
48							48
47							47
46							46
45	彦火火出見命(1歳)		この頃、神武祖父彦火火出見命(山幸)誕生※神武127歳没を祖父彦火火出見命の皇統化した年齢年と推定して算出		この頃、神武祖父彦火火出見命(山幸)誕生		45
44	(2歳)						44
43	(3歳)						43
42	(4歳)						42
41	(5歳)						41
40	(6歳)						40
39	(7歳)						39
38	(8歳)						38
37	(9歳)						37
36	(10歳)						36
35	(11歳)						35
34	(12歳)						34
33	(13歳)						33
32	(14歳)						32
31	(15歳)						31
30	(16歳)						30
29	(17歳)						29
28	(18歳)						28
27	(19歳)						27
26	(20歳)						26
25	(21歳)						25
24	(22歳)						24
23	(23歳) 彦波瀲武(1歳)		この頃、神武父彦波瀲武鷲草葺不合尊ひこなぎさたけうがやふきあえずのみこと誕生※神武45歳東征伐を父彦波瀲武の事跡年齢記憶と推定して算出		この頃、神武父彦波瀲武鷲草葺不合尊ひこなぎさたけうがやふきあえずのみこと誕生		23
22	(24歳)	(2歳)					22
21	(25歳)	(3歳)					21
20	(26歳)	(4歳)				②腰に瓢箪を下げた倭人がはじめて海を渡ってやって来た新羅本紀	20
19	(27歳)	(5歳)					19
18	(28歳)	(6歳)					18
17	(29歳)	(7歳)					17
16	(30歳)	(8歳)					16
15	(31歳)	(9歳)					15
14	(32歳)	(10歳)					14
13	(33歳)	(11歳)					13
12	(34歳)	(12歳)					12
11	(35歳)	(13歳)					11
10	(36歳)	(14歳)					10
9	(37歳)	(15歳)					9
8	(38歳)	(16歳)					8
7	(39歳)	(17歳)					7

6	(40歳)	(18歳)									6
5	(41歳)	(19歳)									5
4	(42歳)	(20歳)	彦五瀬命《1歳》		この頃、神武兄彦五瀬命誕生※父彦波瀲武の一般的長子出産年齢として比較参考として算出				この頃、神武兄彦五瀬命誕生		4
3	(43歳)	(21歳)	《2歳》								3
2	(44歳)	(22歳)	《3歳》								2
1	(45歳)	(23歳)	《4歳》								1
A.D. 1	(46歳)	(24歳)	《5歳》								A.D.1
2	(47歳)	(25歳)	《6歳》								2
3	(48歳)	(26歳)	《7歳》								3
4	(49歳)	(27歳)	《8歳》								4
5	(50歳)	(28歳)	《9歳》								5
6	(51歳)	(29歳)	《10歳》								6
7	※A(52歳)	(30歳)	《11歳》		この頃、彦火火出見命没?	彦火火出見命没? ←1			この頃、彦火火出見命没?		7
8	(53歳)	(31歳)	《12歳》			2					8
9	(54歳)	(32歳)	《13歳》			3					9
10	(55歳)	(33歳)	《14歳》			4					10
11	(56歳)	(34歳)	《15歳》			5					11
12	(57歳)	(35歳)	《16歳》			6					12
13	(58歳)	(36歳)	《17歳》			7					13
14	(59歳)	(37歳)	《18歳》	神武 1歳	神武誕生年	8			この年、神武誕生	倭人が兵船百余隻で新羅の海辺に侵入新羅本記	14
15	(60歳)	(38歳)	《19歳》	2歳		9					15
16	(61歳)	(39歳)	《20歳》	3歳		10					16
17	(62歳)	(40歳)	《21歳》	4歳		11					17
18	(63歳)	(41歳)	《22歳》	5歳		12					18
19	(64歳)	(42歳)	《23歳》	6歳		13					19
20	(65歳)	(43歳)	《24歳》	7歳		14					20
21	(66歳)	(44歳)	《25歳》	8歳		15					21
22	(67歳)	(45歳)	《26歳》	9歳	神武45歳⑩東征へ ⑫日向から安芸国埃宮えのみや到着※神武45歳は彦波瀲武鷲草葺不合尊45歳の誤。この頃、日向にて東征を命じて彦波瀲武鷲草葺不合尊没したか?日向吾平山上陵へ葬られる?	16			彦波瀲武鷲草葺不合尊45歳年、⑩東征へ ⑫日向から安芸国埃宮えのみや到着。この年、東征直前頃に彦波瀲武鷲草葺不合尊が日向吾平山上陵へ葬られる?		22
23	(68歳)		《27歳》	10歳	③吉備高嶋宮へ移る	17			前出の記事の一年後、③吉備に高嶋宮を造営し、移る		23
24	(69歳)		《28歳》	11歳		18					24
25	(70歳)		《29歳》	12歳		19					25
26	(71歳)		《30歳》	13歳	②再東征へ ③河内国到着 ④長髓彦がすねびことと交戦 ⑤五瀬命いつせのみこと没 ⑥、稲飯命いなひのみこと・三毛入野命みけいりののみこと没(神武3兄没) ⑫長髓彦と交戦	20			高嶋宮より三年後、②再東征へ ③河内国到着 ④長髓彦がすねびことと交戦 ⑤五瀬命いつせのみこと没 ⑥、稲飯命いなひのみこと・三毛入野命みけいりののみこと没(神武3兄没) ⑫長髓彦と交戦	大々杵37歳年、神武東征の倭入りの際、大々杵が神武に剣を奉る北村某の家記	26
27	(72歳)			14歳	③橿原に宮殿造営 ⑨神武、媛踏躰五十鈴媛命ひめたたらしいずひめのみことを正妃とする	21			一年後、③橿原に宮殿造営 ⑨神武、媛踏躰五十鈴媛命ひめたたらしいずひめのみことを正妃とする		27
28	(73歳)			15歳	神武15歳、①神武立太子※立太子時が即位	22			一年後、①神武15歳立太子		28
29	(74歳)			神武1/16歳		23					29
30	(75歳)			2/17歳	神武2年、②神武論功行賞する。大来目には畝傍山の西の川のほとりに居所。珍彦うずひこには倭国造。剣根つるぎねには葛城国造等	24			神武2年、②神武論功行賞する。大来目には畝傍山の西の川のほとりに居所。珍彦うずひこには倭国造。剣根つるぎねには葛城国造		30
31	(76歳)			3/18歳		25					31

32	(77歳)			4/19歳	神武4年、②鳥見山(桜井市外山)に齋場を立て皇祖の天神を祭る	26			神武4年、②鳥見山(桜井市外山)に齋場を立て皇祖の天神を祭る	32
33	(78歳)			5/20歳		27				33
34	(79歳)			6/21歳		28				34
35	(80歳)	綏靖 1歳		7/22歳	綏靖誕生年	29	綏靖誕生年 ←1		神武7年、綏靖誕生	35
36	(81歳)		2歳	8/23歳		30	2			36
37	(82歳)		3歳	9/24歳		31	3			37
38	(83歳)		4歳	10/25歳		32	4			38
39	(84歳)		5歳	11/26歳		33	5			39
40	(85歳)		6歳	12/27歳		34	6			40
41	(86歳)		7歳	13/28歳		35	7			41
42	(87歳)		8歳	14/29歳		36	8			42
43	(88歳)		9歳	15/30歳		37	9			43
44	(89歳)		10歳	16/31歳	神武31年、④国中を巡幸※神武31年は年齢年の誤	38	10		神武16年(神武31歳年)、④国中を巡幸	44
45	(90歳)		11歳	17/32歳		39	11			45
46	(91歳)		12歳	18/33歳		40	12			46
47	(92歳)		13歳	19/34歳		41	13			47
48	(93歳)		14歳	20/35歳		42	14			48
49	(94歳)		15歳	21/36歳		43	15			49
50	(95歳)		16歳	22/37歳		44	16			50
51	(96歳)		17歳	23/38歳		45	17			51
52	(97歳)		18歳	24/39歳		46	18			52
53	(98歳)		19歳	25/40歳		47	19			53
54	(99歳)		20歳	26/41歳		48	20			54
55	(100歳)		21歳	27/42歳	神武42年、①綏靖立太子※神武42年は神武年齢年の誤。立太子時が即位年	49	21		神武27年(神武42歳年)、①綏靖立太子	55
56	(101歳)	綏靖1/22歳		43歳	綏靖元年、①葛城に高丘宮を造営	50	22		綏靖元年、①葛城に高丘宮を造営	56
57	(102歳)		2/23歳	44歳	綏靖2年、①五十鈴依媛いすずよりひめを皇后に立てる	51	23		綏靖2年、①五十鈴依媛いすずよりひめを皇后に立てる	倭の奴国、後漢光武帝に使節派遣し印綏賜る後漢書 57
58	(103歳)		3/24歳	45歳		52	24			綏靖3年、綏靖の兄の神八井耳命、大々栲彥仁の家に御幸北村某の家記 58
59	(104歳)		4/25歳	46歳	綏靖4年、④綏靖の兄の神八井耳命かむやいみのみこと没し、畝傍山の北へ葬る	53	25		綏靖4年、④綏靖の兄の神八井耳命かむやいみのみこと没し、畝傍山の北へ葬る	⑤倭国と友好を結び使者を派遣し合う新羅本記 59
60	(105歳)	安寧 1歳		5/26歳	安寧誕生年	54	26		綏靖5年、安寧誕生	60
61	(106歳)		2歳	6/27歳		55	27			61
62	(107歳)		3歳	7/28歳		56	28			62
63	(108歳)		4歳	8/29歳		57	29			63
64	(109歳)		5歳	9/30歳		58	30			64
65	(110歳)		6歳	10/31歳		59	31			65
66	(111歳)		7歳	11/32歳		60	32			66
67	(112歳)		8歳	12/33歳		61	33			67
68	(113歳)		9歳	13/34歳		62	34			68
69	(114歳)		10歳	14/35歳		63	35			69
70	(115歳)		11歳	15/36歳		64	36			70
71	(116歳)		12歳	16/37歳		65	37			71
72	(117歳)		13歳	17/38歳		66	38			72

73	(118歳)	14歳	18/39歳	60歳		67	39				倭人木出島を侵す、新羅が角干羽鳥派遣新羅本記	73
74	(119歳)	15歳	19/40歳	61歳		68	40					74
75	(120歳)	16歳	20/41歳	62歳		69	41					75
76	(121歳)	17歳	21/42歳	63歳	懿徳誕生年	70	42	懿徳誕生年 ←1	綏靖21年、懿徳誕生			76
77	(122歳)	18歳	22/43歳	64歳		71	43	2				77
78	(123歳)	19歳	23/44歳	65歳		72	44	3				78
79	(124歳)	20歳	24/45歳	66歳		73	45	4				79
80	(125歳)	21歳	25/46歳	67歳	綏靖25年、①安寧21歳立太子※立太子時が即位年	74	46	5	綏靖25年、①安寧21歳立太子			80
81	(126歳)	安寧1/22歳	(26)/47歳	68歳		75	47	6				81
82	(127歳)	2/23歳	(27)/48歳	69歳	神武76年、③綏靖48歳のとき、神武127歳没※神武127歳没は神武祖父彦火火出見命(山幸)からの皇統年の誤。神武76年は彦火火出見命の没年を基準に算出した数値か? (右、皇統年補助※A)神武没年齢は69歳 安寧2年、安寧が片塩に浮孔宮を造営	※A 76	48	7	安寧2年、③神武69歳没。このとき綏靖48歳。この年、安寧が片塩に浮孔宮を造営			82
83		3/24歳	(28)/49歳		安寧3年、①安寧、淳名底仲媛命ぬなそこなかつひめのみことを皇后に立てる ①神武を畝傍山東北陵へ葬り、綏靖と実兄(母三輪系)神八井耳命、義兄(母日向系)手研耳命たぎしみのみことを討つ※神八井耳命は綏靖4年没、書紀編纂者の誤挿入か?		49	8	安寧3年、①安寧、淳名底仲媛命ぬなそこなかつひめのみことを皇后に立てる ①神武を畝傍山東北陵へ葬り、綏靖(母、三輪系)、義兄(母、日向系)手研耳命たぎしみのみことを討つ			83
84		4/25歳	(29)/50歳		↓		50	9				84
85		5/26歳	(30)/51歳	懿徳 10歳			51	10				85
86		6/27歳	(31)/52歳	11歳			52	11				86
87		7/28歳	(32)/53歳	12歳			53	12				87
88		8/29歳	(33)/54歳	13歳	綏靖33年、⑤綏靖84歳没(安寧29歳時)※綏靖84歳没は、綏靖皇統年齢年で示された安寧没年との取り違い(右、皇統年補助※B)。		54	13	安寧8年(綏靖延長皇位33年)、⑤綏靖54歳没			88
89		9/30歳		14歳	安寧元年、⑩綏靖を倭の桃花鳥田丘上陵へ葬る※安寧元年は綏靖没の翌年の誤		55	14	安寧9年、⑩綏靖を倭の桃花鳥田丘上陵へ葬る			89
90		10/31歳		15歳			56	15				90
91		11/32歳		16歳	安寧11年、①懿徳16歳立太子※立太子時が即位年		57	16	安寧11年、①懿徳16歳立太子			91
92	(12)/33歳			懿徳1/17歳			58	懿徳元年 ←1				92
93	(13)/34歳		2/18歳	懿徳2年、①軽へ遷都し曲峡宮造営			59	2	懿徳2年、①軽へ遷都し曲峡宮造営			93
94	(14)/35歳		3/19歳				60	3				94
95	(15)/36歳		4/20歳				61	4				95
96	(16)/37歳	孝昭 1歳	5/21歳	孝昭誕生年			62	5	懿徳5年、孝昭誕生			96
97	(17)/38歳	2歳	6/22歳				63	6				97
98	(18)/39歳	3歳	7/23歳				64	7				98
99	(19)/40歳	4歳	8/24歳				65	8				99
100	(20)/41歳	5歳	9/25歳				66	9				100
101	(21)/42歳	6歳	10/26歳				67	10				101
102	(22)/43歳	7歳	11/27歳				68	11				102
103	(23)/44歳	8歳	12/28歳				69	12				103
104	(24)/45歳	9歳	13/29歳				70	13				104
105	(25)/46歳	10歳	14/30歳				71	14				105
106	(26)/47歳	11歳	15/31歳				72	15				106

107		(27)/48歳	12歳	16/32歳			73	16	32		倭国王帥升ら、後漢安帝に使節派遣後漢書	107
108		(28)/49歳	13歳	17/33歳			74	17	33			108
109		(29)/50歳	14歳	18/34歳			75	18	34			109
110		(30)/51歳	15歳	19/35歳			76	19	35			110
111		(31)/52歳	16歳	20/36歳			77	20	36			111
112		(32)/53歳	17歳	21/37歳			78	21	37			112
113		(33)/54歳	18歳	22/38歳	懿徳22年、②考昭18歳立太子※立太子時が即位年	考昭立太子←1	79	22	38	懿徳22年、②考昭18歳立太子		113
114		(34)/55歳	孝昭1/19歳	(23)/39歳			2	80	23	39		114
115		(35)/56歳	2/20歳	(24)/40歳			3	81	24	40		115
116		(36)/57歳	3/21歳	(25)/41歳			4	82	25	41		116
117		(37)/58歳	4/22歳	(26)/42歳			5	83	26	42		117
118		(38)/59歳	5/23歳	(27)/43歳	安寧38年、⑩安寧57歳没※安寧38年は安寧延長皇位年。57歳没は59歳の誤か?	※B84	6	27	43	孝昭5年(安寧延長皇位38年)、⑩安寧59歳没		118
119			6/24歳	(28)/44歳	懿徳1年、⑧懿徳を畝傍山の南の御陰井上陵へ葬る※懿徳元年は誤。安寧没年の翌年に埋葬		7	28	44	孝昭6年、⑧懿徳を畝傍山の南の御陰井上陵へ葬る		119
120			7/25歳	(29)/45歳			8	29	45			120
121			8/26歳	(30)/46歳			9	30	46		④倭人が東の辺境を攻めた新羅本記	121
122			9/27歳	(31)/47歳			10	31	47		④大風が吹き荒れ都人の間に倭兵が攻めてくるとの訛言があった新羅本記	122
123			10/28歳	(32)/48歳			11	32	48		③倭国と講和新羅本記	123
124		孝安 1歳	11/29歳	(33)/49歳	孝昭29年、①孝昭、世襲足媛よそたらしひめを皇后に立てる※孝昭29年は年齢年の誤 孝安誕生年		12	33	49	孝昭11年(孝昭29歳年)、①孝昭、世襲足媛よそたらしひめを皇后に立てる。この年、孝安誕生		124
125		2歳	12/30歳	(34)/50歳	懿徳34年、⑨懿徳没※34年は懿徳延長皇位年		13	34	50	孝昭12年(懿徳延長皇位34年)、⑨懿徳50歳没		125
126		3歳	13/31歳	(51歳)	懿徳没翌年、⑩懿徳を畝傍山の南の織沙谿上陵へ葬る		14	35	51	孝昭13年、⑩懿徳を畝傍山の南の織沙谿上陵へ葬る		126
127		4歳	14/32歳	(52歳)			15	36	52			127
128		5歳	15/33歳	(53歳)			16	37	53			128
129		6歳	16/34歳	(54歳)			17	38	54			129
130		7歳	17/35歳	(55歳)			18	39	55			130
131		8歳	18/36歳	(56歳)			19	40	56			131
132		9歳	19/37歳	(57歳)			20	41	57			132
133		10歳	20/38歳	(58歳)			21	42	58			133
134		11歳	21/39歳	(59歳)			22	43	59			134
135		12歳	22/40歳	(60歳)			23	44	60			135
136		13歳	23/41歳	(61歳)			24	45	61			136
137		14歳	24/42歳	(62歳)			25	46	62			137
138		15歳	25/43歳	(63歳)			26	47	63			138
139		16歳	26/44歳	(64歳)			27	48	64			139
140		17歳	27/45歳	(65歳)			28	49	65			140
141		18歳	28/46歳	(66歳)			29	50	66			141
142		19歳	29/47歳	(67歳)			30	51	67			142
143		20歳	30/48歳	(68歳)	孝昭68年、①孝安20歳立太子※孝昭68年は皇統年化した先代懿徳の皇統化した延長年齢年の誤。立太子時が即位年		31	52	68	孝昭30年(懿徳皇統68歳年)、①孝安20歳立太子		143
144		孝安1/21歳	49歳	(69歳)			32	53	69			144
145		2/22歳	50歳	(70歳)	孝安2年、⑩室へ遷都、秋津嶋宮造営		33	54	70	孝安2年、⑩室へ遷都、秋津嶋宮造営		145
146	孝霊 1歳	3/23歳	51歳	(71歳)	孝霊誕生年		34	55	71	孝安3年、孝霊誕生		146
147	2歳	4/24歳	52歳	(72歳)			35	56	72			147

148	3歳	5/25歳	53歳	(73歳)		36	57	73			148	
149	4歳	6/26歳	54歳	(74歳)	孝安26年、②押媛を皇后に立てる※孝安26年は孝安年齢年の誤	37	58	74	孝安6年(孝安26歳年)、②押媛を皇后に立てる		149	
150	5歳	7/27歳	55歳	(75歳)		38	59	75			150	
151	6歳	8/28歳	56歳	(76歳)		39	60	76			151	
152	7歳	9/29歳	57歳	(77歳)		40	61	77			152	
153	8歳	10/30歳	58歳	(78歳)		41	62	78			153	
154	9歳	11/31歳	59歳	(79歳)		42	63	79			154	
155	10歳	12/32歳	60歳	(80歳)		43	64	80			155	
156	11歳	13/33歳	61歳	(81歳)		44	65	81			156	
157	12歳	14/34歳	62歳	(82歳)		45	66	82			157	
158	13歳	15/35歳	63歳	(83歳)	孝昭83年、⑧孝昭没※孝昭83年は皇統年化した先代懿徳の延長年齢年の誤	46	67	83	孝安15年(懿徳皇統83歳年)、⑧孝昭63歳没	③倭人が訪れる新羅本記	158	
159	14歳	16/36歳	(64歳)			47	68	84			159	
160	15歳	17/37歳	(65歳)			48	69	85			160	
161	16歳	18/38歳	(66歳)		孝安38年、⑨孝昭を掖上の博多山上陵へ葬る※孝安38年は孝安年齢年の誤	49	孝昭埋葬年 ←1	70	86	孝安18年(孝安38歳年)、⑨孝昭を掖上の博多山上陵へ葬る		161
162	17歳	19/39歳	(67歳)			50	2	71	87		162	
163	18歳	20/40歳	(68歳)	孝元 1歳	孝元誕生年	51	3	72	88	孝安20年、孝元誕生		163
164	19歳	21/41歳	(69歳)	2歳		52	4	73	89		164	
165	20歳	22/42歳	(70歳)	3歳		53	5	74	90		165	
166	21歳	23/43歳	(71歳)	4歳		54	6	75	91		166	
167	22歳	24/44歳	(72歳)	5歳		55	7	76	92		167	
168	23歳	25/45歳	(73歳)	6歳		56	8	77	93		168	
169	24歳	26/46歳	(74歳)	7歳		57	9	78	94		169	
170	25歳	27/47歳	(75歳)	8歳		58	10	79	95		170	
171	26歳	28/48歳	(76歳)	9歳	孝安76年、①孝霊26歳立太子※孝安76年は皇統年化した先代孝昭の延長年齢年の誤。立太子時が即位年	59	11	80	96	孝安28年(孝昭皇統76歳年)、①孝霊26歳立太子		171
172	孝霊1/27歳	49歳	(77歳)	10歳		60	12	81	97		172	
173	2/28歳	50歳	(78歳)	11歳	孝霊2年、②孝霊、細媛命くわしひめのみことを皇后に立てる	61	13	82	98	孝霊2年、②孝霊、細媛命くわしひめのみことを皇后に立てる	⑤倭の女王卑弥呼の使者が訪れた新羅本記	173
174	3/29歳	51歳	(79歳)	12歳		62	14	83	99		174	
175	4/30歳	52歳	(80歳)	13歳		63	15	84	100		175	
176	5/31歳	53歳	(81歳)	14歳		64	16	85	101		176	
177	6/32歳	54歳	(82歳)	15歳		65	17	86	102		177	
178	7/33歳	55歳	(83歳)	16歳		66	18	87	103		178	
179	8/34歳	56歳	(84歳)	17歳		67	19	88	104		179	
180	9/35歳	57歳	(85歳)	18歳		68	20	89	105		180	
181	10/36歳	58歳	(86歳)	19歳	孝霊36年、①孝元19歳立太子※孝霊36年は孝霊年齢年の誤。立太子時が即位年	69	21	90	106	孝霊10年(孝霊36歳年)、①孝元19歳立太子		181
182	37歳	59歳	(87歳)	孝元1/20歳		70	22	91	107		182	
183	38歳	60歳	(88歳)	2/21歳		71	23	92	108		183	
184	39歳	61歳	(89歳)	3/22歳		72	24	93	109		184	
185	40歳	62歳	(90歳)	4/23歳	孝元4年、③軽へ遷都し、境原宮を造営	73	25	94	110	孝元4年、③軽へ遷都し、境原宮を造営		185
186	41歳	63歳	(91歳)	5/24歳		74	26	95	111		186	
187	42歳	64歳	(92歳)	6/25歳		75	27	96	112		187	
188	43歳	65歳	(93歳)	7/26歳	孝元7年、②孝元、辯色謎命うつしこめのみことを皇后に立てる。この年、開化誕生年	76	28	97	113	孝元7年、②孝元、辯色謎命うつしこめのみことを皇后に立てる。この年、開化誕生	孝元7年、大々村彦仁の家に行幸北村某の家記	188
189	44歳	66歳	(94歳)	8/27歳		77	29	98	114		189	
190	45歳	67歳	(95歳)	9/28歳		78	30	99	115		孝元9年、天皇の御影を彫り、神殿を築く北村某の家記	190
191	46歳	68歳	(96歳)	10/29歳		79	31	100	116		191	
192	47歳	69歳	(97歳)	11/30歳		80	32	101	117		192	

193	48歳	70歳	(98歳)	12/31歳		81	33	102	118		⑥倭人大饑來求食者千餘人新羅本記	193
194	49歳	71歳	(99歳)	13/32歳		82	34	103	119			194
195	50歳	72歳	(100歳)	14/33歳		83	35	104	120			195
196	51歳	73歳	(101歳)	15/34歳		84	36	105	121			196
197	52歳	74歳	(102歳)	16/35歳	孝安102年、①孝安没※孝安102年は皇統年 化した、先代孝昭の延長年齢年の誤	85	37	※C 106	122	孝元16年(孝昭皇統102歳年)、①孝安74歳 没		197
198	53歳	(75歳)		17/36歳	孝安102年、⑨孝安を玉手丘上陵へ葬る※古 事記の孝安123歳は、皇統化した懿徳年齢年 ではなかった埋葬年? (右、皇統年補助※D)。 書紀が没年と埋葬年を同一年とするのは誤	86	38	※D 123		孝元17年(懿徳皇統123歳年)、⑨孝安を玉手 丘上陵へ葬る		198
199	54歳	(76歳)		18/37歳	孝霊76年、②孝霊没※孝霊76年は皇統年化 した先代孝安の延長年齢年の誤。古事記の 孝霊106歳没は、皇統化した懿徳皇位元年よ りはかった先代孝安没年の取り違い (右、皇 統年補助※C)	87	39	孝霊 元年 から ↓	孝昭 没年 から ↓	孝元18年(孝安皇統76歳年)、②孝霊54歳没		199
200	(55歳)		↓	19/38歳		88	40	29	42			200
201	(56歳)		開化 14歳	20/39歳		89	41	30	43			201
202	(57歳)		15歳	21/40歳	孝元6年、⑨孝霊を片丘の馬坂陵へ葬る※孝 元6年は孝霊父の孝安没年から孝霊埋葬年 までの期間幅の誤?	90	42	31	44	孝元21年(孝霊父の孝安没年から満6年後)、 ⑨孝霊を片丘の馬坂陵へ葬る		202
203			16歳	22/41歳	孝元22年、①開化16歳立太子※立太子時が 即位年	91	43	32	45	孝元22年、①開化16歳立太子		203
204			開化1/17歳	42歳	開化1年、⑩春日へ遷都し、率川宮造営	92	44	33	46	開化1年、⑩春日へ遷都し、率川宮造営		204
205			2/18歳	43歳		93	45	34	47			205
206			3/19歳	44歳		94	46	35	48			206
207			4/20歳	45歳		95	47	36	49			207
208			5/21歳	46歳		96	48	37	50			208
209			6/22歳	47歳	開化6年、①伊香色謎命を皇后に立てる	97	49	38	51	開化6年、①伊香色謎命を皇后に立てる	④倭人が辺境を攻める新羅本記	209
210			7/23歳	48歳		98	50	39	52			210
211			8/24歳	49歳		99	51	40	53			211
212			9/25歳	50歳		100	52	41	54			212
213	崇神 1歳	10/26歳	51歳	崇神誕生年		101	53	42	55	開化10年、崇神誕生		213
214	2歳	11/27歳	52歳			102	54	43	56			214
215	3歳	12/28歳	53歳			103	55	44	57			215
216	4歳	13/29歳	54歳			104	56	45	58			216
217	5歳	14/30歳	55歳			105	57	46	59			217
218	6歳	15/31歳	56歳			106	58	47	60			218
219	7歳	16/32歳	57歳	孝元57年、⑨孝元没※孝元没年の皇位57年 は、孝元没年齢を即位期間に取り違い		107	59	48	61	開化16年、孝元57歳没		219
220	8歳	17/33歳				108	60	49	62			220
221	9歳	18/34歳				109	61	50	63			221
222	10歳	19/35歳				110	62	51	64			222
223	11歳	20/36歳		開化5年、②孝元を剣池嶋上陵へ葬る※開化 5年の5年は、没年から埋葬年までの期間幅 の誤?		111	63	52	65	開化20年(孝元没年から満5年後)、②孝元を 剣池嶋上陵へ葬る		223
224	12歳	21/37歳				112	64	53	66			224
225	13歳	22/38歳				113	65	54	67			225
226	14歳	23/39歳				114	66	55	68			226
227	15歳	24/40歳				115	67	56	69			227
228	16歳	25/41歳				116	68	57	70			228
229	17歳	26/42歳				117	69	58	71			229
230	18歳	27/43歳				118	70	59	72			230
231	19歳	28/44歳		開化28年、①崇神19歳立太子※立太子時が 即位年		119	71	60	73	開化28年、①崇神19歳立太子		231
232	崇神1/20歳	45歳		崇神1年、②崇神、御間城姫を皇后に立てる		120	72	61	74	崇神1年、②崇神、御間城姫を皇后に立てる	④倭人が金城を包囲新羅本記	232

233		2/21歳	46歳			121	73	62	75		⑤倭兵が東辺を攻めた ⑦倭人との戦あり新羅本	233
234		3/22歳	47歳		崇神3年、⑨磯城へ遷都し、瑞籬宮を造営	122	74	63	76	崇神3年、⑨磯城へ遷都し、瑞籬宮を造営		234
235		4/23歳	48歳		崇神4年、⑩崇神の詔あり	123	75	64	77	崇神4年、⑩崇神の詔あり		235
236		5/24歳	49歳		崇神5年、この年、国内に疾疫広がり死者多数	124	76	65	78	崇神5年、この年、国内に疾疫広がり死者多数		236
237	垂仁 1歳	6/25歳	50歳		崇神6年、百姓流亡。天神地祇を祭る。崇仁誕生年	125	77	66	79	崇神6年、百姓流亡。天神地祇を祭る。崇神誕生年		237
238	2歳	7/26歳	51歳		崇神7年、②崇神、神浅茅原に行幸し、神々を集め占い ⑧大田田根子命と市磯長尾市の神主を占う ⑩大田田根子命と市磯長尾市を神主とする	126	78	67	80	崇神7年、②崇神、神浅茅原に行幸し、神々を集め占い ⑧大田田根子命と市磯長尾市の神主を占う ⑩大田田根子命と市磯長尾市を神主とする	崇神7年、大々村名黒に詔し、社殿を築かせる北村某の家記	238
239	3歳	8/27歳	52歳		崇神8年、④活日いくひを大物主大神の掌酒さかびととする	127	79	68	81	崇神8年、④活日いくひを大物主大神の掌酒さかびととする	⑥倭の女王卑弥呼、大夫難升米を魏の明帝に派遣 ⑦卑弥呼、明帝より親魏倭王の称号と金印紫綬を賜る魏志倭人伝 崇神8年、秋遷宮式北村某の家記	239
240	4歳	9/28歳	53歳		崇神9年、④墨坂神・大坂神を祭る	128	80	69	82	崇神9年、④墨坂神・大坂神を祭る	帯方郡太守・魏王の詔書・印綬を倭国へ伝達魏志倭人伝	240
241	5歳	10/29歳	54歳		崇神10年、⑦四道將軍派遣の詔 ⑨四道將軍派遣	129	81	70	83	崇神10年、⑦四道將軍派遣の詔 ⑨四道將軍派遣	崇神10年、神領地を定める北村某の家記	241
242	6歳	11/30歳	55歳		崇神11年、④四道將軍が夷賊平定を奏上	130	82	71	84	崇神11年、④四道將軍が夷賊平定を奏上		242
243	7歳	12/31歳	56歳		崇神12年、③崇神の詔あり ⑨戸口調査し、調役賦課	131	83	72	85	崇神12年、③崇神の詔あり ⑨戸口調査し、調役賦課	倭の女王の使者、帯方郡に赴く魏志倭人伝	243
244	8歳	13/32歳	57歳			132	84	73	86			244
245	9歳	14/33歳	58歳			133	85	74	87			245
246	10歳	15/34歳	59歳			134	86	75	88			246
247	11歳	16/35歳	60歳		開化60年、④開化没。※開化60年は開化年齢年の誤	135	87	76	89	崇神16年(開化60歳年)、④開化60歳没	倭の女王卑弥呼、狗奴国と交戦。魏が調停魏志倭人伝	247
248	12歳	17/36歳	(61歳)		崇神17年、⑦諸国に造船を命ずる ⑩はじめて船舶を造る	136	88	77	90	崇神17年、⑦諸国に造船を命ずる ⑩はじめて船舶を造る	この頃、卑弥呼没魏志倭人伝	248
249	13歳	18/37歳	(62歳)			137	89	78	91		④倭人が舒弗郎、于老(宇流助富利智干)を殺した新羅本記	249
250	14歳	19/38歳	(63歳)		開化60年、⑩春日の率川坂本陵へ葬る※古事記の開化63歳没は埋葬年までの延長年齢年?	138	90	79	92	崇神19年(開化皇統63歳年、)⑩開化を春日の率川坂本陵へ葬る?		250
251	15歳	20/39歳				139	91	80	93			251
252	16歳	21/40歳				140	92	81	94			252
253	17歳	22/41歳				141	93	82	95			253
254	18歳	23/42歳				142	94	83	96			254
255	19歳	24/43歳				143	95	84	97			255
256	20歳	25/44歳				144	96	85	98			256
257	21歳	26/45歳				145	97	86	99			257
258	22歳	27/46歳				146	98	87	100			258
259	23歳	28/47歳				147	99	88	101			259
260	24歳	29/48歳			崇神48年、④活目尊を皇太子に立て、豊城命に東国を治めさせる※崇神48年は崇神年齢年の誤。立太子時が即位年	148	100	89	102	崇神29年(崇神48歳年)、④活目尊を皇太子に立て、豊城命に東国を治めさせる		260
261	垂仁1/25歳	49歳				149	101	90	103			261
262	2/26歳	50歳			垂仁2年、②垂仁、狭穗姫を皇后に立てる ⑩纏向へ遷都し、珠城宮を造営	150	102	91	104	垂仁2年、②垂仁、狭穗姫を皇后に立てる ⑩纏向へ遷都し、珠城宮を造営		262
263	3/27歳	51歳			垂仁3年、③新羅の王子天日槍来帰※以後、近江・若狭・但馬へ分派	151	103	92	105	垂仁3年、③新羅の王子天日槍来帰※以後、近江・若狭・但馬へ分派		263
264	4/28歳	52歳			垂仁4年、⑨皇后の同母兄の狭穗彦王、謀反を起こす	152	104	93	106	垂仁4年、⑨皇后の同母兄の狭穗彦王、謀反を起こす		264
265	5/29歳	53歳			垂仁5年、⑩垂仁、行幸先の来目の高宮(大和国高市郡)で狭穗彦王の謀叛を知り、八綱田に撃つ事を命ずる	153	105	94	107	垂仁5年、⑩垂仁、行幸先の来目の高宮(大和国高市郡)で狭穗彦王の謀叛を知り、八綱田に撃つ事を命ずる	魏滅び、西晋興る	265



266	6/30歳	54歳				154	106	95	108		①倭人(倭の女王の使者)来り方物を献じる晋書武帝紀	266
267	7/31歳	55歳			垂仁7年、出雲国野見宿禰が相撲で見い出され、以後朝廷へ仕える	155	107	96	109	垂仁7年、出雲国野見宿禰が相撲で見い出され、以後朝廷へ仕える		267
268	8/32歳	56歳				156	108	97	110			268
269	9/33歳	57歳				157	109	98	111			269
270	10/34歳	58歳				158	110	99	112			270
271	11/35歳	59歳				159	111	100	113			271
272	12/36歳	60歳			崇神60年、⑦崇神、出雲の神宝を献上させる ※崇神60年は崇神年齢年の誤	160	112	101	114	垂仁12年(崇神60歳年)、崇神、出雲の神宝を献上させる		272
273	13/37歳	61歳				161	113	102	115			273
274	14/38歳	62歳			崇神62年、⑦崇神、池溝を掘り農業振興を詔 ⑩依網池を造る ⑪苅坂池・反折池を造る※ 崇神60年は崇神年齢年の誤	162	114	103	116	垂仁14年(崇神62歳年)、⑦崇神、池溝を掘り農業振興を詔 ⑩依網池を造る ⑪苅坂池・反折池を造る		274
275	15/39歳	63歳			垂仁15年、②丹波の五人の女を召す。⑧日葉酢媛を皇后に立てる。竹野媛のみ帰され弟国で自害	163	115	104	117	垂仁15年、②丹波の五人の女を召す。⑧日葉酢媛を皇后に立てる。竹野媛のみ帰され弟国で自害		275
276	16/40歳	64歳				164	116	105	118			276
277	17/41歳	65歳	景行	1歳	崇神65年、⑦任那国が蘇那曷叱知を遣わし、朝献※景行誕生と関係か? この年、景行誕生年	165	117	106	119	垂仁17年(崇神65歳年)、⑦任那国が朝献。この年、景行誕生年		277
278	18/42歳	66歳		2歳		166	118	107	120			278
279	19/43歳	67歳		3歳		167	119	108	121			279
280	20/44歳	68歳		4歳	崇神68年、⑩崇神120歳没※崇神68年は崇神年齢年の誤。120歳没は孝昭埋葬年からの期間幅の誤(右、皇統年補助※E)。古事記168歳没は孝昭立太子年からの期間幅の誤(右、皇統年補助※F)	※F 168	※E 120	109	122	垂仁20年(崇神68歳年)、⑩崇神68歳没		280
281	21/45歳	(69歳)		5歳	崇神没翌年、⑧崇神を山辺道上陵へ葬る※垂仁即位前紀では十月。干支年で書かれた二次記録を、書紀編纂段階で崇神68年の翌年に垂仁元年を組み換えたことによる誤?			110	123	垂仁21年、⑧?崇神を山辺道上陵へ葬る		281
282	22/46歳	(70歳)		6歳	垂仁2年、任那国派遣の蘇那曷叱智が帰国※垂仁2年は誤。崇神崩御より垂仁に仕えて三年とすれば、垂仁22年の事跡			111	124	垂仁22年、任那国派遣の蘇那曷叱智が帰国		282
283	23/47歳	(71歳)		7歳	垂仁23年、⑨もの言わぬ菅津別王について詔あり ⑪湯河板拳が鵠を献上し鳥取造の姓を賜る。鳥取部・鳥養部・菅津部を定める			112	125	垂仁23年、⑨もの言わぬ菅津別王について詔あり ⑪湯河板拳が鵠を献上し鳥取造の姓を賜る。鳥取部・鳥養部・菅津部を定める		283
284	24/48歳	(72歳)		8歳				113	126			284
285	25/49歳	(73歳)		9歳	垂仁25年、②五人の大夫に天神地祇の祭祀の詔あり ③天照大神を倭姫命に付け鎮めまつる			114	127	垂仁25年、②五人の大夫に天神地祇の祭祀の詔あり ③天照大神を倭姫命に付け鎮めまつる		285
286	26/50歳	(74歳)		10歳	垂仁26年、⑧物部十千根大連に出雲神宝を掌らせる			115	128	垂仁26年、⑧物部十千根大連に出雲神宝を掌らせる		286
287	27/51歳	(75歳)		11歳	垂仁27年、⑧諸神社に弓矢・横刀を納め、神地・神戸を定め季節ごとに祭らせる。この年、屯倉を来目邑に定める(神武2年、垂仁5年参照)	崇神立太子年から↓ 57		116	129	垂仁27年、⑧諸神社に弓矢・横刀を納め、神地・神戸を定め季節ごとに祭らせる。この年、屯倉を来目邑に定める(神武2年、垂仁5年参照)	④倭人が一例部を襲う新羅本記	287
288	28/52歳	(76歳)		12歳	垂仁28年、⑩垂仁の母弟の倭彦命没 ⑪倭彦命を身狭の桃花鳥坂へ葬り、殉死を禁ず	58	117	130		垂仁28年、⑩垂仁の母弟の倭彦命没 ⑪倭彦命を身狭の桃花鳥坂へ葬り、殉死を禁ず		288
289	29/53歳	(77歳)		13歳		59	118	131			⑤倭が攻めてくることを聞き軍備新羅本記	289

290	30/54歳	(78歳)		14歳	垂仁30年、①垂仁、景行の皇位継承を認可	60	119	132	垂仁30年、①垂仁、景行の皇位継承を認可		290
291	31/55歳	(79歳)		15歳	垂仁32年、⑦皇后日葉酢媛命没。野見宿禰、埴輪を墓に立てる。垂仁がその功績を褒め鍛地を賜い、土部の管孁者に任ずる	61	120	133	垂仁32年、⑦皇后日葉酢媛命没。野見宿禰、埴輪を墓に立てる。垂仁がその功績を褒め鍛地を賜い、土部の管孁者に任ずる		291
292	32/56歳	(80歳)		16歳		62	121	134		⑥倭兵が沙道城を攻め落とす新羅本記	292
293	33/57歳	(81歳)		17歳		63	122	135			293
294	34/58歳	(82歳)		18歳	垂仁34年、③垂仁、山背へ行幸	64	123	136	垂仁34年、③垂仁、山背へ行幸	夏、倭兵が長峯城を攻めて来た新羅本記	294
295	35/59歳	(83歳)		19歳	垂仁35年、⑨五十瓊敷命を河内国へ遣わし、高石池・茅渟池を作る ⑩倭の狭城池・迹見池を作る。この年、諸国に命じて農事用の池溝を掘る	65	124	137	垂仁35年、⑨五十瓊敷命を河内国へ遣わし、高石池・茅渟池を作る ⑩倭の狭城池・迹見池を作る。この年、諸国に命じて農事用の池溝を掘る	春、倭人がしばしば侵略新羅本記	295
296	36/60歳	(84歳)		20歳		66	125	138			296
297	37/61歳	(85歳)		21歳	垂仁37年、①景行21歳立太子※立太子時が即位年	67	126	139	垂仁37年、①景行を皇太子に立てる		297
298	(38)/62歳	(86歳)		景行1/22歳		68	127	140			298
299	(39)/63歳	(87歳)	日本武尊1歳	2/23歳	景行2年、③景行、播磨稲日大郎姫を皇后に立てる。この年、日本武尊誕生年 垂仁39年、⑩五十瓊敷命、茅渟の菟砥の川上宮で剣一千口を作る※垂仁39年は垂仁延長皇位年での表記	69	128	141	景行2年(垂仁延長皇位39年)、③景行、播磨稲日大郎姫を皇后に立てる。⑩五十瓊敷命、茅渟の菟砥の川上宮で剣一千口を作る。この年、日本武尊誕生年		299
300	(40)/64歳	(88歳)	2歳	3/24歳	景行3年、②景行、紀伊国へ行幸、占いにより天神地祇の祭祀をとりやめ、行幸中止。屋主忍男武雄心命を阿備の柏原(和歌山)へ遣わし、天神地祇を祭らせる。以後九年間居住し、その間に武内宿禰が生れる	70	129	142	景行3年、②景行、紀伊国へ行幸、占いにより天神地祇の祭祀をとりやめ、行幸中止。屋主忍男武雄心命を阿備の柏原(和歌山)へ遣わし、天神地祇を祭らせる。以後九年間居住し、その間に武内宿禰が生れる	①倭国と交わる新羅本記	300
301	(41)/65歳	(89歳)	3歳	4/25歳	景行4年、②景行、美濃へ行幸。八坂入媛を召して妃とする ⑪美濃より還幸し、纏向に都を造り日代宮造宮	71	130	143	景行4年、②景行、美濃へ行幸。八坂入媛を召して妃とする ⑪美濃より還幸し、纏向に都を造り日代宮造宮		301
302	(42)/66歳	(90歳)	4歳	5/26歳		72	131	144			302
303	(43)/67歳	(91歳)	5歳	6/27歳		73	132	145			303
304	(44)/68歳	(92歳)	6歳	7/28歳	成務・武内宿禰誕生年	74	133	146	景行7年、成務・武内宿禰誕生		304
305	(45)/69歳	(93歳)	7歳	8/29歳		75	134	147			305
306	(46)/70歳	(94歳)	8歳	9/30歳		76	135	148			306
307	(47)/71歳	(95歳)	9歳	10/31歳		77	136	149			307
308	(48)/72歳	(96歳)	10歳	11/32歳		78	137	150			308
309	(49)/73歳	(97歳)	11歳	12/33歳	景行12年、⑦熊襲が叛いて朝貢せず ⑧景行、筑紫へ行幸 ⑫景行、熊襲を討つことを協議	79	138	151	景行12年、⑦熊襲が叛いて朝貢せず ⑧景行、筑紫へ行幸 ⑫景行、熊襲を討つことを協議		309
310	(50)/74歳	(98歳)	12歳	13/34歳	景行13年、⑤襲国平定。御刀媛を召し妃とする。以後、日向高屋宮に六年滞在	80	139	152	景行13年、⑤襲国平定。御刀媛を召し妃とする		310
311	(51)/75歳	(99歳)	13歳	14/35歳	垂仁99年、⑦垂仁、纏向宮で140歳没 ⑫菅原伏見陵へ葬る※垂仁99年は皇統化した崇神年齢年の誤。140歳没は孝靈元年から(右、皇統年補助※G)、また古事記の153歳没は孝昭没翌年からの期間幅の誤(右、皇統年補助※H)。景行紀では垂仁没は二月。干支年で書かれた二次記録を、書紀編纂段階で組み換えたことによる誤?	81	140	153	景行14年(崇神延長99歳年)、垂仁99年、⑦垂仁、纏向宮で75歳没 ⑫菅原伏見陵へ葬る		311
312				14歳		52	82			③倭国王の息子の求婚のため、阿漥の急利の娘を倭国へ送った新羅本記	312
313				15歳		53	83				313

314		成務武 内宿禰 ↓	16歳	17/38歳	景行17年、③子湯県(宮崎)へ行幸 景行27年、⑧熊襲叛き辺境を侵す ⑩16歳 の日本武尊を熊襲征伐へ遣わす ⑫日本武 尊、熊襲国に到着※景行27年8月・10月・12 月は、日本武尊16歳熊襲征伐年の誤挿入	54	84	孝靈 没翌 年から ↓	景行17年、③子湯県(宮崎)へ行幸 ⑧熊襲 叛き辺境を侵す ⑩16歳の日本武尊を熊襲 征伐へ遣わす ⑫日本武尊、熊襲国に到着	314	
315		12歳	17歳	18/39歳	景行28年、②日本武尊、熊襲平定を奏上※ 景行28年2月は景行27年8月以降の一連の 誤挿入。なお、これらは本来年齢年で記され た日本武尊の独立した記録か? 景行18年、③景行、京へ向かうため筑紫国 巡幸。以下、九州諸国巡幸	55	85	116	景行18年、②日本武尊、熊襲平定を奏上 ③景行、京へ向かうため筑紫国巡幸。以下、 九州諸国巡幸	315	
316		13歳	18歳	19/40歳	景行40年、⑥東夷が叛き、辺境で騒ぐ ⑦景 行、東征をこばむ大碓皇子を美濃へ封じ、そ の弟の日本武尊に東征を託す ⑩日本武 尊、東征へ※景行40年は景行年齢年の誤。 以下、書紀は日本武尊の事跡を景行43年ま で圧縮して誤認記載 景行19年、⑨日向より大和へ還幸	56	86	117	景行19年、⑥東夷が叛き、辺境で騒ぐ ⑦景 行、東征をこばむ大碓皇子を美濃へ封じ、そ の弟の日本武尊に東征を託す ⑨日向より 大和へ還幸 ⑩日本武尊、東征へ(書紀の景 行40年とする東征から景行43年とする没年 までの日本武尊の事跡は、実際には左、日 本武尊18歳から30歳の間の事跡伝承と思わ	316	
317		14歳	19歳	20/41歳	景行20年、②五百野皇女を遣わし、天照大 神を祭る	57	87	118	景行20年、②五百野皇女を遣わし、天照大 神を祭る	317	
318		15歳	20歳	21/42歳		58	88	119		318	
319		16歳	21歳	22/43歳		59	89	120		319	
320		17歳	22歳	23/44歳		60	90	121		320	
321		18歳	23歳	24/45歳	仲哀誕生年	61	91	122	景行24年、仲哀誕生	321	
322		19歳	24歳	25/46歳	景行25年、⑦武内宿禰を北陸・東方諸国の 視察へ遣わす	62	92	123	景行25年、⑦武内宿禰を北陸・東方諸国の 視察へ遣わす	322	
323		20歳	25歳	26/47歳		63	93	124		323	
324		21歳	26歳	27/48歳	景行27年、②武内宿禰帰国	64	94	125	景行27年、②武内宿禰帰国 ⑧熊襲叛き辺 境を侵す	324	
325		22歳	27歳	28/49歳		65	95	126		325	
326		23歳	28歳	29/50歳		66	96	127		326	
327		24歳	29歳	30/51歳	景行51年、①成務と武内宿禰、群卿を招いて の宴を警護し、景行に寵愛をうける ⑧成務 24歳立太子※成務紀の景行46年は誤。立太 子時が即位年	67	97	128		327	
328		成務1/25歳	30歳	52歳	景行43年、日本武尊30歳没、能褒野陵へ葬 る。武部を定める※景行43年は誤。『出雲風 土記』出雲郡建部郷に、景行が、「我が御 子、倭建命の御名を忘れまい」と建部を定 め、神門臣古祢を建部としたという 景行52年、⑤景行皇后播磨太郎姫没。⑦八 坂入媛命を皇后に立てる※景行52年は景行 年齢年の誤	68	98	129	成務1年(景行52歳年・日本武尊30歳年)、⑤ 景行皇后播磨太郎姫没。⑦八坂入媛命を皇 后に立てる。この年、日本武尊30歳没、能 褒野陵へ葬る。武部を定める	328	
329		2/26歳		53歳	景行53年、⑧景行、日本武尊を偲ぶ東国巡 幸へ ⑫帰国し、伊勢の綺宮滞在※景行53 年は年齢年の誤	69	99	130	成務2年(景行53歳年)、⑧景行、日本武尊を 偲ぶ東国巡幸へ ⑫帰国し、伊勢の綺宮滞 在	329	
330		3/27歳		54歳	景行54年、⑨景行、伊勢より倭の纏向宮へ 帰る※景行54年は年齢年の誤 成務3年、①武内宿禰を大臣とする。この 年、神功皇后誕生年?※書紀編年の神功皇 后と応神の没年齢の対比から算出	70	100	131	神功 誕生 年? (1)	成務3年(景行54歳年)、①武内宿禰を大臣と する ⑨伊勢より倭の纏向宮へ帰る。この 年、神功皇后誕生?	330

331	4/28歳	55歳	景行55年、②彦狭嶋王を東山道十五国の都督に任するが、病死し、上野国に葬られる※景行55年は年齢年の誤 成務4年、②国郡に長を立て、県邑に首を置く詔あり	71	101	132	(2)	成務4年(景行55歳年)、②国郡に長を立て、県邑に首を置く詔あり。(同月)彦狭嶋王を東山道十五国の都督に任するが、病死し、上野国に葬られる	331
332	5/29歳	56歳	景行56年、⑧彦狭嶋王の子の御諸別王に東国の統治命ずる※景行56年は年齢年の誤 成務5年、⑨諸国に令して国郡に造長を立て、県邑に稻置を置く。ともに盾矛を賜って表とする	72	102	133	(3)	成務5年(景行56歳年)、⑧彦狭嶋王の子の御諸別王に東国の統治命ずる ⑨諸国に令して国郡に造長を立て、県邑に稻置を置く。ともに盾矛を賜って表とする	332
333	6/30歳	57歳	景行57年、⑨坂手池を造る ⑩諸国に令し、田部と屯倉をおく※景行57年は年齢年の誤	73	103	134	(4)	成務6年(景行57歳年)、⑨坂手池を造る ⑩諸国に令し、田部と屯倉をおく	333
334	7/31歳	58歳	景行58年、②近江国志賀高穴穗宮へ行幸。以後三年滞在※景行58年は年齢年の誤	74	104	135	(5)	成務7年(景行58歳年)、②近江国志賀高穴穗宮へ行幸。以後三年滞在	334
335	8/32歳	59歳		75	105	136	(6)		335
336	9/33歳	60歳	景行60年、⑪景行106歳没※景行58年は年齢年の誤。106歳没は崇神19歳立太子年からの期間幅(右、皇統年補助※I)。古事記137歳没は孝霊没翌年からの期間幅(右、皇統年補助※J)	76	※I 106	※J 137	(7)	成務9年(景行60歳年)、⑪景行60歳没	336
337	10/34歳		成務2年、⑪景行を倭国の山辺道上陵へ葬る※成務2年の二年は、景行没年から埋葬年までの期間の誤?	77			(8)	成務10年、⑪景行を倭国の山辺道上陵へ葬る	337
338	11/35歳			78			(9)		338
339	12/36歳			79			(10)		339
340	13/37歳	仲哀↓ 20歳		80			(11)		340
341	14/38歳	21歳		81			(12)		341
342	15/39歳	22歳		82			(13)		342
343	16/40歳	23歳		83			(14)		343
344	17/41歳	24歳		84			(15)		②倭国が婚姻を請うたが、すでに以前に女子を嫁がせたことがあるので断った新羅本記
345	18/42歳	25歳		85			(16)		②倭王が書を送り国交を断わる新羅本記
346	19/43歳	26歳		86			(17)		倭兵が風島より進んで金城を包囲新羅本記 百済近肖古王即位
347	20/44歳	27歳	垂仁87年、②物部十千根大連、石上神宮の神宝を掌る※垂仁87年は皇統化した垂仁延長皇位年の誤(右、皇統年補助※K)	※K 87			(18)	成務20年(崇神皇統皇位87年)、②物部十千根大連、石上神宮の神宝を掌る	347
348	21/45歳	28歳	垂仁88年、⑦但馬の神宝を天日槍曾孫清彦に詔し献上させる※垂仁87年は皇統化した垂仁延長皇位年の誤(右、皇統年補助※L)	※L 88			(19)	成務21年(崇神皇統皇位88年)、⑦但馬の神宝を天日槍曾孫清彦に詔し献上させる	348
349	22/46歳	29歳		89			(20)		349
350	23/47歳	30歳	垂仁90年、②田道間守を常世国に遣わし、非時の香菓を求めさせる※垂仁87年は皇統化した垂仁延長皇位年の誤(右、皇統年補助※M)	※M 90			(21)	成務23年(崇神皇統皇位90年)、②田道間守を常世国に遣わし、非時の香菓を求めさせる	350
351	24/48歳	仲哀 31歳	成務48年、③成務の甥、仲哀31歳立太子※成務48年の48は年齢年の誤。立太子時が即位年	91			(22)	成務24年(成務48歳年)、③成務の甥、仲哀立太子	351

352		49歳		1/32歳	仲哀1年、①諸国に令して白鳥を貢せしめる 閏①越国が貢る白鳥を蒲見別王が奪い、誅される	92	121 (23)	仲哀1年、①諸国に令して白鳥を貢せしめる 閏①越国が貢る白鳥を蒲見別王が奪い、誅される		352
353		50歳		2/33歳	仲哀2年、①氣長足姫尊を皇后に立てる ②仲哀、角鹿に行幸 この月、淡路屯倉を定める ③仲哀、南国(南海道)巡幸。紀伊国に至り、徳勒津宮で熊襲が叛き朝貢せぬことから、熊襲征伐に出発し、穴門(山口県豊浦郡周辺)へ ⑦皇后、豊浦津に碇泊し如意珠を海中から得る ⑨仲哀、穴門豊浦宮を造営して滞在	93	122 (24)	仲哀2年、①氣長足姫尊を皇后に立てる ②仲哀、角鹿に行幸 この月、淡路屯倉を定める ③仲哀、南国(南海道)巡幸。紀伊国に至り、徳勒津宮で熊襲が叛き朝貢せぬことから、熊襲征伐に出発し、穴門(山口県豊浦郡周辺)へ ⑦皇后、豊浦津に碇泊し如意珠を海中から得る ⑨仲哀、穴門豊浦宮を造営して滞在	仲哀2年、熊襲征討にあたり、楯之御前社に御参向。そこで黒城の嗣子無きことを知り、日本武尊の子息長田別王を下し、黒城の女黒姫に配し給い、御子杭俣長日子王が生まれる北村某の家記	353
354		51歳		3/34歳		94	123 (25)			354
355		52歳		4/35歳		95	124 (26)			355
356		53歳		5/36歳		96	125 (27)			356
357		54歳		6/37歳		97	126 (28)			357
358		55歳		7/38歳		98	127 (29)			358
359		56歳		8/39歳	仲哀8年、①筑紫に行幸 ⑨神意に叛き熊襲征伐(未勝利)	※N 99	128 (30)			359
360		57歳		9/40歳	仲哀9年、②筑紫榎日宮において仲哀52歳没。皇后と武内宿禰、仲哀の死を隠蔽。遺体を穴門豊浦宮へ移し殯※仲哀52歳没の52は、神功摂政12年の死の隠蔽解除時の仲哀延長年齢の誤 ③皇后、齋宮に入り神主となる 同月、鴨別を遣わし熊襲国を撃つ ⑨諸国に令して船舶を集める ⑩皇后、新羅征伐に和珥津(対馬)から出立※皇后の新羅征伐は西暦364年の倭の新羅侵略の付会による神功事跡の物語化? ⑫神功、筑紫で応神を生む 垂仁99年の翌年、③田道間守、常世国から帰る※垂仁99年は皇統化した垂仁延長皇位年の誤(右、皇統年補助※N)		129 (31)	仲哀9年(崇神延長皇位99年)、②筑紫榎日宮において仲哀40歳没。皇后と武内宿禰、仲哀の死を隠蔽。遺体を穴門豊浦宮へ移し殯 ③皇后、齋宮に入り神主となる。同月、鴨別を遣わし熊襲国を撃つ 同月、田道間守が常世国から帰る ⑨諸国に令して船舶を集める ⑫神功、筑紫で応神を生む		360
361		58歳	応神 1歳 ※前年12月誕生だが慣例として神功摂政元年が1歳	神功摂政1年/(41歳)	神功摂政1年、②神功、穴門豊浦宮へ移る。麿坂王・忍熊王、播磨の赤石と淡路嶋に山陵を築くふりをして皇后を待ち伏せ、倉見別・五十狭茅宿禰が將軍として東国の兵を起こす ③武内宿禰・武振熊、忍熊王を攻撃 ⑩忍熊王・五十狭茅宿禰、入水自殺	応神年齢←1	※P 130 (32)	神功摂政1年、②神功、穴門豊浦宮へ移る。麿坂王・忍熊王、播磨の赤石と淡路嶋に山陵を築くふりをして皇后を待ち伏せ、倉見別・五十狭茅宿禰が將軍として東国の兵を起こす ③武内宿禰・武振熊、忍熊王を攻撃 ⑩忍熊王・五十狭茅宿禰、入水自殺		361
362		59歳	2歳	2年/(42歳)	神功摂政2年、①仲哀を河内国長野陵へ葬る	2	(33)	神功摂政2年、①仲哀を河内国長野陵へ葬る	神功摂政11年(仲哀皇統11年の誤)、皇后・皇太子は武内宿禰・依羅吾彦・太流美・大伴連・大伴部前後に供奉して、この地に御幸。息長田別王御先導し楯之御前社・鉾之御前社御参拜。皇后、楯之御前社を改め楯原神宮に称し奉る。また大々杼黒城・息長田別王にこの地を大神の貢の地と定め、汝王の子孫永久にこの二柱の宮の首なりとし、大々杼の姓を改めて息長の姓を賜る	362

363		60歳	3歳	3年/(43歳)	神功摂政3年、①応神3歳立太子。磐余に遷都(若桜宮) 成務60年、⑥成務107歳没※成務60年は年齢年の誤。107歳没の107は孝霊没年から成務誕生年までの106年を成務没年に取り換え、さらに埋葬年を表すために一年を加算した数値を書記編纂者が成務年齢に誤認したものか？古事記の95歳没の95は、崇神延長皇位年で推し量った成務立太子前年までの期間幅の取り換え？	3			(34)	神功摂政3年(成務60歳年)、①応神3歳立太子。磐余に遷都(若桜宮) ⑥成務60歳没		363
364			4歳	4年/(44歳)	成務没翌年、④新羅征伐? ※『新羅本記』奈勿尼師今9年4月の倭兵の大襲来の事跡が書紀仲哀9の神功新羅征伐か? ⑦百済人の久氐ら倭との通交を求め卓淳国(朝鮮慶尚北道大邱)へ至るも道がわからず帰還※神功摂政46年に卓淳国へ派遣された斯摩宿禰の記録(46年は仲哀年齢年の誤) ⑨成務を倭国の狭城盾列陵へ葬る※成務没翌年は成務60歳年の翌年	4			(35)	神功摂政4年、⑦百済人の久氐ら倭との通交を求め卓淳国(朝鮮慶尚北道大邱)へ至るも道がわからず帰還 ⑨成務を倭国の狭城盾列陵へ葬る	新羅奈勿尼師今9年、④倭兵の大襲来し、衣をまとわせた草の偶人数千を吐含山のふもとへ立て並べ、勇士一千を伏せ隠して交戦。倭人は不意をつかれて敗走し、追撃して多くを殺す新羅本記	364
365			5歳	5年/(45歳)		5	成務埋葬翌年 ↓1		(36)			365
366			6歳	6年/(46歳)	神功摂政46年、③斯摩宿禰を卓淳国へ派遣。斯摩宿禰、甲子の年(364)に百済の久氐ら倭王との通交を求めため卓淳国まで至るを聴き、百済へ爾波移を遣わす※神功摂政46年の46は皇統化した仲哀年齢年の誤	6	2		(37)	神功摂政6年(仲哀皇統46歳年)、③斯摩宿禰を卓淳国へ派遣。斯摩宿禰、甲子の年(364)に百済の久氐ら倭王との通交を求めため卓淳国まで至るを聴き、百済へ爾波移を遣わす	③新羅へ百済人来聘新羅本記	366
367			7歳	7年/(47歳)	神功摂政47年、④百済の王、久氐らを遣わし朝献。このとき新羅国も同行したが、事前に百済の貢物を奪い偽装して朝献。千熊長彦を新羅へ遣わし、献物を濫したことを責める※神功摂政47年の47は皇統化した仲哀年齢年の誤 応神7年、⑨高麗・百済・任那・新羅が来朝。そのとき武内宿禰に命じて池(韓人池)を造らせる※応神7年は武内宿禰の存在より神功摂政7年の誤認と思われ、仲哀皇統47歳年に糺すべき上段の神功摂政47年4月の百済・新羅の朝献と関係。なおこの段は、古事記では「また、新羅人まい渡り来つ。ここを以ちて建内の宿禰の命、引き率て、堤の池に渡りて、百済の池を作りき」とあり、百済の貢物を奪った罰として新羅に池を作らせ百済池と命名したように推測できる 菟道稚郎子誕生年	7	3		(38)	神功摂政7年(仲哀皇統47歳年)、④百済の王、久氐らを遣わし朝献。このとき新羅国も同行したが、事前に百済の貢物を奪い偽装して朝献。千熊長彦を新羅へ遣わし、献物を濫したことを責める ⑨新羅が来朝し、武内宿禰が率いて百済池を造らせる(⑨古事記)。この年、菟道稚郎子誕生		367
368			8歳	8年/(48歳)		8	4		(39)		百済、新羅へ遣使して良馬二匹献上新羅本記 神功摂政8年、春住吉御幸のとき、楯之前社・鉾之御前社に神籬を立てて祭る。同時に武内大臣勅使として楯之御前社に参向し、別に社殿を造建。そのため息長田別王は南方に室を築き、百々石城と号し移り住む北村某の家記	368

369			9歳	9年/(49歳)	<p>神功摂政49年、③荒田別と鹿我別を将軍とした。そして久氐らとともに兵をととのえて海を渡って卓淳国へ至り、新羅を襲撃しようとした。ある人の沙白・蓋盧をたてまつっての軍士を増すべきとの要請をうけ、木羅斤資と沙沙奴跪に命じ、精兵を率いて沙白・蓋盧と一緒に遣わした。ともに卓淳に集まり、新羅を撃破。そして、七つの国を平定。古奚津に至り、百済王肖古(近肖古の誤認)と王子貴須が、また軍を率いて来会した。そのとき四つの邑が自然に降伏した。こうして百済王の親子と荒田別・木羅斤資らは、とも意流村で会い、喜びを共にした。その後、千熊長彦と百済王だけが百済国に至り、辟支山に登り盟った。また古沙山に登り、山上の磐石において、永遠にして朽ちない固き盟を行った※神功摂政 46年の46は皇統化した仲哀年齢年の誤。神功皇后の三韓征伐は、本事跡が、摂政元年の筑紫から畿内へ入る神功皇后の事跡に付会し、逸話化したものと思われる。なお、本事跡は石上神宮伝来品七支刀の由緒と深くかかわっている</p> <p>応神9年、④武内宿禰を筑紫へ遣わし、百姓を監察。そのとき武内宿禰の弟の甘美内宿禰、兄を廃するため応神に讒言※応神9年は応神7年と連動し、武内宿禰の存在より神功摂政9年の誤認。なお、武内宿禰の筑紫への派遣は、百姓を監察を目的としたものではなく、將軍荒田別や千熊長彦の動向と関係していることが類推できる</p>	9	5	(40)	<p>神功摂政9年(仲哀皇統49歳年)、③荒田別と鹿我別を将軍とした。そして久氐らとともに兵をととのえて海を渡って卓淳国へ至り、新羅を襲撃しようとした。ある人の沙白・蓋盧をたてまつっての軍士を増すべきとの要請をうけ、木羅斤資と沙沙奴跪に命じ、精兵を率いて沙白・蓋盧と一緒に遣わした。ともに卓淳に集まり、新羅を撃破。そして、七つの国を平定。古奚津に至り、百済王肖古(近肖古の誤認)と王子貴須が、また軍を率いて来会した。そのとき四つの邑が自然に降伏した。こうして百済王の親子と荒田別・木羅斤資らは、とも意流村で会い、喜びを共にした。その後、千熊長彦と百済王だけが百済国に至り、辟支山に登り盟った。また古沙山に登り、山上の磐石において、永遠にして朽ちない固き盟を行った ④武内宿禰を筑紫へ遣わし、百姓を監察。そのとき武内宿禰の弟の甘美内宿禰、兄を廃するため応神に讒言 ⑤百済貴須王子、七支刀鍛造(⑤七支刀銘文)</p>	<p>⑨高句麗王が2万の兵で百済侵略。百済王太子を遣わして撃破し、5千人を捕虜とする百済本記・石上神宮伝来品七支刀銘文「泰和四年(369)五月十六日、先世以来 未有此刀 百滋王世? 奇生聖音 故為倭王旨造 伝示後世…先世以来いまだこのような刀はない 百済王世子(皇太子)の奇生聖音(貴須王子)は倭王旨のために造った後世まで伝えられんことを百済から」※倭王へ送られたもので、この頃百済は高句麗や新羅と抗争中で後背支援として倭国との同盟を求めるものと推定。倭王は、百済皇子から倭の皇子への性格から神功摂政期の応神と考えられる</p>	369
370			10歳	10年/(50歳)	<p>神功摂政50年、②荒田別ら帰還 ⑤千熊長彦・久氐らが百済より帰国。そこで久氐より百済王の意を告げられた神功皇后は喜び、多沙城を百済へ賜わり往還の路の駅とさせる※神功摂政 50年の50は皇統化した仲哀年齢年の誤</p> <p>仁徳50年、③天皇、茨田堤に鷹が子を産んだことを歌にて武内宿禰に問う※仁徳50年の50は皇統化した仲哀年齢年の取り違え</p>	10	6	(41)	<p>神功摂政10年(仲哀皇統50歳年)、②荒田別ら帰還 ③天皇、茨田堤に鷹が子を産んだことを歌にて武内宿禰に問う ⑤千熊長彦・久氐らが百済より帰国。そこで久氐より百済王の意を告げられた神功皇后は喜び、多沙城を百済へ賜わり往還の路の駅とさせる</p>	<p>百済王、高句麗の拳兵を聞き、伏兵をもって撃退百済本記 神功摂政50年(仲哀皇統50歳年の誤)、息長田別王没北村某の家記※息長田別王、日本武尊28歳の子とした場合、45歳没</p>	370
371			11歳	11年/(51歳)	<p>神功摂政51年、③百済王、久氐を遣わし朝貢。神功皇后、たとえ死後であっても百済へあつく恩恵を加えることを武内宿禰に命ずる。千熊長彦を久氐らに付き添わせ百済へ遣わす※神功摂政 51年の51は皇統化した仲哀年齢年の誤</p>	11	7	(42)	<p>神功摂政11年(仲哀皇統51歳年)、③百済王、久氐を遣わし朝貢。神功皇后、たとえ死後であっても百済へあつく恩恵を加えることを武内宿禰に命ずる。千熊長彦を久氐らに付き添わせ百済へ遣わす</p>	<p>冬、百済3万の兵で高句麗を攻撃。高句麗故国原王が流れ矢にあたり戦死百済本記 神功摂政51年(仲哀皇統51歳年の誤)、応神に杭俣長日子王の女息長真若中女命、皇妃として仕え奉られる北村某の家記</p>	371
372			12歳	12年/(52歳)	<p>神功摂政52年、⑨久氐ら千熊長彦に従い来朝。七枝刀一口・七子鏡一面および種々の重宝献上※神功摂政52年の52は皇統化した仲哀年齢年の誤</p>	12	8	(43)	<p>神功摂政12年(仲哀皇統52歳年)、⑨久氐ら千熊長彦に従い来朝。七枝刀一口・七子鏡一面および種々の重宝献上</p>	<p>神功摂政12年、大々埴黒城墓去北村某の家記</p>	372
373			13歳	13年/(53歳)	<p>神功摂政13年、②応神、角鹿の筥飯大神に参拝※以後、仲哀の死を公表し、神功皇后の摂政の性格が応神へ移行。年号表記は、仲哀の年齢年を皇統化して用いる</p>	13	9	(44)	<p>神功摂政13年、②応神、角鹿の筥飯大神に参拝</p>	<p>神功摂政53年(仲哀皇統53歳年の誤)、息長杭俣王百々石城内に大殿舎を造り、ここに弟女伊呂辦王を挙げ北村某の家記※大殿舎造営は前年に献上された七枝刀と関係か? なお、この時期、弟女伊呂辦王はいまだ誕生しておらず、後代の事跡の付加か?</p>	373

374			14歳	仲哀皇統 54歳年		14	10	(45)			374
375			15歳	55歳年	神功摂政55年、百済の肖古王没※5代肖古王は13代近肖古王の誤。神功摂政55年の55は皇統化した仲哀年齢年の誤	15	11	(46)	仲哀皇統55歳年、百済の近肖古王没	⑪近肖古王没。近仇首王(須)即位 神功摂政55年(仲哀皇統55歳年の誤)、応神、妃の息長真若中女命を誘い百々石城宮に御幸し、新たに造営した大殿に請じ奉り、両社に御参拝。応神、大殿の名を紫止雲殿と命じ給える北村某の家記	375
376			16歳	56歳年		16	12	(47)		神功摂政56年(仲哀皇統56歳年の誤)、皇妃息長真若中女命御妊娠により、別に産屋を造り若沼毛二俣王生れる北村某の家記	376
377			17歳	57歳年		17	13	(48)			377
378			18歳	58歳年		18	14	(49)			378
379			19歳	59歳年		19	15	(50)			379
380			20歳	60歳年		20	16	(51)		神功摂政20年(応神20歳年の誤)、応神、両社に御参詣。息長杭俣長日子王が益郎女を娶り飯野真黒女命生れる北村某の家記	380
381	仁徳 1歳		21歳	61歳年	仁徳誕生年※古事記の応神から允恭の没干支年と生涯年齢より組み上げた、子の誕生年に対する親の年齢比較より抽出	21	17	(52)	仲哀皇統61歳年、仁徳誕生年		381
382		2歳	22歳	62歳年	神功摂政62年、この年、新羅朝貢せず。新羅を討つため襲津彦を遣わすが、新羅と通じ、逆に加羅を討つ※神功摂政62年の62は皇統化した仲哀年齢年の誤	22	18	(53)	仲哀皇統62歳年、この年、新羅朝貢せず。新羅を討つため襲津彦を遣わすが、新羅と通じ、逆に加羅を討つ	神功摂政62年(仲哀皇統62歳年の誤)、応神御幸、両社参拝。紫止雲殿に御し、国平の鉾はこれを倭に遷さんと、楯原の社殿に二柱相殿として鎮祭せよ杭俣長日子王に命じ、御鉾を持ち帰る。鉾の代わりに小松を楯原神社の庭に植え、大枝小枝拡張して鉾のごとく繁栄せよと。これ応神天皇御手植えの御鉾松と称す※七枝刀の忍坂(河内息長氏の地)から石上への移動を推測させる記事。百済献上からちようど10年目北村某の家記	382
383		3歳	23歳	63歳年		23	19	(54)			383
384		4歳	24歳	64歳年		24	20	(55)		百済近仇首王没、忱流王即位	384
385		5歳	25歳	65歳年	仁徳65年、難波根子武振熊を遣わし、飛驒国の宿儺を殺す※仁徳65年の65は武振熊の存在より仲哀年齢年の誤	25	21	(56)	仲哀皇統65歳年、この年、難波根子武振熊を遣わし、飛驒国の宿儺を殺す	百済忱流王没、辰斯王即位	385
386		6歳	26歳	66歳年		26	22	(57)			386
387		7歳	27歳	67歳年		27	23	(58)			387
388		8歳	28歳	68歳年		28	24	(59)			388
389		9歳	29歳	69歳年	神功摂政69年、④神功皇后100歳没※神功皇后100歳没は60歳?の誤(右、皇統年補助※〇)。神功皇后の死により摂政期間消滅し、翌年から応神皇位年が発生。神功摂政69年の69は皇統化した仲哀年齢年の誤	29	25	※ 〇 (60)	仲哀皇統69歳年、④神功皇后60歳?没	神功摂政69年(仲哀皇統69歳年の誤)、神功皇后崩御し、息長杭俣王78歳にして御大葬に供奉北村某の家記※書紀の編年観で神功摂政69から仲哀2年まで77年。78歳はそうした編年観の誤認で、実際は37歳	389
390		10歳	応神1/30歳			30	26	応神皇位年 ←1			390
391		11歳	2/31歳		応神2年、③仲姫を皇后に立てる	31	27	2	応神2年、③仲姫を皇后に立てる	倭軍が百済・加羅・新羅を攻撃し服属させる広開土碑銘	391



392	12歳		3/32歳	応神3年、⑩東の蝦夷がごととく朝貢 ⑪方々の海人が騒ぎ、大浜宿禰を遣わして平定し、海人の統率者とする この年、百済辰斯王に非礼があり、紀角宿禰・羽田矢代宿禰・石川宿禰・木菟宿禰を遣わし詰責。百済は辰斯王を殺して謝罪し、阿花王を立てる※百済辰斯王の非礼は、この時期続発した高句麗の百済侵略と関係か?	32	28	3	応神3年、⑩東の蝦夷がごととく朝貢 ⑪方々の海人が騒ぎ、大浜宿禰を遣わして平定し、海人の統率者とする この年、百済辰斯王に非礼があり、紀角宿禰・羽田矢代宿禰・石川宿禰・木菟宿禰を遣わし詰責。百済は辰斯王を殺して謝罪し、阿花王を立てる(百済辰斯王の非礼は、この時期続発した高句麗の百済侵略と関係か?)	⑦高句麗、百済北部を攻め、十余城を落とす百済本記 ⑩高句麗、り関弥城攻略 阿莘王即位	392
393	13歳		4/33歳		33	29	4		⑤倭人が来て金城を包囲新羅本記	393
394	14歳		5/34歳	応神5年、⑧諸国に令して山守部を定める ⑩伊豆国に造船を科し枯野と名付ける	34	30	5	応神5年、⑧諸国に令して山守部を定める ⑩伊豆国に造船を科し枯野と名付ける		394
395	15歳		6/35歳	応神6年、②応神、近江へ行幸	35	31	6	応神6年、②応神、近江へ行幸	神功撰政35年(応神35歳年の誤)、応神、両社に御参詣。以後毎年両社に勅使参向北村某の家記※菟道稚郎子懐妊と関係か?	395
396	16歳	菟道稚郎子1歳	7/36歳	菟道稚郎子誕生年※420年の百済腆(直)支王没、久爾辛王即位を応神25年とする25が、菟道稚郎子25歳年の誤認であることより算出	36	32	7	応神7年、菟道稚郎子誕生年	高句麗、百済を撃ち、58城・700村を奪い、百済王弟を人質とする高句麗本記 百済が倭に臣従したため、高句麗が百済討伐広開土碑銘	396
397	17歳	2歳	8/37歳	応神8年、③百済人来朝	37	33	8	応神8年、③百済人来朝 ⑤百済阿莘王、倭と友好を結び、太子の腆(直)支を人質として倭へ送る(⑤百済本記)	⑤百済阿莘王、倭と友好を結び、太子の腆(直)支を人質として倭へ送る百済本記 応神8年、息長真若中女命・若沼毛二侯王御幸あり、楯原神社に参拜。紫止雲殿にて抗倭長日子王は息長真若中女命に世継ぎ無きことを告げ、若沼毛二侯王を下し賜うことを乞う。のち天皇に奏せられ、御聴許により若沼毛二侯王は百々石城に下り、弟女真若伊呂辨王を配され息長氏を継ぐ。御子大郎子、一名大々杼王は地を名に負わせたもの北村某の家記	397
398	18歳	3歳	9/38歳		38	34	9		高句麗、百済東北の肅慎に軍を派遣して、300余の捕虜を獲得し、朝貢を促す高句麗本記	398
399	19歳	4歳	10/39歳	応神39年、②腆(直)支が妹の新齊都媛を遣わし仕えさせる※腆支は人質として倭に滞在中なので、妹媛を呼び寄せたもので、広開土碑の「百済が違約して倭と通じ、新羅が高句麗へ援助を乞う」と関係か? なお、書紀では応神25年に腆(直)支王没としながら応神39年に腆(直)支王が新齊都媛を倭へ遣わしたとして矛盾が生じている。 応神39年の39は応神年齢年の誤	39	35	10	応神10年(応神39歳年)、②腆(直)支が妹の新齊都媛を呼び寄せ仕えさせる	百済が違約して倭と通じ、新羅が高句麗へ援助を乞う広開土碑銘	399
400	20歳	菟道稚郎子5歳	11/40歳	応神11年、⑩剣池・軽池・鹿垣池・厩坂池を作る この年、応神、日向国の長髪媛を聴き知る 応神40年、①菟道稚郎子立太子。仁徳を補佐として国事を治めさせ、大山守命には山川林野を掌らせる※仁徳の国事補助により、菟道稚郎子に対する仁徳の摂政状態が出現。 応神40年の40は応神年齢年の誤	40	36	11	応神11年(応神40歳年)、①菟道稚郎子立太子。仁徳を補佐として国事を治めさせ、大山守命には山川林野を掌らせる ⑩剣池・軽池・鹿垣池・厩坂池を作る。 この年、応神、日向国の長髪媛の存在を聴き知る	高句麗王、歩騎五万を遣わして新羅を救わせる。 男居城より新羅城まで倭、そのなかに満つ。高句麗兵至るや、倭賊退く広開土碑銘 応神40年(応神40歳年の誤)、抗倭長日子王薨去118歳北村某の家記※書紀の編年観で仲哀2年より 応神40歳年まで117年。118歳はそうした誤認と思われ、実際は48歳	400

401	21歳	6歳	(12)/41歳	<p>応神41年、②応神110歳没。この年、仁徳が大山守皇子の帝位に登ろうとする謀反を察知し、菟道稚郎子に告げて殺害し那羅山へ葬る※応神41年の41は応神年齢年の誤。110歳没は書紀編年の誤。古事記の応神130歳没は、崇神皇位元年から推し量った応神誕生年までの期間幅の誤?(右、応神1歳に相当する皇統年補助※P)</p>	41	37	12	<p>応神12年(応神41歳年)、②応神41歳没。この年、仁徳が大山守皇子の帝位に登ろうとする謀反を察知し、菟道稚郎子に告げて殺害し那羅山へ葬る。</p>	<p>⑦高句麗の質となっていた実聖が新羅に帰国新羅本紀      応神41年(応神41歳年の誤)、応神天皇薨去。若沼毛二俣王が応神の神霊を紫止雲殿に遷座して祭り、皇后息長真若中女命が同殿において故天皇の玉座大前に奉仕北村某の家記</p>	401
402	22歳	7歳	(13)/……	<p>応神13年、③長髪媛召され、桑津邑(大阪市住吉区)へ置かれ、そののち仁徳と対面※応神13年は応神没後の応神皇統年。以後、菟道稚郎子に対する仁徳の本格的な摂政期間に入り、年号表記には応神皇位年の延長が用いられる      仁徳22年、①仁徳、皇后(磐之媛命)に八田皇女を妃とすることを告げるが不許可※菟道稚郎子同母妹の八田皇女はこの時期まだ幼く、記述の八田皇女は書紀編纂者による長髪媛との取り違えと思われ、本来は葛城氏(磐之媛命は葛城襲津彦の女)ら大和系と長髪媛の日向系の仁徳の正妃を争う権力闘争?。仁徳22年は仁徳22歳年の誤</p>	(42)	38	13	<p>応神皇統13年(仁徳22歳年)、①磐之媛命と日向長髪媛、仁徳の正妃を争う? ③長髪媛召され、桑津邑(大阪市住吉区)へ置かれ、そののち仁徳と対面</p>	<p>③新羅、倭国と通好し奈勿王の子、未斯欣を人質として倭へ送る新羅本記 ⑤百濟、倭国に遣使し大珠を求める百濟本記</p>	402
403	23歳	8歳	(14)/……	<p>応神14年、②百濟王が縫衣工女を奉る この年、弓月君が百濟より来帰。新羅人の妨害で加羅国に留まる弓月夫人らを召すため、葛城襲津彦を遣わすが帰還せず※応神14年は応神没後の皇統年</p>	(43)	39	14	<p>応神皇統14年、②百濟王が縫衣工女を奉る。この年、弓月君が百濟より来帰。新羅人の妨害で加羅国に留まる弓月夫人らを召すため、葛城襲津彦を遣わすが帰還せず</p>	<p>②倭国の使者をもてなす百濟本記</p>	403

404	24歳	9歳	(15)/……		<p>応神15年、⑧百済王、阿直岐を遣わし良馬二匹献上。阿直岐、馬の飼育とともに菟道稚郎子の經典の師となる。そのご荒田別と巫別を百済へ遣わし王仁を召す※応神15年は応神没後の皇統年</p> <p>雄略8年、(a)新羅朝献せず。日本を恐れ新羅が高麗と結び、高麗兵に新羅を守らせる→(b)新羅、侵略せんとする高麗の謀略を知り、高麗兵惨殺→(c)逃げ帰った一人の兵より事態を聞いた高麗王が派兵→(d)新羅王、任那に遣使して、日本府行軍元帥等に救援を求める→(e)任那王、膳臣斑鳩・吉備臣小梨・難波吉士赤目子を推挙して新羅へ派遣し、高麗軍を討ち破り、今後新羅が日本へ背くことが無いよう告げる※雄略8年のこの部分以外の記述は、書紀編年観にもとづく464年「甲辰」の干支年に、さらに「甲辰」の干支を一巡り誤認して60年遡らせた404年の事跡の誤挿入。出典は後の任那日本府などに遺された、国外記録と思われる。(a)は399年の「百済が違約して倭と通じ、新羅が高句麗へ援助を乞う」(広開土碑銘)と関係。(b)は400年の「高句麗、新羅を援助し、倭軍を任那へ追撃」(広開土碑銘)の後のこととして、401年7月の高句麗の質となっていた実聖が新羅に帰国(新羅本紀)と関係。(d)は402年3月の「新羅、倭国と通好し奈勿王の子、未斯欣を人質として倭へ送る」(新羅本記)と関係。(e)は「高麗軍を討ち破り」は異なるが、本年にあたる「倭軍、百済と合わせて帯方郡近くまで進軍し、南下してきた高句麗と激戦。倭、潰敗」(広開土碑銘)と関係</p>	(44)	40	15	<p>応神皇統15年、⑧百済王、阿直岐を遣わし良馬二匹献上。阿直岐、馬の飼育とともに菟道稚郎子の經典の師となる。そのご荒田別と巫別を百済へ遣わし王仁を召す。この年、高句麗に対する新羅の救援要請にもとづき、任那王、膳臣斑鳩・吉備臣小梨・難波吉士赤目子を推挙して新羅へ派遣し、高句麗と激戦</p>	倭軍、百済と合わせて帯方郡近くまで進軍し、南下してきた高句麗と激戦。倭、潰敗(広開土碑銘)	404	
405	25歳	10歳	(16)/……	履中	<p>1歳</p> <p>応神16年、②王仁が来朝し、菟道稚郎子の師となる ⑧新羅の妨害のため加羅国に留まる襲津彦と弓月夫人らのため、平群木菟宿禰・的戸宿禰を遣わし帰朝させる※応神16年は応神没後の皇統年</p> <p>履中誕生年※古事記の応神から允恭の没干支年と生涯年齢より組み上げた、子の誕生年に対する親の年齢比較より抽出</p>	(45)	41	16	<p>応神皇統16年、②王仁が来朝し、菟道稚郎子の師となる ⑧新羅の妨害のため加羅国に留まる襲津彦と弓月夫人らのため、平群木菟宿禰・的戸宿禰を遣わし帰朝させる。この年、履中誕生</p>	④倭兵が明活城を攻める新羅本記 ⑨腆(直)支太子は倭国で阿莘王の訃報を聞き、哭泣して帰国を請う。倭王、兵士百名を伴わせ護送(百済本記) 阿莘王没、腆(直)支王即位	405	
406	26歳	11歳	(17)/……		2歳	(46)	42	17			406	
407	27歳	12歳	(18)/……		3歳	(47)	43	18		倭人三月に東辺を六月に南辺を攻める新羅本記 高句麗五万の大軍を発して百済を攻撃し、倭済連合軍撃破(広開土碑銘)	407	
408	28歳	13歳	(19)/……		4歳	(48)	44	19	<p>応神19年、⑩吉野宮へ行幸。国樺人来朝し、醴酒献上※応神19年は応神没後の皇統年</p>	<p>応神皇統19年、⑩吉野宮へ行幸。国樺人来朝し、醴酒献上</p>	②新羅王、倭人が対馬に軍営を置き、兵と軍需品を蓄えて国を襲おうとしている事を聞く新羅本記	408
409	29歳	14歳	(20)/……		5歳	(49)	45	20	<p>応神20年、⑨阿知使主と子の都加使主、自己の党類十七県を率いて来期※応神20年は応神没後の皇統年</p>	<p>応神皇統20年、⑨阿知使主と子の都加使主、自己の党類十七県を率いて来期</p>	倭国、百済に遣使して夜明珠送る(百済本記)	409
410	30歳	15歳	(21)/……		6歳	(50)	46	21	<p>仁徳30年、⑨皇后(磐之媛命)、紀国に行幸。仁徳が八田皇女を宮中に召したことを聞き、筒城岡の南に宮室をつくり住み帰らず ⑩仁徳、口持臣を遣わし皇后を召そうとするがかなわず ⑪仁徳、山背より筒城宮へ行幸するも、皇后会わず※八田皇女は長髪媛の誤。仁徳30年は仁徳年齢年の誤</p>	<p>応神皇統21年(仁徳30歳年)、⑨皇后(磐之媛命)、紀国に行幸。仁徳が八田皇女を宮中に召したことを聞き、筒城岡の南に宮室をつくり住み帰らず</p>		410

411	31歳	16歳	(22)/……	7歳	応神22年、③難波へ行幸 ④兄媛、大津より出帆して吉備へ帰る ⑨淡路嶋で狩をする。そのご吉備から小豆嶋へ。葉田の葦守宮で兄媛の兄の御友別の兄弟子孫を膳夫とし、吉備国を割いてそれぞれに封ずる※応神22年は応神没後の皇統年	(51)	47	22	応神皇統22年、③難波へ行幸 ④兄媛、大津より出帆して吉備へ帰る ⑨淡路嶋で狩をする。そのご吉備から小豆嶋へ。葉田の葦守宮で兄媛の兄の御友別の兄弟子孫を膳夫とし、吉備国を割いてそれぞれに封ずる		411
412	32歳	17歳	(23)/……	8歳		(52)	48	23			412
413	33歳	18歳	(24)/……	9歳	允恭誕生年※古事記の応神から允恭の没干支年と生涯年齢より組み上げた、子の誕生年に対する親の年齢比較より抽出	(53)	49	24	応神皇統24年、允恭誕生	倭王讚、東晋(義熙9年)に方物を献ず晋書・梁書・南史	413
414	34歳	19歳	(25)/……	10歳	反正誕生年※古事記の応神から允恭の没干支年と生涯年齢より組み上げた、子の誕生年に対する親の年齢比較より抽出	(54)	50	25	応神皇統25年、反正誕生		414
415	35歳	20歳	(26)/……	11歳	仁徳35年、⑥皇后磐之媛命、筒城宮で没※仁徳35年は仁徳年齢年の誤	(55)	51	26	応神皇統26年(仁徳35歳年)、⑥皇后磐之媛命、筒城宮で没	⑧新羅、風島で倭人と戦い勝つ新羅本記	415
416	36歳	21歳	(27)/……	12歳		(56)	52	27			416
417	37歳	22歳	(28)/……	13歳	仁徳37年、⑪皇后磐之媛命を乃羅山へ葬る※仁徳37年は仁徳年齢年の誤	(57)	53	28	応神皇統28年(仁徳37歳年)、⑪皇后磐之媛命を乃羅山へ葬る		417
418	38歳	23歳	(29)/……	14歳	仁徳38年、①仁徳、八田皇女を皇后に立てる※仁徳37年は仁徳年齢年の誤	(58)	54	29	応神皇統29年(仁徳38歳年・応神皇統58歳年)、①仁徳、八田皇女を皇后に立てる	高句麗と倭国への人質が逃げ帰った(秋王弟末斯欣自倭国逃還)新羅本記 使者を倭国に遣わし白綿十反を送る百濟本記	418
419	39歳	24歳	(30)/……	15歳		(59)	55	30			419
420	40歳	25歳	(31)/……	16歳	応神31年、⑧官船「枯野」を薪として作られた塩を諸国に賜い、船を造らせる※応神31年は応神没後の皇統年 応神25年、③腆(直)支王没。子の久爾辛立つ※応神25年の25は菟道稚郎子の年齢年の誤 仁徳40年、②仁徳、雌鳥皇女を召そうとするが、仲立ちの隼別皇子が叛いて娶り、二人殺害される。この年の新嘗の月、雌鳥皇女の珠を奪ったことが発覚し、阿俄能胡が私地を献上して死罪を贖う ※仁徳40年は仁徳年齢年の誤	(60)	56	31	応神皇統31年(菟道稚郎子25歳年・応神皇統60歳年・仁徳40歳年)、②仁徳、雌鳥皇女を召そうとするが、仲立ちの隼別皇子が叛いて娶り、二人殺害される。この年の新嘗の月、雌鳥皇女の珠を奪ったことが発覚し、阿俄能胡が私地を献上して死罪を贖う ③腆(直)支王没。子の久爾辛立つ ⑧官船「枯野」を薪として作られた塩を諸国に賜い、船を造らせる	③百濟腆(直)支王没、久爾辛王即位。この年、東晋滅び、南宋王朝樹立。讚に服属する百濟王余映、鎮東將軍から鎮東大將軍に、また倭と覇権を争う高句麗王高璉、征東將軍から征東大將軍に軍号を進める	420
421	41歳	26歳	(32)/……	17歳	仁徳41年、③紀角宿禰を百濟に遣わし、産物を録す。そのとき、百濟王族の酒君に無礼があり襲津彦にしたがわせて進上。酒君、日本にて石川錦織首許呂斯の家へ逃げ隠れるが、久しくして仁徳は罪を許す※仁徳41年は仁徳年齢年の誤	(61)	57	32	応神皇統31年(仁徳41歳年)、③紀角宿禰を百濟に遣わし、産物を録す。そのとき、百濟王族の酒君に無礼があり襲津彦にしたがわせて進上。酒君、日本にて石川錦織首許呂斯の家へ逃げ隠れるが、久しくして仁徳は罪を許す	武帝、宋朝樹立にともない、倭讚に除授、安東將軍・倭国王称号宋書	421
422	42歳	27歳	(33)/……	18歳		(62)	58	33			422
423	43歳	28歳	(34)/……	19歳	応神28年、⑨菟道稚郎子、高麗王の使者のもたらした上表に非礼があり、破棄※応神28年の28は菟道稚郎子の年齢年の誤 仁徳43年、⑨依網屯倉の阿弭古がめずらしい鳥(鷹)を献上。百舌鳥野へ遊獵。鷹甘部を定める※仁徳43年は仁徳年齢年の誤	(63)	59	34	応神皇統34年(菟道稚郎子28歳年・仁徳43歳年)、⑨菟道稚郎子、高麗王の使者のもたらした上表に非礼があり、破棄。同月、依網屯倉の阿弭古がめずらしい鳥(鷹)を献上。百舌鳥野へ遊獵。鷹甘部を定める	高句麗太武帝	423
424	44歳	29歳	(35)/……	20歳		(64)	60	35			424
425	45歳	30歳	(36)/……	21歳		(65)	61	36		讚、表を奉じて方物を献ず宋書	425

426	46歳	31歳	(37)/……	22歳	<p>応神37年、②阿知使主と都加使主を呉に遣わし、縫工女を求めさせる※これにつづく書紀の記事は経過記録で、高麗へ渡り、呉への案内人を要請し、呉に至り、呉の王が工女四人を与えた、とある。この記事が最後の事跡の時点であれば、出発は前年とみて、宋書425年の「讚、表を奉じて方物を献ず」との関係が問われ、「讚＝阿知使主」という推測も現れてくる。 応神20年は応神没後の皇統年 応神41年の「この月(2)」、阿知使主ら帰国。津の国へ至るとき天皇没する。 <b>この年</b>、額田大中彦皇子、倭の屯田と屯倉を掌ろうと屯田司淤宇宿禰と争う※本来、本欄前段の応神37年2月の記事記録と一体化していたものを、「天皇没」を論拠に、書記編纂者が応神没年(応神41年)に誤認分割。「天皇没」は菟道稚郎子を指す</p>	(66)	62	37	<p>応神皇統37年、②阿知使主と都加使主を呉に遣わし、縫工女四人を賜い帰国。津の国へ至るとき菟道稚郎子没する。 <b>この年</b>、菟道稚郎子31歳没。 額田大中彦皇子、倭の屯田と屯倉を掌ろうと屯田司淤宇宿禰と争う</p>		426	
427	仁徳1/47歳		(38)/……	23歳	<p>仁徳1年、①難波に遷都し、高津宮造営 仁徳67年、⑩河内の石津原に行幸し、陵地を定める※仁徳67年は皇統化した応神年齢年の誤</p>	※Q (67)	63	38	<p>仁徳皇位年 ←1 仁徳1年(応神皇統67歳年)、①難波に遷都し、高津宮造営 ⑩河内の石津原に行幸し、陵地を定める</p>		427	
428	2/48歳		(39)/……	24歳	<p>仁徳2年、③磐之媛命を皇后に立てる 応神41年、③淡路の海人80人を召し、水主として淤宇を韓国へ遣わし、吾子籠を召還。額田大中彦皇子敗訴※この記事は応神22年と仁徳即位前紀の応神41年にほぼ同文の記事があるが、応神22年の兄媛の吉備帰国に際しての「淡路の海人80人」と関係付ける前者は書記編纂者の誤りで、本来は後者の額田大中彦と淤宇宿禰の争による韓国への吾子籠召還に伴う事績で、百濟本記の「倭国の使者が来た、随行者五十名」が事跡年を正確に表わす?</p>	(68)	64	39	2	<p>仁徳2年、③磐之媛命を皇后に立てる。 同月、③淡路の海人80人を召し、水主として淤宇を韓国へ遣わし、吾子籠を召還。額田大中彦皇子敗訴</p> <p>倭国の使者が来た、随行者五十名 百濟本記 仁徳2年、息長真若中女命、紫止雲殿にて崩御、82歳※82は誤認で実際は70歳頃か? 神霊を紫止雲殿へ祭る北村某の家記</p>		428
429	3/49歳			25歳		(69)	65	40	3			429
430	4/50歳			26歳	<p>仁徳4年、②詔あり ③三年間の課役免除の詔</p>	(70)	66	41	4	<p>仁徳4年、②詔あり ③三年間の課役免除の詔</p>	倭国王、宋に方物を献ず 宋書	430
431	5/51歳			27歳		(71)	67	42	5		④倭兵東辺を攻め、明活城を包圍したが功なく退く 新羅本記	431
432	6/52歳			28歳	<p>履中1年、⑦葦田宿禰の女の黒媛を皇妃に立てる※履中1年は誤(履中1年⑦)※参照) 履中6年、①草香幡皇女を皇后に立てる※この記事は本来、履中の妃となった時点の草香幡皇女を伝えるものとして、②とともに仁徳6年の誤認? ②鯽魚磯別王の女の太姫郎姫・高鶴郎姫を後宮へ召す ※なお、これら履中期の誤認は、書記編纂者による編年観にもとづく操作上の誤認</p>	(72)	68	43	6	<p>仁徳6年、①履中、草香幡皇女を妃に立てる ②履中、鯽魚磯別王の女の太姫郎姫・高鶴郎姫を後宮へ召す ⑦履中、葦田宿禰の女の黒媛を妃に立てる</p>		432

433	7/53歳			29歳	仁徳7年、⑧壬生部・葛城部を定める※壬生部は履中誕生に伴うもの、また葛城部は仁徳皇后磐之媛命のものとするが、これは誤りで、履中第1皇子市辺押磐誕生と履中皇后の葛城葦田宿禰の女の黒媛に与えられた部仁徳53年、新羅が朝貢せず ⑤上毛野君の祖竹葉瀬を遣わし、不朝貢を問わせる。日を改め竹葉瀬弟の田道を派遣するが、交戦のうえ四邑の人民をとらえ帰還の時点とすれば、新羅本記431年の「倭兵東辺を攻め、明活城を包圍したが功なく退く」との関係が指摘できる。仁徳53年は仁徳年齢年の誤	(73)	69	44	7	仁徳7年(仁徳53歳年)、新羅が朝貢せず ⑤上毛野君の祖竹葉瀬を遣わし、不朝貢を問わせる。日を改め竹葉瀬弟の田道を派遣するが、交戦のうえ四邑の人民をとらえ帰還 ⑧壬生部・葛城部を定める	⑦百済が新羅と和親同盟を結ぶ百済本記・新羅本記	433
434	8/54歳	允恭 ↓ 22歳	反正 ↓ 21歳	30歳		(74)	70	45	8			434
435	9/55歳	23歳	22歳	31歳	仁徳55年、蝦夷が叛き田道を遣わして討伐。田道敗死※仁徳53年は仁徳年齢年の誤	(75)	71	46	9	仁徳9年(仁徳55歳年)、蝦夷が叛き田道を遣わして討伐。田道敗死		435
436	10/56歳	24歳	23歳	32歳	仁徳10年、⑩課役再開	(76)	72	47	10	仁徳10年、⑩課役再開	仁徳10年、天皇御幸、楯原神社に参拝。若沼毛二侯王、天皇の所望により鸛(はやぶさ)献上。大々杼王、仁徳の命により淡海の息長君となり、弟沙彌王が息長家を相続。忍坂大中女姫は允恭の皇妃に立つ北村某の家記	436
437	11/57歳	25歳	24歳	33歳	仁徳11年、④池・堤構築の詔 ⑩堀江を築き、茨田堤には武蔵の強頸・河内の茨田連衫子の二人を河神の生贄とする この年、新羅人が朝貢。茨田堤の築造の役につかう	(77)	73	48	11	仁徳11年、④池・堤構築の詔 ⑩堀江を築き、茨田堤には武蔵の強頸・河内の茨田連衫子の二人を河神の生贄とする。 この年、新羅人が朝貢。茨田堤の築造の役につかう		437
438	12/58歳	26歳	25歳	34歳	仁徳12年、⑦高麗国が鉄の盾・的を献上 ⑧盾人宿禰、高麗献上の的を射通し名を賜る。また、同じ日に宿禰臣も名を賜る ⑩山背の栗隈県に大溝を掘り田に水を引く 仁徳58年、⑤荒陵の松林南の歴木のこと ⑩呉国・高麗国が朝貢※⑩は仁徳12年⑦、また宋書438年の讚の弟珍の軍号除授と関係? ※仁徳58年は仁徳年齢年の誤	(78)	74	49	12	仁徳12年(仁徳58歳年)、⑤荒陵の松林南の歴木のこと ⑦高麗国が鉄の盾・的を献上 ⑧盾人宿禰、高麗献上の的を射通し名を賜る。また、同じ日に宿禰臣も名を賜る ⑩山背の栗隈県に大溝を掘り田に水を引く。 同月呉国・高麗国が朝貢(⑦と関係?)	讚の弟珍、安東大將軍を自称。宋文帝からは安東將軍・倭国王の称号を受ける宋書	438
439	13/59歳	27歳	26歳	35歳	仁徳13年、⑨茨田屯倉を立て、春米部を定める ⑩和珥池を造る。この月、横野堤を築く	(79)	75	50	13	仁徳13年、⑨茨田屯倉を立て、春米部を定める ⑩和珥池を造る。この月、横野堤を築く		439
440	14/60歳	28歳	27歳	36歳	仁徳14年、⑪猪甘津に橋をわたす。この年、南門より丹比邑へ至る大道、感玖(河内国石川郡紺口郷)に大溝を造る 仁徳60年、⑩白鳥陵の陵守を役丁とするのを思いとどまる※仁徳60年は仁徳年齢年の誤	(80)	76	51	14	仁徳14年(仁徳60歳年)、⑩白鳥陵の陵守を役丁とするのを思いとどまる ⑪猪甘津に橋をわたす。この年、南門より丹比邑へ至る大道、感玖(河内国石川郡紺口郷)に大溝を造る	倭人、南辺境侵入。⑥また東辺境攻める新羅本記	440
441	15/61歳	29歳	28歳	37歳		(81)	77	52	15			441
442	16/62歳	30歳	29歳	38歳	仁徳16年、⑦玖賀媛を速待に賜るが病死 仁徳62年、⑤遠江国司から大井河に大樹ある上表があり、倭直吾子籠を遣わし船を造らせる。この年、額田大中彦皇子が鬮に獅をして氷室あるを知り、御所へ氷を献上※仁徳62年は仁徳年齢年の誤	(82)	78	53	16	仁徳16年(仁徳62歳年)、⑤遠江国司から大井河に大樹ある上表があり、倭直吾子籠を遣わし船を造らせる ⑦玖賀媛を速待に賜るが病死 この年、額田大中彦皇子が鬮に獅をして氷室あるを知り、御所へ氷を献上		442
443	17/63歳	31歳	30歳	39歳	仁徳17年、⑨新羅が朝貢せず、砥田宿禰(盾人宿禰)・賢遺臣(宿禰臣)を遣わし問う。新羅ただちに貢献	(83)	79	54	17	仁徳17年、⑨新羅が朝貢せず、砥田宿禰(盾人宿禰)・賢遺臣(宿禰臣)を遣わし問う。新羅ただちに貢献	倭国王済、宋文帝から安東將軍・倭国王の称号を受ける宋書	443
444	18/64歳	32歳	31歳	40歳		(84)	80	55	18		④倭兵が金城を包圍、食料尽き退く新羅本記	444

445	19/65歳	33歳	32歳	41歳		(85)	81	56	19			445	
446	20/66歳	34歳	33歳	42歳	木梨輕皇子誕生年	(86)	82	57	20	仁徳20年、木梨輕皇子誕生		446	
447	21/67歳	35歳	34歳	43歳	仁徳31年、①履中15歳立太子※仁徳31年は、仁徳年齢年で仁徳の立太子年。書紀編纂者は、それを履中立太子年と誤認。書紀注の立太子年齢「15歳」は誤。これは仁徳7年の壬生部を履中誕生とみて算出されているが、本来この壬生部は履中第1皇子市辺押磐の誕生によるも。立太子時が即位年 仁徳87年、①仁徳没※古事記の仁徳83歳没は成務埋葬翌年からの期間幅(右、皇統年補助※S)? 仁徳の最終皇位年の87年は皇統化した応神年齢年の誤(右、皇統年補助※R) 仁徳没直後、履中、羽田矢代宿禰の女の黒媛を妃にしようとするが、仲皇子が好し、履中殺害を企てる。履中、平群木菟宿禰・物部大前宿禰・阿知使主により宮から脱出。追手の阿曇連浜子らとらえられ、同じく追手の倭直吾子籠は寝返り、妹の日之媛を奉り死罪を免れる。履中の弟の反正、謀略をもって仲皇子殺害※事件の発端となる傍線部分は、仁徳40年とする隼別皇子が雌鳥皇女を好した事件を投影した誤認伝承。羽田矢代宿禰は武内宿禰の長男で、その子の黒姫と履中の関係には時代錯誤がある	※R (87)	※S 83	58	21	仁徳21年(応神皇統87歳年)、①仁徳67歳没。仁徳没直後、履中同母弟仲皇子、履中殺害を企てる。履中、平群木菟宿禰・物部大前宿禰・阿知使主により宮から脱出。追手の阿曇連浜子らとらえられ、同じく追手の倭直吾子籠は寝返って妹の日之媛を奉り死罪を免れる。履中の弟の反正、謀略をもって仲皇子殺害 履中43歳立太子	允恭2年(木梨輕2歳年の誤)、(皇后陵墓讃野皇山御陵に)皇后忍坂大中女姫御幸の御殿あり、古くは忍坂(稻荷山鉄剣の雄略の志紀と関係か?)というが今は大阪といわれる。この山の東に田井の媛という皇后妹の田井中女命の住殿があり、河内国志紀を領せられ、田井郷と号したのが今の田井中村。御名代として田井部を置いたが、今は畑となって田井島という。この田井部転化して河部といい、今の東喜連村南に河村と称するところで、それ田井部の子孫なり※書紀允恭2年に忍坂大中姫を皇后に立て、皇后のために刑部(おさかべ)を定める。古事記允恭に木梨輕太子に輕部、大后(忍坂大中女姫)刑部、大後の弟田井中比売に河部定めるとある。書紀では刑部を允恭2年とするが、おそらくは2年は木梨輕2歳年の誤認と思われる北村某の家記	447	
448		36歳	35歳	履中1/44歳	履中1年、②履中、磐余稚桜宮で即位 ④履中殺害に加担した阿曇連浜子の顔に入れ墨の刑罰。浜子にしたがった野嶋の海人を倭の蔣代屯倉で使役 ⑦葦田宿禰の女の黒媛を皇妃に立てる※黒媛は「黒媛為皇妃」と記録され「立〇〇為皇后」とは示されていない。黒媛には皇統を継ぐ市辺押羽皇子が産まれていることから、立皇后的な取り扱いをし、男子の産まぬ草香幡皇女を「次の妃」としているが、これは書紀編纂者の誤認。草香幡皇女立皇后の履中6年が仁徳6年の誤りで、その年の正月に草香幡皇女が第一妃、同年七月に黒媛が第二妃に立った記録から派生する誤認と思われる				59	22	履中1年、②履中、磐余稚桜宮で即位 ④履中殺害に加担した阿曇連浜子の顔に入れ墨の刑罰。浜子にしたがった野嶋の海人を倭の蔣代屯倉で使役 ⑦葦田宿禰の女の黒媛を皇妃に立てる(⑦は仁徳6年の誤?)		448
449		37歳	36歳	2/45歳	履中2年、①反正36歳立太子 ⑩磐余に遷都。このとき平群木菟宿禰・蘇賀満智宿禰・物部伊宮弗大連・円大使主が国事を執る ⑪磐余池を作る※皇統上はじめてとなる兄弟相統の反正への皇位継承は、履中2年という即位期間の短かさからみて、仲皇子の反乱後の朝廷内の動揺に起因するものと思われる、反正皇位期間の記録欠如は、皇位の実質が履中にあったことを想定させる。したがって、そのことが記録上、履中皇位年の存続となって表れているものと判断される				60	23	履中2年、①反正36歳立太子 ⑩磐余に遷都。このとき平群木菟宿禰・蘇賀満智宿禰・物部伊宮弗大連・円大使主が国事を執る ⑪磐余池を作る		449

450		38歳	反正1/37歳	(3)/46歳	履中3年、①履中、皇后と磐余池に遊び、宮名を磐余稚桜宮、また物部長真胆連と膳臣余磯の本姓を稚桜部造と稚桜部臣に改める 反正元年、⑧大宅臣の祖である木事の女の津野媛を皇后に立てる ⑩河内の丹比へ遷都し柴籬宮を造営	61	24	反正1年(履中皇統3年)、⑧大宅臣の祖である木事の女の津野媛を皇后に立てる ⑩河内の丹比へ遷都し柴籬宮を造営 ①履中、皇后と磐余池に遊び、宮名を磐余稚桜宮、また物部長真胆連と膳臣余磯の本姓を稚桜部造と稚桜部臣に改める	反正1年、若沼毛二侯王薨去、113歳北村某の家記 ※113歳は同書の神功撰政56年(仲哀皇統56歳の誤)に、若沼毛二侯王の誕生年と記録していることから、75歳の誤認	450
451		39歳	2/38歳	(4)/47歳	履中4年、⑧はじめて諸国に国史を置き、言事を記して国内の情勢を届け出させる ⑩石上溝を掘る	62	25	反正2年(履中皇統4年)、⑧はじめて諸国に国史を置き、言事を記して国内の情勢を届け出させる ⑩石上溝を掘る	倭濟、宋文帝から安東大將軍の称号を受ける宋書	451
452		40歳	3/39歳	(5)/48歳	履中5年、③宮中に筑紫の三はしらの神が現れ、民を奪ったことを叱責 ⑨淡路嶋に狩猟。神官の告げで飼部への入れ墨を止める。皇妃没し、淡路より帰る ⑩皇妃を葬る。皇妃の死が筑紫の車持君の横暴であることを知り、筑紫の車持部を収め三はしらの神にたてまつる 安康	63	26	反正3年(履中皇統5年)、③宮中に筑紫の三はしらの神が現れ、民を奪ったことを叱責 ⑨淡路嶋に狩猟。神官の告げで飼部への入れ墨を止める。皇妃没し、淡路より帰る ⑩皇妃を葬る。皇妃の死が筑紫の車持君の横暴であることを知り、筑紫の車持部を収め三はしらの神にたてまつる。この年、安康誕		452
453		41歳	4/40歳	(6)/49歳	履中6年、①草香幡梭皇女を皇后に立てる※この記事は本来、履中の妃となった時点の草香幡梭皇女を伝えるものとして、②とともに仁徳6年の誤認の可能性はある はじめて蔵職を置き、蔵部を定める ②鯽魚磯別王の女の太姫郎姫・高鶴郎姫を後宮へ召す ③履中没※古事記の履中64歳没の64は皇統化した応神皇位年(右、皇統年補助※T) ⑩履中を百舌鳥耳原陵へ葬る	※T 64	27	反正4年(履中皇統6年)、①草香幡梭皇女を皇后に立てる(この記事は本来、履中の妃となった時点の草香幡梭皇女を伝えるものとして、②とともに仁徳6年の誤認?)。 はじめて蔵職を置き、蔵部を定める ②鯽魚磯別王の女の太姫郎姫・高鶴郎姫を後宮へ召す ③履中49歳没 ⑩履中を百舌鳥耳原陵へ葬る		453
454	木梨軽 ↓ 9歳	42歳	5/41歳		反正5年、①反正没。群卿、皇位継承を協議し允恭に璽を奉るが、允恭拒否 允恭5年、⑦葛城襲津彦の孫の玉田宿禰が反正の殯を命ぜられていたが、地震にともなう尾張連吾襲を遣わしての殯宮の視察により玉田宿禰の見えないことが発覚。玉田宿禰、偽りをもって吾襲殺害。天皇の呼び出しに甲着用が知れ、ひそかに逃げ出すも天皇の発した兵により殺害される※允恭5年は反正5年の誤		28	反正5年、①反正41歳没。群卿、皇位継承を協議し允恭に璽を奉るが、允恭拒否 ⑦葛城襲津彦の孫の玉田宿禰が反正の殯を命ぜられていたが、地震にともなう尾張連吾襲を遣わしての殯宮の視察により、玉田宿禰の見えないことが発覚。玉田宿禰、偽りをもって吾襲殺害。天皇の呼び出しに甲の着用が知れ、ひそかに逃げ出すも天皇の発した兵により殺害される		454
455	10歳	43歳	(6)/……				29		⑩高句麗が百済に侵攻。王は兵を遣ってこれを救った新羅本記 百済の蓋鹵王即位	455
456	11歳	44歳	(7)/……		允恭7年、⑫新室での宴で忍坂大中姫が舞の終わりに「娘子を奉る」という常礼を欠く。そのことで大中姫の妹に、容姿絶妙な衣通郎姫の居ることを知り召すが、大中姫の妬みにより殿屋を藤原に建てて住ませる。皇后が雄略をお生みになる夜、天皇ははじめて藤原宮に行幸された※允恭7年は反正没後の反正皇統7年の誤		30	反正皇統7年、⑫新室での宴で忍坂大中姫が舞の終わりに「娘子を奉る」という常礼を欠く。そのことで大中姫の妹に、容姿絶妙な衣通郎姫の居ることを知り召すが、大中姫の妬みにより殿屋を藤原に建て住ませる。皇后が雄略をお生みになる夜、天皇ははじめて藤原宮に行幸された(雄略誕生年)		456



457	12歳	45歳	(8)/……			允恭8年、②藤原へ行幸。衣通郎姫の申し出により宮室を遠方の河内の茅渟へ建て住ませる※允恭8年は反正没後の反正皇統8年の誤 藤原宮に衣通郎姫が住まうときに、衣通郎姫のために藤原部を定める※允恭11年の記事中に併記。なお、衣通郎姫の茅渟への移居は、その地が垂仁期に剣一千口を作り出した、鍛冶集団や織物など諸職集まる地帯であることから、本年以降続発する允恭の茅渟への行幸には、朝廷内での政治的な視察の要請が介在していることが想定できる			31	反正皇統8年、②藤原へ行幸。衣通郎姫の申し出により宮室を遠方の河内の茅渟へ建て住ませる 藤原宮に衣通郎姫が住まうときに、衣通郎姫のために藤原部を定める		457
458	13歳	46歳	(9)/……			允恭9年、②茅渟宮へ行幸 ⑧茅渟へ行幸 ⑩茅渟へ行幸※允恭9年は反正没後の反正皇統9年の誤			32	反正皇統9年、②茅渟宮へ行幸 ⑧茅渟へ行幸 ⑩茅渟へ行幸		458
459	14歳	47歳	(10)/……			允恭10年、①茅渟へ行幸※允恭10年は反正没後の反正皇統10年の誤			33	反正皇統10年、①茅渟へ行幸	④倭人が兵船百余隻で東辺を襲い、月城包圍、追撃し破る新羅本記	459
460	15歳	48歳	(11)/……			允恭11年、③茅渟宮へ行幸※允恭11年は反正没後の反正皇統11年の誤			34	反正皇統11年、③茅渟宮へ行幸	倭国、宋へ方物を献ず宋書	460
461	16歳	49歳	(12)/……			雄略5年、④蓋鹵王、池津媛が焼き殺された事を聞き、弟の昆支君の倭派遣を協議 ⑥昆支君が筑紫各羅嶋へ至るとき子が生まれ、嶋君と名付け国に送還 ⑦昆支君が京入り。すでに5人の子があった※雄略5年は書紀編纂者の編年観による百済新撰引用時の時代相の誤認で、池津媛の事跡も付会。この事跡の真実は455年から本格化する高句麗の百済侵攻に対する強固な日済関係を築くための、倭側の皇位継承問題に端を発する政治弱体化のなかで、新羅問題を共有することで倭の外政補助を意図していたことが推測できる			35	反正皇統12年、④蓋鹵王、弟の昆支君の倭派遣を協議 ⑥昆支君が筑紫各羅嶋へ至るとき子が生まれ、嶋君と名付け国に送還 ⑦昆支君が京入り。すでに5人の子があった	蓋鹵王、弟の昆支君(子5人)を倭へ遣わす雄略5年所引百済新撰	461
462	17歳	50歳	(13)/……						36	反正皇統13年、	倭国王の世子興、宋に貢献。孝武帝、安東將軍・倭国王に除す宋書 ⑤倭人が活開城を襲い破り、一千名を捕らえ連れ去る新羅本記	462
463	18歳	允恭1/51歳	(14)/……			允恭1年、⑫忍坂大中姫の働きにより允恭即位 允恭14年、⑨淡路嶋に獵。獲物無く、占いにより明石の海底の真珠を探り嶋の神に捧げ獸を得る。そのとき白水郎の死を悲しみ墓を作る※獵は允恭即位を占う祈禱の儀礼。また、「海人」を「白水郎」と表記する風は筑紫系のもので、履中即位時に仲皇子方についた入れ墨の刑ならびに履中5年の一連の事跡とともに、根深く残る阿曇連浜子からの怨恨を表象するものか?			37	允恭1年(反正皇統14年)、⑨淡路嶋に獵。獲物無く、占いにより明石の海底の真珠を探り嶋の神に捧げ獸を得る。そのとき白水郎の死を悲しみ墓を作る ⑫忍坂大中姫の働きにより允恭即位	②倭人が敵良城(梁山)を攻めるも勝てずに去る新羅本記	463
464	19歳	2/52歳				允恭2年、②忍坂大中姫を皇后に立て、刑部を定める			38	允恭2年、②忍坂大中姫を皇后に立て、刑部を定める		464
465	20歳	3/53歳	雄略 ↓ 10歳	安康 ↓ 14歳		允恭3年、①新羅に使いを遣わし医者を求める ⑧新羅から医者に来て允恭の病回復。あつく賞して帰国させる※この医者は古事記に、この時期に新羅から朝献に来た太子の金波鎮漢紀武とある。			39	允恭3年、①新羅に使いを遣わし医者を求める ⑧新羅から医者に来て允恭の病回復。あつく賞して帰国させる		465
466	21歳	4/54歳	11歳	15歳		允恭4年、⑨氏姓の乱れを探湯をもって正す			40			466
467	22歳	5/55歳	12歳	16歳					41			467

468	23歳	6/56歳	13歳	17歳				42			468
469	24歳	7/57歳	14歳	18歳				43		⑧百濟、將を遣わし高句麗南辺を侵す百濟本記	469
470	25歳	8/58歳	15歳	19歳				44			470
471	26歳	9/59歳	16歳	20歳				45		⑦乎獲居臣利刀を作り奉る 稻荷山鉄剣銘	471
472	27歳	10/60歳	17歳	21歳				46		百濟、魏に遣使。高句麗の侵略に対して出兵を乞うが聞き入れられず、遂に朝貢をやめる百濟本	472
473	28歳	11/61歳	18歳	22歳				47			473
474	29歳	12/62歳	19歳	23歳				48		⑦高句麗王がみずから兵を率いて百濟を攻撃。百濟王、新羅に助けを求めると、兵到着以前に百濟が陥落新羅本記	474
475	30歳	13/63歳	20歳	24歳				49	允恭13年、高句麗王、百濟を滅ぼす	⑨高句麗王、三万の兵を率いて百濟王都漢城を包圍。百濟蓋鹵王籠城し、子の文周をして新羅に救援を求めると。王殺され、文周は木菟満致・祖彌榮取とともに南へ ⑩都を熊津へ移す百濟本記	475
476	31歳	14/64歳	21歳	25歳	雄略20年、高麗王、百濟を滅ぼす※書紀編纂者がこの記事を雄略20年に置くのは、書紀自体の編年観の誤認によるもので、正しくは允恭14年相当。なお、この記事は書紀編纂者の用いた原本が記録年で示されていたものと思われ、実際の事跡年は前年の475年で允恭13年相当			50		⑥倭人が東辺を攻める新羅本記	476
477	32歳	15/65歳	22歳	26歳	雄略21年、③天皇、百濟が高句麗に滅ぼされると聞き、久麻那利(忠清南道公州の呼称の熊津)を汶洲王(文周王)に賜い、国を復興させる※上欄の雄略20年の注と同じ			51		⑤倭人が拳兵し五道に分かれて侵攻。しかし功なく還る新羅本記 ⑨百濟の兵官佐平解仇、文周王を殺し、三斤王を立てる。この年、倭国、方物を献ず宋書	477
478	33歳	16/66歳	23歳	27歳				52		興の弟武、宋に貢献。順帝、安東大將軍・倭王に除す宋書	478
479	34歳	17/67歳	24歳	28歳	雄略23年、④百濟の文(三)斤王没し、天皇が東城王を百濟の王とし、筑紫国の軍士500人を添えて百濟へ送る。この年、百濟の調賦がいつもより多かった。筑紫の安致臣・馬飼臣らが、船師を率いて高麗を撃った※書紀編纂者がこの記事を雄略24年に置くのは、書紀自体の編年観の誤認によるもので、正しくは允恭17年相当。なお、この動きの主体は、461年に帰化した昆支君一族を中心とする国内百濟系帰化勢力によるもので、東城王は昆支君の第二子とされ、その昆支は475年の高句麗の百濟攻撃ごろに帰国しており、477年4月に百濟で内臣佐平の官位を与えられ、同年7月に没している。このことよりして、百濟と国内の百濟系帰化人の間には強い連携の存在していることが推し測れる。また筑紫の安致臣の記事は、文章構成から前者とは別記録からの採録とおもわれ、「高句麗を撃った」が伝承の遺された土地の地域的な誤伝で、本来「筑紫国の軍士500人を添えて百濟へ送る」と関係するものように推考される			53	允恭17年、④百濟の文(三)斤王没し、天皇が東城王を百濟の王とし、筑紫国の軍士500人を添えて百濟へ送る。この年、百濟の調賦がいつもより多かった。筑紫の安致臣・馬飼臣らが、船師を率いて高麗を撃った	⑪三斤王没、東城王即位。この年、高帝、齊朝樹立により、武の軍号を鎮東大將軍に進める南齊書	479
480	35歳	18/68歳	25歳	29歳				54			480
481	36歳	19/69歳	26歳	30歳				55			481
482	37歳	20/70歳	27歳	31歳				56		⑤倭人が辺境を攻める新羅本記	482
483	38歳	21/71歳	28歳	32歳				57			483

484	39歳	22/72歳	29歳	33歳	この頃、仁賢誕生年※顕宗の皇位期間を書紀は三年、古事記は八年としている。これは、顕宗と仁賢間の皇位譲り合いを脚色したための混乱で、本来この八年が清寧による皇太子の指名をうけて先に皇位を継承した仁賢の皇位期間。古事記の顕宗の死亡時の38歳は、八年の皇位期間を終え、顕宗の皇位年が出現した時点の仁賢の年齢として、この誕生年を算出 この年、継体誕生年※『大阪府全志』所収の「北村某の家記」に、允恭三十九年(木梨軽年齢年の誤)卯月甲子日、彦主王と真若郎女から継体が生まれ、真若郎女が早世したために福井の振媛が異母として育てたという伝承が存在し、継体即位前紀の彦主王が振媛を妃として継体を産んだという書紀の記述は育ての親の誤認	58	允恭22年、この年、継体誕生…『大阪府全志』所収「北村某の家記」の伝承によると、彦主人王との間に継体を身ごもった真若郎女が、妊娠四ヶ月目に帰省。父である河内の沙禰王が新造した産屋で允恭三十九年(木梨軽39年齢年の誤)卯月甲子日に継体出産。継体が成長した。八年(満6年の誤)を終た雄略元年のに淡海へ送り帰すが、そのときに母の真若郎女が早世したれば、異母福井振媛に随い、成長せられて越前三国の君と号す。 この頃、仁賢誕生	允恭39年(木梨軽39年齢年の誤)、(允恭の御宇、息長沙禰王の女真若郎女を淡海の息長大々杼王の子彦主人王に嫁がせるが御懐妊あり四ヶ月を経て百々石城に還し、父沙禰王が新たに造営した産殿にて)允恭39年(木梨軽39年齢年の誤)大々杼命(継体)生れる。産屋は百々石城内にあり北村某の家記	484
485	40歳	23/73歳	30歳	34歳	允恭23年、③木梨軽皇子立太子。木梨軽、同母妹軽大娘皇女と密通	59	允恭23年、③木梨軽皇子立太子。木梨軽、同母妹軽大娘皇女と密通		485
486	41歳	24/74歳	31歳	安康1/35歳	允恭24年、⑥木梨軽の密通発覚し、大娘皇女を伊予へ移す 安康1年、②安康、雄略に大草香皇子の妹の幡梭皇女を娶らせるため根使主を遣わすが、根使主の押木珠纒を奪うための讒言で安康が兵を起し大草香皇子殺害。このとき大草香に仕える難波吉師日香蚊親子殉死。ここに大草香皇子の妻の中蒂姫を召し、宮中に納め妃とする。最後に、幡梭皇女を召し雄略にめあわす※幡梭皇女は書記編纂者の誤認で、正しくは幡梭皇女と履中の間に生まれた中蒂(磯)皇女のこと。また、大草香皇子の妻を中蒂姫とするのは長田大娘皇女の誤りで、その原因は書記雄略即位前紀の注で書記編纂者が中蒂皇女の別称が長田大娘皇女とし、両者を同一人としていることによる この頃、顕宗誕生年	60	安康1年(允恭24年)、②安康、雄略に大草香皇子の妹の幡梭皇女の娘の中蒂(磯)皇女を娶らせるため根使主を遣わすが、根使主の押木珠纒を奪うための讒言で安康が兵を起し大草香皇子殺害。このとき大草香に仕える難波吉師日香蚊親子殉死。ここに大草香皇子の妻の長田大郎女を召し、宮中に納め妃とする。最後に、中蒂(磯)皇女を召し雄略にめあわす ⑥木梨軽の密通発覚し、大娘皇女を伊予へ移す。この頃、顕宗誕生	④倭人が辺境を攻める新羅本記	486

487	42歳	25/75歳	32歳	2/36歳	<p>允恭42年、①允恭没※允恭42年は木梨軽年齢年の誤。古事記の允恭78歳没の78は、誤認する允恭皇位42年を仁徳皇統年として表した場合の数値で、それを允恭の生涯年齢に取り違え(右、皇統年補助504年の※U) なお、木梨軽皇子は允恭の崩御とともに殉死していることも考えられてくる。このとき新羅が調の船八十艘、舞人八十を貢上。対馬→筑紫→難波津のルートで殯宮に参会 ①新羅用使帰国途中で采女との密通の疑いがかけられ、雄略が禁固して推門。疑いが間違いであることが判明し許されるが、百済人は大いに恨み、以後貢上物の種類と船数を減ずる ⑩允恭を長野原陵へ葬る。葬礼終了後、木梨軽に暴虐なふるまいがあり、群臣がみな安康方へ付く。木梨軽ひそかに兵を起こして安康を襲おうとするが、安康も兵を発し、木梨軽、物部大前宿禰の家に隠れ自害 ⑫安康即位。石上に遷都し、穴穗宮を造営。このとき雄略が反正の皇女たちを妻に迎えようとするが、みな辞退</p> <p>安康2年、①安康、中蒂姫命を皇后に立てる。中蒂姫命は大草香皇子との間に眉輪王をもうけていたが、母により罪を免れた※中蒂姫命は長田大娘皇女の誤(安康1年注参照)</p>	61	<p>安康3年(允恭42歳年)、①允恭75歳没。このとき新羅が調の船八十艘、舞人八十を貢上。対馬→筑紫→難波津のルートで殯宮に参会。この月、安康、長田大娘皇女を皇后に立てる。長田大娘皇女は大草香皇子との間に眉輪王をもうけていたが、母により罪を免れる ⑩允恭を長野原陵へ葬る。葬礼終了後、木梨軽に暴虐なふるまいがあり、群臣がみな安康方へ付く。木梨軽ひそかに兵を起こして安康を襲おうとするが、安康も兵を発し、木梨軽、物部大前宿禰の家に隠れ自害、42歳没 ⑪新羅用使帰国途中で采女との密通の疑いがかけられ、雄略が禁固して推門。疑いが間違いであることが判明し許されるが、百済人は大いに恨み、以後貢上物の種類と船数を減ずる ⑫安康即位。石上に遷都し、穴穗宮を造営。このとき雄略が反正の皇女たちを妻に迎えようとするが、みな辞退</p>	487	
488	(26)/……	(26)/……	33歳	3/37歳	<p>安康3年、⑧安康、眉輪王に殺される※古事記の安康56歳没は市辺押磐の殺害時の年齢と取り違え 三年後に菅原伏見陵へ葬る。雄略、八鈞白彦皇子殺害。黒彦皇子と眉輪王は円大臣の家へ逃げ込み、円大臣は死罪をあがなうために雄略に韓媛と葛城の家カ所を奉るが許されず、三人焼き殺される ⑩雄略、安康が皇位継承を考えていた履中の皇子の市辺押磐を狩に連れ出し、帳内の佐伯部仲子とともに蚊屋野において殺害。この月、雄略、市辺押磐の弟の御馬皇子を捕え処刑。帳内の日下部連使主と吾彦、市辺押磐の子の仁賢(億計)と:顯宗(弘計)を奉じ、丹波国余社郡に避ける。使主は名字を田疾来と改めるも誅殺を恐れて播磨の縮見山の石屋に逃げ入り自害。二人はそれを知らぬまま播磨国赤石郡に向い、名を改めて縮見の首に使える。ここに至るまで吾田彦は側を離れず仕えていた ①雄略、即位の場を泊瀬の朝倉に設けて皇位継承し、平群臣真鳥を大臣、大伴連室屋・物部連目を大連とする。この頃、飯豊皇女誕生年</p>	62	<p>安康3年、⑧安康、眉輪王に殺される、37歳没。三年後に菅原伏見陵へ葬る。雄略、八鈞白彦皇子殺害。黒彦皇子と眉輪王は円大臣の家へ逃げ込み、円大臣は死罪をあがなうために雄略に韓媛と葛城の家カ所を奉るが許されず、三人焼き殺される ⑩雄略、安康が皇位継承を考えていた履中の皇子の市辺押磐を狩に連れ出し、帳内の佐伯部仲子とともに蚊屋野において殺害。56歳。この月、雄略、市辺押磐の弟の御馬皇子を捕え処刑。帳内の日下部連使主と吾彦、市辺押磐の子の仁賢(億計5歳)と:顯宗(弘計3歳?)を奉じ、丹波国余社郡に避ける。使主は名字を田疾来と改めるも誅殺を恐れて播磨の縮見山の石屋に逃げ入り自害。二人はそれを知らぬまま播磨国赤石郡に向い、名を改めて縮見の首に使える。ここに至るまで吾田彦は側を離れず仕えていた ①雄略、即位の場を泊瀬の朝倉に設けて皇位継承し、平群臣真鳥を大臣、大伴連室屋・物部連目を大連とする。この頃、飯豊皇女誕生年</p>	488	
489	(27)/……	雄略1/34歳			<p>雄略1年、③草香幡媛姫皇女を皇后に立てる。※草香幡媛姫皇女は大草香皇子と草香幡媛の間に生れた中蒂(磯)姫命の誤(安康1年注参照)</p>	63	<p>雄略1年、③中蒂(磯)姫命を皇后に立てる。</p>	<p>雄略1年、息長沙彌王は御女の真若郎女と御孫の大々杼命を淡海の息長彦主人王の許に送り返す。しかし、母真若郎女早世したれば、異母福井振女に随い、成長せられて越前三国の君と号す北村某の家記</p>	489

490	清寧 1歳	(28)/……	2/35歳	雄略2年、⑦百濟池津媛を召すが、石川楯と密通。大伴室屋大連に詔して二人を焼き殺す ⑩吉野宮へ行幸。御馬瀬へ行幸し獵するが、雄略の問いに群臣が答えられず、怒った雄略が御者の大津馬飼を斬る。このことを皇太后がさとし、二人を宍人部として貢上。これ以後、大倭国造吾子籠宿禰ほか諸臣、人々を貢上し、宍人部とする。この月、史戸・河上舎人部を置く			64	雄略2年、⑦百濟池津媛を召すが、石川楯と密通。大伴室屋大連に詔して二人を焼き殺す ⑩吉野宮へ行幸。御馬瀬へ行幸し獵するが、雄略の問いに群臣が答えられず、怒った雄略が御者の大津馬飼を斬る。このことを皇太后がさとし、二人を宍人部として貢上。これ以後、大倭国造吾子籠宿禰ほか諸臣、人々を貢上し、宍人部とする。この月、史戸・河上舎人部を置く		490
491	2歳	(29)/……	3/36歳	雄略3年、④阿閉臣国見、栲幡皇女と湯人の廬城部連武彦が密通したと讒言			65	雄略3年、④阿閉臣国見、栲幡皇女と湯人の廬城部連武彦が密通したと讒言		491
492	3歳	(30)/……	4/37歳	雄略4年、②葛城山で獵 ⑧吉野宮へ行幸			66	雄略4年、②葛城山で獵 ⑧吉野宮へ行幸		492
493	4歳	(31)/……	5/38歳	雄略5年、②葛城山で獵 ※雄略5年の昆支関係の記事は、允恭即位前の空位期間の反正皇統12年相当にあたる461年の誤			67	雄略5年、②葛城山で獵	⑦臨海・長嶺の二鎮を置いて倭賊に備えた新羅本記	493
494	5歳	(32)/……	6/39歳	雄略6年、②泊瀬の小野に遊ぶ ③后妃に蚕を飼わせるため、雄略に集めることを命ぜられた螺贏、誤って嬰兒を集め、少子部連の姓を賜い養育 ④吳国が貢献			68	雄略6年、②泊瀬の小野に遊ぶ ③后妃に蚕を飼わせるため、雄略に集めることを命ぜられた螺贏、誤って嬰兒を集め、少子部連の姓を賜い養育 ④吳国が貢献	南朝斉五代明帝即位。高句麗王へ征夷大將軍の軍号除授南齊書高麗伝	494

495	6歳	(33)/……	7/40歳	<p>雄略7年、⑦少子部連螺贏、三諸岳の大蛇をとらえ、姓を改めて雷を賜う ⑧雄略、物部の兵士30人を遣わし、吉備弓削部虚空を留めて使役した吉備下道臣前津屋とその同族70人を誅殺。この年、雄略、吉備上道臣田狭の女の稚媛の美貌を聞き、田狭を任那国司に任命し、しばらくしてその妻の稚媛を召す。田狭、それを知り新羅へ援助を求める〔別本によれば、田狭の妻は毛媛といい、葛城襲津彦の子の玉田宿禰の女で、夫を殺して召したという〕。雄略、新羅討伐へ田狭の子の弟君と吉備海部直赤尾を派遣。その際、西漢才伎歆因知利の進言があり、雄略は、道を百済に取り、勅書を下して戦略に巧みな者をたてまつるよう命ずる。新羅を討たぬ弟君を妻が殺害。雄略大嶋に在留する百済の献じた手末らを日鷹吉士堅磐固安銭を遣わし、帰還させる。そうして、広津邑(河内国)へ手末を安置するが病死する者多く、大和国の三か所に移す〔ある本には、吉備臣弟君が百済より帰り、漢手人部・衣縫部・穴人部を献じたとある〕※雄略1年の皇妃の書紀注で稚姫は〔一本によれば吉備窪屋臣の女という〕。また、雄略7年に〔別本によれば、田狭臣の妻の名は、毛媛といい、葛城襲津彦の子玉田宿禰の女…〕。このことから、本来、雄略が召したのが吉備窪屋臣の女でそれが稚媛。田狭の妻が若媛を誤伝と考え、この事件と田狭は無関係で、純粹に任那国司に任ぜられていたことになり、田狭の子の弟君と吉備海部直赤尾の新羅征伐も、本来は百済への遣使の誤認ということが考えられてくる。その誤認の要因は雄略7年を463年とする書紀の編年観によるもので、「倭人が歆良城(梁山)を攻めるも勝てずに去る」という新羅本記の記事を、誤認する田狭の一連の事件と絡めたことによる書紀編纂者の脚色となる。→(右欄へ)</p>		<p>雄略7年、⑦少子部連螺贏、三諸岳の大蛇をとらえ、姓を改めて雷を賜う ⑧雄略、物部の兵士30人を遣わし、吉備弓削部虚空を留めて使役した吉備下道臣前津屋とその同族70人を誅殺。この年、雄略、吉備窪屋臣の女の稚媛の美貌を聞き召す。この頃、吉備上道臣田狭は任那国司。(百済、高句麗の侵略により新羅へ援助を求める) 雄略、西漢才伎歆因知利の進言により、田狭の子の弟君と吉備海部直赤尾を百済へ派遣。その際、百済王への戦略に巧みな者をたてまつさせる勅書を下す。その後、日鷹吉士堅磐固安銭を遣わし、大嶋に在留する百済の献じた手末らを帰還させ、広津邑(河内国)へ安置。しかし病死する者多く、大和国の三か所へ移す</p> <p>(左欄より継続)→なお、弟君の派兵は、百済本記の495年8月の「高句麗が百済の雉壞城を攻める。百済、新羅へ救援を請い、新羅派兵により高句麗が退く」と関係し、倭に帰化する西漢才伎歆因知利を介しての百済王の派兵要請が真実か?</p>	<p>⑧高句麗が百済の雉壞城を攻める。百済、新羅へ救援を請い、新羅派兵により高句麗が退く百済本記 この年、百済王部下に將軍等除授南齊書百済伝 雄略7年、忍坂大中女皇后崩御、大々村郷に葬り讚野皇山御陵と称す。同皇后御幸の御殿ありて、その地を古は忍坂といいしが、今は大坂といえり北村某の家記</p>	495
496	7歳	(34)/……	8/41歳	<p>雄略8年、身狭村主青と檜隈民使博徳を呉国へ遣わす※雄略8年のこの部分以外の記述は、書紀編年観にもとづく464年「甲辰」の干支年に、さらに「甲辰」の干支を一巡り60年遡らせた404年の誤挿入。出典は後の任那日本府などに遺された、国外記録と思われる(404年参照)。なお、この呉国への派遣記事は、真正の雄略8年の記録として存在していたもので、494年高句麗王に征夷大將軍の軍号除授、翌495年百済王部下に將軍等除授(『南齊書』高麗伝・百済伝)にかかわる、倭への軍号除授を目的としていたことが類推される</p>		<p>雄略8年、身狭村主青と檜隈民使博徳を呉国へ遣わす</p>		496

497	8歳	(35)/……	9/42歳	<p>雄略9年、②凡河内直香賜と采女を遣わし、胸方神を祀らせるが、香賜が采女を好す。香賜殺害のため難波日鷹吉士を遣わすが、香賜逃走。さらに弓削連豊穂を遣わし諸国を探索させ、三嶋郡(摂津国)藍原で殺害 ③雄略、亡き妻のかわりに紀小弓宿禰へ吉備上道采女大海を賜り、蘇我韓子宿禰・大伴談連・小鹿火宿禰らとともに新羅征伐を勅す。トク(慶尚北道慶山)を占領するも新羅残兵により大伴談連・紀岡前来自連戦死。大將軍紀小弓宿禰病死 ⑤紀小弓宿禰の子の紀大磐宿禰、新羅へ入り小鹿火宿禰と対立。小鹿火宿禰の偽りにより、韓子宿禰が紀大磐宿禰に殺害される。采女大海に大伴室屋大連勅を奉じて土師小鳥に紀大磐宿禰の墓を田身輪邑(大阪府泉南郡岬町淡輪)に造らせ葬る ⑦河内国より、飛鳥戸郡の田辺史伯孫が応神陵のもとで赤馬に乗った人に出逢い、馬を交換すると、赤馬は土馬に変わっていたと言上あり</p>	71	<p>雄略9年、②凡河内直香賜と采女を遣わし、胸方神を祀らせるが、香賜が采女を好す。香賜殺害のため難波日鷹吉士を遣わすが、香賜逃走。さらに弓削連豊穂を遣わし諸国を探索させ、三嶋郡(摂津国)藍原で殺害 ③雄略、亡き妻のかわりに紀小弓宿禰へ吉備上道采女大海を賜り、蘇我韓子宿禰・大伴談連・小鹿火宿禰らとともに新羅征伐を勅す。トク(慶尚北道慶山)を占領するも新羅残兵により大伴談連・紀岡前来自連戦死。大將軍紀小弓宿禰病死 ⑤紀小弓宿禰の子の紀大磐宿禰、新羅へ入り小鹿火宿禰と対立。小鹿火宿禰の偽りにより、韓子宿禰が紀大磐宿禰に殺害される。采女大海に大伴室屋大連勅を奉じて土師小鳥に紀大磐宿禰の墓を田身輪邑(大阪府泉南郡岬町淡輪)に造らせ葬る ⑦河内国より、飛鳥戸郡の田辺史伯孫が応神陵のもとで赤馬に乗った人に出逢い、馬を交換すると、赤馬は土馬に変わっていたと言上あり</p>	④倭人新羅の辺境を犯す新羅本記	497
498	9歳	(36)/……	10/43歳	<p>雄略10年、⑨身狭村主青らが筑紫へ至るが、呉の献上した鵜鳥が水間君の犬に喰われる。水間君、罪を贖うため鴻十羽と養鳥人を献じ許される ⑩養鳥人らを軽村・磐余村に置く</p>	72	<p>雄略10年、⑨雄略8年に呉へ派遣した身狭村主青らが筑紫へ至るが、呉の献上した鵜鳥が水間君の犬に喰われる。水間君、罪を贖うため鴻十羽と養鳥人を献じ許される ⑩養鳥人らを軽村・磐余村に置く</p>	⑧耽羅(済州島)征伐のため百済王が自ら武珍州に至る百済本記	498
499	10歳	(37)/……	11/44歳	<p>雄略11年、⑤近江国栗太郡に川瀬舎人を置く ⑦百済から貴信なる者が逃亡してくる。呉国の人ともいう ⑩鳥官の禽が菟田の人の犬に喰われて死に、顔面に入れ墨をして鳥養部とする。そのとき信濃国と武蔵国の直丁がこの事件を誹謗し、鳥養部とされる</p>	73	<p>雄略11年、⑤近江国栗太郡に川瀬舎人を置く ⑦百済から貴信なる者が逃亡してくる。呉国の人ともいう ⑩鳥官の禽が菟田の人の犬に喰われて死に、顔面に入れ墨をして鳥養部とする。そのとき信濃国と武蔵国の直丁がこの事件を誹謗し、鳥養部とされる</p>		499
500	11歳	(38)/……	12/45歳	<p>雄略12年、④身狭村主青と檜隈民使博徳を呉国へ遣わす ⑩木工の鬮鷄御田に命じてはじめて楼閣を造らせる。この頃、安閑誕生年※古事記の継体・安閑・宣化の生涯年齢を書紀編年の各没年に導入して組み上げた、子の安閑・宣化の誕生年に対する親の継体の年齢比較より抽出。なお、継体の絶対年は『大阪府全志』所収「北村某の家記」の考証より策定</p>	74	<p>雄略12年、④身狭村主青と檜隈民使博徳を呉国へ遣わす ⑩木工の鬮鷄御田に命じてはじめて楼閣を造らせる。この頃、安閑誕生</p>	③倭人が長峯鎮を攻め陥した新羅本記	500

501	12歳	(39)/……	13/46歳	<p>雄略13年、③齒田根命が采女山辺小嶋子を奸し、物部目大連に授けられ罪を責めるが、馬八匹と大刀八口をもって罪を赦う。このとき詠んだ歌により齒田根命私財没収され、物部目大連は餌香の長野邑を賜う ⑧播磨国御井隈の文石小麻呂の暴虐に、兵百人を率いさせた春日小野臣大樹を遣わし、殺害させる ⑨雄略、木工の韋那部真根の軽口を罰し死罪に処そうとするが、後悔し、甲斐の黒駒に赦免の使いを乗せて刑場へ走らせる</p> <p>武烈4年、この年、百濟末多王(東城王)、百姓に暴虐を働き、国人王を排除して嶋王(武寧王)を王に立てる※書紀の編年観では武烈4年は502年に相当し、1年の誤差があるが、これは国内へ伝えられた時間差。そもそもこの記事は、百濟本記からの単独の誤認転載で、本来は雄略13年相当</p> <p>この頃、宣化誕生年※古事記の継体・安閑・宣化の生涯年齢を書紀編年の各没年に導入して組み上げた、子の安閑・宣化の誕生年に対する親の継体の年齢比較より抽出。なお、継体の絶対年は『大阪府全志』所収「北村某の家記」の考証より策定</p>	75	<p>雄略13年、③齒田根命が采女山辺小嶋子を奸し、物部目大連に授けられ罪を責めるが、馬八匹と大刀八口をもって罪を赦う。このとき詠んだ歌により齒田根命私財没収され、物部目大連は餌香の長野邑を賜う ⑧播磨国御井隈の文石小麻呂の暴虐に、兵百人を率いさせた春日小野臣大樹を遣わし、殺害させる ⑨雄略、木工の韋那部真根の軽口を罰し死罪に処そうとするが、後悔し、甲斐の黒駒に赦免の使いを乗せて刑場へ走らせる。</p> <p>この年、百濟末多王(東城王)、百姓に暴虐を働き、国人王を排除して嶋王(武寧王)を王に立てる。この頃、宣化誕生</p>	東城王殺害され武寧王即位百濟本記	501
502	13歳	(40)/……	14/47歳	<p>雄略14年、①身狭村主青ら、呉国の使者とともに呉の献上した手末らを率いて住吉津へ碇泊。この月、呉の客の道を作り、呉坂と名付ける ③臣連に命じ呉の使者を迎えさせ、呉人を檜隈野に置く。そこで呉原(明日香村栗原)と名付ける。衣縫の兄媛を大三輪神に奉り、弟媛を漢衣縫部とする ④根使主を係とし、石上の高抜原で呉の賓客に食事を賜る。そのとき、根使臣の玉纒が際立っていたので、改めて宮殿前で引見。皇后(中蒂皇女※安康1年注参照)が大草香皇子のものであることを確認し、安康元年の事件が発覚。根使主、日根(和泉国)で官軍と対戦し、殺される。雄略、根使主の子孫を二つに分け、大草香部と茅渟県主の負囊者(ふくろかつぎひと)とし、安康が誤って殺害した難波吉士日香香の子孫を求めて大草香部吉士の姓を賜る。事件後、根使臣の子の小根使主に雄略誹謗の言があり、殺害される</p>	76	<p>雄略14年、①身狭村主青ら、呉国の使者とともに呉の献上した手末らを率いて住吉津へ碇泊。この月、呉の客の道を作り、呉坂と名付ける ③臣連に命じ呉の使者を迎えさせ、呉人を檜隈野に置く。そこで呉原(明日香村栗原)と名付ける。衣縫の兄媛を大三輪神に奉り、弟媛を漢衣縫部とする ④根使主を係とし、石上の高抜原で呉の賓客に食事を賜る。そのとき、根使臣の玉纒が際立っていたので、改めて宮殿前で引見。皇后(中蒂皇女)が大草香皇子のものであることを確認し、安康元年の事件が発覚。根使主、日根(和泉国)で官軍と対戦し、殺される。雄略、根使主の子孫を二つに分け、大草香部と茅渟県主の負囊者(ふくろかつぎひと)とし、安康が誤って殺害した難波吉士日香香の子孫を求めて大草香部吉士の姓を賜る。事件後、根使臣の子の小根使主に雄略誹謗の言があり、殺害される</p>	武帝、梁朝樹立により、武の軍号を征東大將軍に進める梁書	502
503	14歳	(41)/……	15/48歳	<p>雄略15年、秦酒公に、分散する秦の民を集めて賜る</p>	77	<p>雄略15年、秦酒公に、分散する秦の民を集めて賜る</p>		503
504	15歳	(42)/……	16/49歳	<p>雄略16年、⑦桑の栽培に適した国県に桑を植えさせ、秦の民を割り当てて庸調を献じさせる ⑩漢部に姓を賜い、直という</p>	※U 78	<p>雄略16年、⑦桑の栽培に適した国県に桑を植えさせ、秦の民を割り当てて庸調を献じさせる ⑩漢部に姓を賜い、直という</p>		504



505	16歳	17/50歳	雄略17年、③土師連に清器の進上を勅す。土師部の祖の吾筭、摂津国来狭狭村(大阪市豊能郡)・山背国内村(京都府綴喜郡八幡町内里)・俯見村(京都市伏見区)・伊勢国藤形村(三重県津市藤方)、および丹波・但馬・因幡の私有の民部を奉り、贄土師部と名付ける				雄略17年、③土師連に清器の進上を勅す。土師部の祖の吾筭、摂津国来狭狭村(大阪市豊能郡)・山背国内村(京都府綴喜郡八幡町内里)・俯見村(京都市伏見区)・伊勢国藤形村(三重県津市藤方)、および丹波・但馬・因幡の私有の民部を奉り、贄土師部と名付ける	505
506	17歳	18/51歳	雄略18年、⑧物部菟代宿禰、筑紫の聞物部大斧手を率いる物部目連を遣わし、伊勢の朝日郎を討つ。そのとき、讃岐田虫別による菟代宿禰が臆病であるとの奏上があり、雄略が菟代宿禰の所有していた猪使部を奪い、物部目連に賜る				雄略18年、⑧物部菟代宿禰、筑紫の聞物部大斧手を率いる物部目連を遣わし、伊勢の朝日郎を討つ。そのとき、讃岐田虫別による菟代宿禰が臆病であるとの奏上があり、雄略が菟代宿禰の所有していた猪使部を奪い、物部目連に賜る	506
507	18歳	19/52歳	雄略19年、③穴穂部を置く				雄略19年、③穴穂部を置く	507
508	19歳	20/53歳	継体2年、⑫南の海のかなたの耽羅(济州島)の人がはじめて百済に使いを送る※書紀編纂者の年代観に添えば継体2年を置く508年の事跡となる。しかし、⑫の「南の海…」は、倭から見ての位置ではないので、この記事は書紀編纂者の年代観のままに国外記録を抽出して記事立てしたものとされる。なお、498年8月の百済本記に、耽羅(济州島)征伐のため王(百済東城王)が自ら武珍州に至る記事がある				雄略20年、⑫南の海のかなたの耽羅(济州島)の人がはじめて百済に使いを送る	508
509	20歳	21/54歳						509
510	21歳	22/55歳	雄略22年、①清寧立太子※立太子時が即位年 ⑦丹波国余社郡管川に瑞江浦嶋子の逸話あり				清寧1年(雄略22年)、①清寧立太子 ⑦丹波国余社郡管川に瑞江浦嶋子の逸話あり	510
511	清寧1/22歳	(23)/56歳	雄略23年、⑦天皇が病となり、政務を皇太子へゆだねた ⑧雄略没。星川王が戮辱を及ぼすことを大伴室屋大連と東漢掬直へ遺勅。このとき征新羅將軍吉備臣尾代に従っていた五百人の蝦夷が結集して反乱をおこすが、尾代がごとごとく攻め殺す。同月、雄略妃吉備稚媛、子の星川皇子に進言し皇位に就くために大蔵の官をとらせる。大伴室屋・東漢掬直、雄略の遺詔により大蔵を包圍して星川皇子焼殺。したがっていた兄君・城丘前来自[名は伝わらない]も焼け死ぬ。このとき河内三野県主小根が逃げ出し、草香部吉士漢彦にすがり大伴大連に助命を乞い許される。小根、大伴大連に難波来目邑大井戸の田十町を、また漢彦に田地を贈る。この月、星川皇子を救うため吉備上道臣ら船師四十艘を率いて海を渡りはじめるが、焼き殺されたことを聞き、帰る。清寧、使者を派遣して上道臣を責め、山部を奪う ⑩大伴室屋大連が、臣や連らを率いて璽を皇太子に奉る 清寧1年、①清寧、磐余の璽栗に宮を定め、以前と同じに大伴室屋大連を大連とし、平群真鳥大臣を大臣とする ⑩雄略を丹比高鷲原陵へ葬る。このとき隼人が殉死し、陵の北に墓を造り、儀礼にしたがい葬る			清寧1年(雄略23年)、①清寧、磐余の璽栗に宮を定め、以前と同じに大伴室屋大連を大連とし、平群真鳥大臣を大臣とする ⑦天皇が病となり、政務を皇太子へゆだねた ⑧雄略56歳没。星川王が戮辱を及ぼすことを大伴室屋大連と東漢掬直へ遺勅。このとき征新羅將軍吉備臣尾代に従っていた五百人の蝦夷が結集して反乱をおこすが、尾代がごとごとく攻め殺す 同月、雄略妃吉備稚媛、子の星川皇子に進言し皇位に就くために大蔵の官をとらせる。大伴室屋・東漢掬直、雄略の遺詔により大蔵を包圍して星川皇子焼殺。したがっていた兄君・城丘前来自[名は伝わらない]も焼け死ぬ。このとき河内三野県主小根が逃げ出し、草香部吉士漢彦にすがり大伴大連に助命を乞い許される。小根、大伴大連に難波来目邑大井戸の田十町を、また漢彦に田地を贈る。この月、星川皇子を救うため吉備上道臣ら船師四十艘を率いて海を渡りはじめるが、焼き殺されたことを聞き、帰る。清寧、使者を派遣して上道臣を責め、山部を奪う ⑩大伴室屋大連が、臣や連らを率いて璽を皇太子に奉る。この月、雄略を丹比高鷲原陵へ葬る。このとき隼人が殉死し、陵の北に墓を造り、儀礼にしたがい葬る	511	

512	2/23歳		顯宗 ↓ 27歳	仁賢 ↓ 29歳	清寧2年、②清寧、子のいないこと残念に思い、名を遺すために大伴室屋大連を諸国に遣わし、白髪部舍人・白髪部膳夫・白髪部鞆負を置く ①大嘗料を徴収に遣わされた伊予来目部小楯が、赤石郡縮見の屯倉の首である忍海部造細目の新築の家にて市辺押磐皇子の子、仁賢(億計)と顯宗(弘計)を見出し、早馬にて奏上。この月、小楯に節刀を授け、赤石へ迎えに遣わす				清寧2年、②清寧、子のいないこと残念に思い、名を遺すために大伴室屋大連を諸国に遣わし、白髪部舍人・白髪部膳夫・白髪部鞆負を置く ①大嘗料を徴収に遣わされた伊予来目部小楯が、赤石郡縮見の屯倉の首である忍海部造細目の新築の家にて市辺押磐皇子の子、億計と弘計を見出し、早馬にて奏上。この月、小楯に節刀を授け、赤石へ迎えさせる	512
513	3/24歳		28歳	30歳	清寧3年、①小楯、摂津国に至り、仁賢(億計)と顯宗(弘計)を宮内に迎える ④仁賢立太子、顯宗を皇子とする ⑦飯豊皇女が角刺宮で、初めて夫と性交※性交の意味は、忌籠る状態から解かれたことを表象し、子のできぬ清寧の日嗣にかかわる祭祀を担っていたことになる。この頃、飯豊皇女の年齢は26歳ほどであったと思われる ⑨臣・連を遣わし、風俗を巡視させる ⑩犬や馬や賞翫物の献上を禁止 ⑪臣・連を召し、宴を催して綿・帛を賜る。この月、海外の国々には使者を派遣し、調を奉る				清寧3年、①小楯、摂津国に至り、億計と弘計を宮内に迎える ④億計を皇太子と、弘計を皇子とする…仁賢(30歳)立太子 ⑦飯豊皇女(26歳前後)が角刺宮で、初めて夫と性交 ⑨臣・連を遣わし、風俗を巡視させる ⑩犬や馬や賞翫物の献上を禁止 ⑪臣・連を召し、宴を催して綿・帛を賜る。この月、海外の国々には使者を派遣し、調を奉る	513

514	(4)/25歳		29歳	1/31歳	<p>清寧4年、①海外の使者のために宴を催し、物を賜るのに差があった ⑤宴が五日におよぶ ⑧天皇みずから囚徒を取り調べ。この日に蝦夷・隼人がともに内附 ⑨天皇、射殿にて百寮と海外の使者に詔して射せしめられ、物を賜るのに差があった※前年10月以降、ここまでの記事は、仁賢立太子からつづく祝いにかかわる事跡で、その内容から顕宗前に、兄の仁賢が清寧の皇位継承者であったことが確定でき、顕宗即位前記の清寧5年正月に記す「この月に、皇太子の億計王(仁賢)と天皇(顕宗)とは皇位をお譲りあいになられた。久しいあいだ皇位に即かない状態になった。そのため、天皇の姉君の飯豊青皇女が、忍海角刺宮で、政朝をお執りになった」の、皇位譲り合いを含む記事が、書紀編纂者の誤認による創作であることが指摘できる。おそらく、書紀編纂者のもっとも重大な誤認を誘発したのは、仁賢の記録に付された「皇太子」の称号で、それを直接の皇位継承とはせず、天皇位への過渡的称号と解釈したことにより、他方の顕宗を天皇位へ就いたものとして誤認したことが、皇位譲り合いの幻想を醸し出したものと思われる。なお、書紀において清寧紀・顕宗紀と仁賢紀で、二人の皇子の発見年と仁賢立太子年を違えている問題は、発見年を清寧1年とする仁賢紀の出典本に、仁賢紀の前文として市辺押磐殺害以降の経過が記されていたことを想定させ、それを仁賢元年に誤認したもの。また立太子を清寧2年とするのは、その年に併走するのが清寧5年の清寧が没した年であるため、それを皇位継承の仁賢の立太子年に誤る記事が挿入されていたことを想定させる。その場合、出典の原本は、皇位継承順位が仁賢から顕宗へ逆転していたことになる。</p> <p>仁賢1年、①仁賢、石上広高宮で即位 ②春日大娘皇女を皇后に立てる</p>			<p>仁賢1年(清寧皇統4年)、①仁賢、石上広高宮で即位 この月、海外の使者のために宴を催し、物を賜るのに差があった ⑤宴が五日におよぶ ⑧天皇みずから囚徒を取り調べ。この日に蝦夷・隼人がともに内附 ⑨天皇、射殿にて百寮と海外の使者に詔して射せしめられ、物を賜るのに差があった</p>	514
515	(5)/26歳	武烈 ↓ (1歳)	30歳	2/32歳	<p>清寧5年、①清寧没 ①清寧を河内坂門原陵へ葬る。この月に、皇太子の億計王(仁賢)と天皇(顕宗)とは皇位をお譲りあいになられた。久しいあいだ皇位に即かない状態になった。そのため、天皇の姉君の飯豊青皇女が、忍海角刺宮で、政朝をお執りになった※書紀編纂者の誤認(前年の注参照)</p> <p>仁賢2年、⑨顕宗皇后難波小野が非礼により自害※小野王は雄略の曾孫とされ、年齢に矛盾。事跡年代の誤認ないしは粉飾の可能性がある</p>			<p>仁賢2年(清寧皇統5年)、①清寧26歳没 ①清寧を河内坂門原陵へ葬る</p>	515
516		(2歳)	31歳	3/33歳	仁賢3年、②石上部舎人を置く			仁賢3年、②石上部舎人を置く	516
517		(3歳)	32歳	4/34歳	仁賢4年、⑤的臣蚊嶋と穂瓮君、罪を犯し死			仁賢4年、⑤的臣蚊嶋と穂瓮君、罪を犯し死	517
518		(4歳)	33歳	5/35歳	仁賢5年、②国郡に散亡していた佐伯部を求め、市辺押磐皇子の帳内であった佐伯部仲子の子孫を佐伯造とする			仁賢5年、②国郡に散亡していた佐伯部を求め、市辺押磐皇子の帳内であった佐伯部仲子の子孫を佐伯造とする	518

519		(5歳)	34歳	6/36歳	仁賢6年、⑨日鷹吉士を高麗へ遣わし巧手者を召す。出発後、難波の港に同行の鹿木という者との別れを悲しみ妻の飽田女が泣く姿があったと云う。この年、日鷹吉士が高麗より帰国し、工匠の須流枳・奴流枳らを献上(皮革精製集団)※これは高麗本記の安蔵王即位と関係する使節団の派遣としてとらえられる				仁賢6年、⑨日鷹吉士を高麗へ遣わし(安蔵王即位の使節団?)巧手者を召す。出発後、難波の港に同行の鹿木という者との別れを悲しみ妻の飽田女が泣く姿があったと云う。この年、日鷹吉士が高麗より帰国し、工匠の須流枳・奴流枳らを献上(皮革精製集団)	文咨明王没。安蔵王即位高句麗本記	519
520	継体 ↓ 37歳	(6歳)	35歳	7/37歳	仁賢7年、武烈立太子※武烈即位前紀にある「(武烈は)億計天皇の七年に皇太子にお立ちになられた」は、書紀編纂者が皇位譲り合いによる弟の顕宗から兄の仁賢への逆転継承を設定したために、この立太子を武烈へ誤認したもので、本来は顕宗立太子				仁賢7年、顕宗(35歳)立太子		520
521	38歳	(7歳)	顕宗1/36歳	(8)/38歳	顕宗1年、①公卿百寮を近飛鳥八鈎宮に召し、即位※書紀注に顕宗には小郊・池野・養栗という多くの宮の存在していたことが伝承されており、このことを意味付けるのが武烈前紀の「十一年の八月に億計(仁賢)天皇がお隠れになった。大臣の平群真鳥臣は、もっぱら国政をほしいままにして、日本に王として臨もうとしていた。偽って太子のために宮を造営するように見せかけ、竣工すると、即座に自分から住み込んだ」であることが考えられ、皇位譲り合いが書紀編纂者の誤認で、仁賢→顕宗→武烈への皇位継承を表わしていることになる。この月、難波小野王を皇后に立て、天下に大赦令を出す※小野王は雄略の曾孫とされ、年齢に矛盾がある。小野王は星川皇子の兄の磐城皇子の孫にあたり、仁賢2年の非礼による自害とともに、事跡年代の誤認ないしは粉飾の可能性がある ②先王(市辺押磐皇子)の御骨の所在が分からぬことを詔。この月、御骨の所在を知る老婆の倭宿禰の置目を連れ、蚊屋野にて御骨発見。同時に殺害された佐伯部仲子と分別できず、同じ陵を二つ造り葬る ③後苑にて曲水の宴を催す ④顕宗を見出した来目部小楯を賞し、望みの山官に任じ、山部連の姓を賜わって吉備臣の副官とし、山部を民とする ⑤市辺押磐皇子の殺害に連座した狭狭城山君倭宿禰の死罪を減じ、陵戸にあて、賤民として山部連に隸属させる。置目は功により本姓の狭狭城山君の氏を賜う ⑥避暑殿で奏楽を催す				顕宗1年、①公卿百寮を近飛鳥八鈎宮に召し、即位 ②先王(市辺押磐皇子)の御骨の所在が分からぬことを詔。この月、御骨の所在を知る老婆の倭宿禰の置目を連れ、蚊屋野にて御骨発見。同時に殺害された佐伯部仲子と分別できず、同じ陵を二つ造り葬る ③後苑にて曲水の宴を催す ④顕宗を見出した来目部小楯を賞し、望みの山官に任じ、山部連の姓を賜わって吉備臣の副官とし、山部を民とする ⑤市辺押磐皇子の殺害に連座した狭狭城山君倭宿禰の死罪を減じ、陵戸にあて、賤民として山部連に隸属させる。置目は功により本姓の狭狭城山君の氏を賜う ⑥避暑殿で奏楽を催す		521
522	39歳	(8歳)	2/37歳	(9)/39歳	顕宗2年、③後苑で曲水の宴を催す ⑧雄略陵を壊す労役を中止 ⑨置目が老いて帰国を願い許される ⑩群臣のために宴を催す				顕宗2年、③後苑で曲水の宴を催す ⑧雄略陵を壊す労役を中止 ⑨置目が老いて帰国を願い許される ⑩群臣のために宴を催す。		522

523	40歳	武烈1/(9歳)	3/38歳	(10)/40歳	<p> <b>顕宗3年</b>、②阿閉臣事代を任那につかわす。そのとき、月神が人にのりうつり、事代、京へもどり奏上③後苑で曲水の宴を催す ④日神が人にのりうつり、事代奏上し、神の乞いのおりに田十四町献上。対馬の下県直が祠に奉仕。福草部を置く※②・④の事代の奏上は個々の奏上ではなく、後日の帰国後の奏上を、事件の発生月によって分断したものと思われ、事代の派遣は紀生磐宿禰の軍事行動に伴う神官の派遣的な性格をもつものか？帰国後の奏上をさし、④の田の献上以下の傍線部分も、後日のことと思われる。この月、八釣宮で顕宗没。この年、紀生磐宿禰は、任那を股にかけて、高麗と通行した。西方で、三韓の王になろうとして官府を整え、自身から神聖と称した。任那の左魯と那奇他甲背らが計略を用い、百済の適莫爾解を爾林で殺した〔爾林は、高麗の地である〕。帯山城(全羅北道井邑郡泰山)を築いて、東道を防ぎ守る。百済王は激怒して帯山を攻撃、紀生磐宿禰は逆襲するも兵が尽き、任那から帰国※紀生磐宿禰は、紀大磐宿禰と同一人とされ、雄略代に高句麗の貢を阻止し、百済の城を併呑した新羅を征伐するために大將軍を命ぜられた紀小弓宿禰の子。戦地での父の病死により、渡海。父と行動をともにして小鹿火宿禰の掌握していた軍を奪い取り、身勝手な行動をとっていたことが雄略紀に記録されている。したがって、当時の情勢は倭と高句麗の関係には敵対は無く、百済本記の本年8月の高句麗の百済侵略と関係づければ、紀生磐宿禰の「三韓の王になろうとして」という行動は、高句麗と百済の交戦を利用したものとしてよりよく理解できる  <b>仁賢1年</b>、⑩顕宗を傍丘磐杯丘陵へ葬る※皇位譲り合いを設定したための誤認で、本来武烈元年の十月と思われる  <b>武烈1年</b>、③武烈、春日娘子を皇后へ立てる </p>	<p> <b>顕宗3年</b>、②阿閉臣事代を任那につかわす。そのとき、月神が人にのりうつるといふ風聞あり ③後苑で曲水の宴を催す ③武烈、春日娘子を皇后へ立てる ④日神が人にのりうつるといふ再聞あり。そののち事代帰国して奏上し、神の乞いのおりに田十四町献上。対馬の下県直が祠に奉仕。福草部を置く。この月、顕宗、八釣宮で(38歳)没 ⑩傍丘磐杯丘陵へ葬る。この年、紀生磐宿禰は、任那を股にかけて、高麗と通行した。西方で、三韓の王になろうとして官府を整え、自身から神聖と称した。任那の左魯と那奇他甲背らが計略を用い、百済の適莫爾解を爾林で殺した〔爾林は、高麗の地である〕。帯山城(全羅北道井邑郡泰山)を築いて、東道を防ぎ守る。百済王は激怒して帯山を攻撃、紀生磐宿禰は逆襲するも兵が尽き、任那から帰国 </p>	<p> ⑤百済武寧王没、聖明王即位<small>墓誌・百済本記</small> ⑧高句麗が百済を侵略。百済、一万の兵を出して防ぐ<small>百済本記</small> </p>	523
-----	-----	----------	-------	----------	--	---	--	-----

524	41歳	2/(10歳)	(11)/41歳	<p>仁賢11年、⑧仁賢没 ⑩埴生坂本陵へ葬る  ※書紀では武烈即位前紀で仁賢11年8月の仁賢崩御記事につづけて、大臣平群真鳥臣の專擅の記事が入る。このうち、武烈が召そうとする影媛は古事記では顕宗で、挿入されている歌垣も入れ違っている。書紀と古事記が同じ皇位継承順位を執りながらも違えているのは、古事記の方が原記を重んじ、書紀が誤認する論理に沿うよう改ざんしていることになる。そうなると影媛は古事記に記す如く、本来顕宗の求めた妃で、鮪臣がすでに娶っていたことになる。ここに顕宗に子の無いことの意味が理解されてくる。また、このことから派生し、雄略の曾孫とされる顕宗皇后難波小野も取り違えによる誤認で、本来幼き武烈の形式上の妃であることが想定されてくる ⑪大伴大連(金村)が將軍となり真鳥大臣の家を包圍して焼く ⑫大伴金村連、政を太子に返す。武烈、壇場を泊瀬列城に設けて即位し、そこに都を定め、大伴金村連を大連とする  武烈2年、妊婦の腹を裂き、胎児を見る※武烈が幼き頃の獸類などを対象とした行為の誤伝か?</p>	<p>仁賢11年、⑧仁賢(41歳)没 ⑩埴生坂本陵へ葬る</p>	524
525	42歳	3/(11歳)		<p>武烈3年、人の生爪を抜いて、暑預(芋)を握らせる※武烈が幼き頃の獸類などを対象とした行為の誤伝か? ⑪信濃国の男丁を徴発し、水派邑に城の像を作ることを命ずる。この月に意多郎が死亡し高田丘の上に葬る</p>	<p>武烈3年、⑪信濃国の男丁を徴発し、水派邑に城の像を作ることを命ずる。この月に意多郎が死亡し高田丘の上に葬る</p>	525
526	43歳	4/(12歳)		<p>武烈4年、④人の頭髮を抜き、樹の先端に昇らせ、切り倒して落とし殺すのを楽しみとする※武烈が幼き頃の獸類などを対象とした行為の誤伝か?</p>		526
527	44歳	5/(13歳)		<p>武烈5年、④人を池の樋に伏せ入らせ、三刃の矛で刺し殺すことを楽しみとする※武烈が幼き頃の魚類などを対象とした行為の誤伝か?</p>		527
528	45歳	6/(14歳)		<p>武烈6年、⑨子が無いため名を遺すために天皇の旧例によって、小泊瀬舎人を置く※舎人の設置理由は書紀編纂者の主観的誤認?  ⑩百済国、麻那君を遣わし調進上。天皇は百済が何年も貢を献上しなかったと思われるので、使者を抑留して帰還させず※この記事は、翌529年の高句麗の百済侵攻を察知しての倭への救援要請を背景とした朝献と思われる、使者を帰還させなかったのは、百済の真意を推し量るための処置であったと判断される。それは5年前の顕宗3年の紀生磐宿禰が任那にあつて高句麗と通交し、百済の適莫爾解を爾林で殺害して百済と交戦状態に入っていることからみて、それが紀生磐宿禰の個人の行動であつたにしろ、百済が偽って倭を陥れようとしているのではないかという懷疑の目を、朝廷が百済へ向けていたことを映し出す</p>	<p>武烈6年、⑨小泊瀬舎人を置く ⑩百済国、麻那君を遣わし調進上し、使者を留めさせる</p>	528

529	46歳	7/(15歳)		<p><b>武烈7年</b>、②人を樹に昇らせ、弓で射落とし見下して笑った※幼き頃の獣類などを対象とした行為の誤伝か? ④百済王が、斯我君を遣わし調を進上。別に表を上って、「さきに調を献った使者の麻那は、百済国の主の骨族ではない。そこで、謹んで斯我を遣わして、朝廷に仕え奉らせる」と申し上げた。ついに子が出来て、法師君と言った。これが倭君の先祖である※前年10月につづくもので、これも本年10月に起こる高句麗の百済侵攻を前にした、百済による倭との関係強化策。前年、使者を留め置いた倭の疑念を払しよくするための人質の派遣であることが類推できる</p>		<p><b>武烈7年</b>、④百済王が、斯我君を遣わし調を進上。別に表を上って、「さきに調を献った使者の麻那は、百済国の主の骨族ではない。そこで、謹んで斯我を遣わして、朝廷に仕え奉らせる」と申し上げた。ついに子が出来て、法師君と言った。これが倭君の先祖である</p>	<p>⑩高句麗王の興安(安蔵王)がみずから兵馬を率いて百済へ侵攻し、北辺の穴城を落とす。佐平燕謨に命じ、歩騎三万をもって五谷之原で防ぐが、克せず、死者二千余人を出す  <b>武烈7年頃</b>、この頃、百々石城の北方に大宮造営。外郭、大御門等整備し、金村率いる軍兵700人で守護北村某の家記 ※この記事は、継体2年のところで書かれているが、「既にして…」とあり、それより2年後に継体宮と称する北背へ都を移したとあることから、これを樟葉宮とみて武烈7年に位置付ける。この段階で継体が息長本拠地へ入り、それを古き忍坂大中女姫御幸の御殿の遺名をもちい忍坂の宮と称したか?</p>	529
530	47歳	8/(16歳)		<p><b>武烈8年</b>、③女を裸にして馬と交接させ、陰部の状態を見て殺したり、没して官碑とした。これを楽しみとした。 そのころ庭園を作り鳥獣を沢山飼う。狩を楽しみ犬と馬を競争させる。出廷や退廷の時間はまちまちで、贅沢にあぐれ、美食をして天下の飢えを顧みず。淫靡な音楽を奏させ、日夜をたがわず宮人と酒に酔いしれ等々※これらがどれほどに真実を映し出しているかはわからぬが、一般的な状況として武烈の成長を通し見ると、幼少期からの甘やかしにより、粗暴な青年に育っていたことが感受でき、その粗暴さが若き死を招く事態を引き起こしたことは充分考えられる  ⑫武烈没。大伴金村大連、大臣許勢臣男人と大連物部連鹿火と協議し、丹波国桑田郡の仲哀天皇五世の孫の倭彦王を立てようとするが、山中に逃げ込み行方知れずに</p>		<p><b>武烈8年</b>、③武烈の粗暴極まる ⑫武烈没(16歳ほど)。大伴金村大連、大臣許勢臣男人と大連物部連鹿火と協議し、丹波国桑田郡の仲哀天皇五世の孫の倭彦王を立てようとするが、山中に逃げ込み行方知れずに</p>		530

531	継体1/48歳	宣化 ↓ (31歳)	安閑 ↓ (32歳)	欽明 1歳	<p>継体1年、①伴金村大連、大臣許勢臣男人と大連物部連鹿火と協議し、節(君命をうけたしるしの旗)を持ち乗輿を整え、兵備を固め威儀を整え、継体を樟葉宮へ迎える※書紀の記述では同月6日に継体の居る福井の三国へ遣いを出し、説得に二日を要し、12日に大阪枚方の樟葉宮へ到着している。したがって実質五日で泊瀬列城宮→三国→樟葉宮間のおおよそ412kmを往復していることになり矛盾が生じている。この点に関し『大阪府全志』所収の「北村某の家記」に、「既にして天皇此の地に大宮を造宮せんと詔し給ひしかば、大伴金村大連は詔を奉じ来りて、百々石城の後門の北方なる御幸路に下乗を定め、南に入りて外廓、東を大御門とし、此の内に入りて北向に黒御門を置き、此の両御門には大伴金村大連の率ゆる軍兵七百人守護し、其れより西に向へば内廓大御門南に入り、北向は瑞御垣前にして、内廓外西に千早振建て、軍兵三百人昼夜警備す、此の地を千早部といふ、今千原部といへるは轉ぜしなり。此の瑞御垣内に河を掘りて瑞御門を造り、内に瑞の大御殿を造宮し、此の宮に御し給へること二年にして、北背に移し給ひぬ。而して後世此の宮を繼體宮と稱し奉る」という伝承があり、この段階で、継体は三国での養育期間を終え、近江の三尾にもどり、さらに継体の皇位継承を望む神功以来の息長氏の画策で、河内息長の本拠地(大阪府平野区喜連)に入っていることが知られる。このことにより先の距離の矛盾も的確に理解できるようになる ②大伴金村太連、継体に天子の璽符である鏡と剣を奉る。これまでどおり、許勢男人大臣を大臣、物部鹿火大連を大連とする。大伴金村大連が仁賢皇女の手白香皇女を皇后に立て、神祇伯らを遣わし神々に子の誕生を祈念することを奏請 ③手白香皇女を皇后に立てる。以前からの八人の妃を召す。この年、欽明誕生年</p>	<p>継体1年、①伴金村大連、大臣許勢臣男人と大連物部連鹿火と協議し、節(君命をうけたしるしの旗)を持ち乗輿を整え、兵備を固め威儀を整え、河内息長の本拠地(大阪府平野区喜連)に居す継体を説得して樟葉宮へ迎える…『大阪府全志』所収「北村某の家記」の伝承によると、既にして天皇此の地に大宮を造宮せんと詔し給ひしかば、大伴金村大連は詔を奉じ来りて、百々石城の後門の北方なる御幸路に下乗を定め、南に入りて外廓、東を大御門とし、此の内に入りて北向に黒御門を置き、此の両御門には大伴金村大連の率ゆる軍兵七百人守護し、其れより西に向へば内廓大御門南に入り、北向は瑞御垣前にして、内廓外西に千早振建て、軍兵三百人昼夜警備す、此の地を千早部といふ、今千原部といへるは轉ぜしなり。此の瑞御垣内に河を掘りて瑞御門を造り、内に瑞の大御殿を造宮し、此の宮に御し給へること二年にして、北背に移し給ひぬ。而して後世此の宮を繼體宮と稱し奉る ②大伴金村太連、継体に天子の璽符である鏡と剣を奉る。これまでどおり、許勢男人大臣を大臣、物部鹿火大連を大連とする。大伴金村大連が仁賢皇女の手白香皇女を皇后に立て、神祇伯らを遣わし神々に子の誕生を祈念することを奏請 ③手白香皇女を皇后に立てる。以前からの八人の妃を召す。この年、欽明誕生</p>	高麗安蔵王殺害される高句麗本記	531
532	2/49歳	(32歳)	(33歳)	2歳	<p>継体2年、⑩武烈を傍丘杯丘陵へ葬る ※⑫に「耽羅(済州島)の人がはじめて百済に使いを送る」が入るが、書紀編纂者の誤認する年代観のままに挿入された国外記事として508年の事跡記録と思われる</p>	<p>継体2年、⑩武烈を傍丘杯丘陵へ葬る</p>	<p>継体2年、天皇行幸、真手王(沙彌王の子)先導。その子真戸王、都夫良郎女とともに水死。「天皇は真戸王に嫁がしめ給ひ、平田の広瀬の垣内の御陵に二柱を葬れり」※「嫁がしめ」は、過去に遡った実際の婚姻ではなく、死後の道行を供にさせたという意味。真手王に世継ぎなく、継体天皇が子の阿豆王を、真手王の子である黒郎女に配し、息長を相続させる。北村某の家記</p>	532
533	3/50歳	(33歳)	(34歳)	3歳	<p>継体3年、②使を百済へ遣わす。任那の日本の村々に住む百済人のなかで、浮浪・逃亡してきたものを調べ、百済へ送りがえして戸籍をつける</p>	<p>継体3年、②使を百済へ遣わす。任那の日本の村々に住む百済人のなかで、浮浪・逃亡してきたものを調べ、百済へ送りがえして戸籍をつける</p>		533



534	4/51歳	(34歳)	(35歳)	4歳	<p>継体25年、②天皇の病が重くなる。継体、磐余玉穗宮で82歳没 ⑫継体を藍野へ葬る [ある本には、天皇が二十八年歳次甲寅(534)にお崩れになったとある。それなのにここに二十五年歳次辛亥にお崩れになったとするのは、『百済本記』によって文をなしたものである。その文には「太歳辛亥の三月に、百済の軍は進んで安羅(あら)に至り、乞毛城を築いた。この月に、高麗(高句麗)ではその王安(安蔵王)が殺された。また聞くところによると、日本では天皇及び太子・皇子がそろってなくなったということである」とある。これによると、辛亥の歳は二十五年にあたる。後世考究する人が、いずれが正しいかを知ることであろう]※この注より、書記編纂者が継体没年を百済本記の「日本では天皇及び太子・皇子がそろってなくなった」に基づいて設定していることが知られる。しかし、これは書記編纂者の編年観による誤認で、本来安蔵王殺害年の前年であった継嗣なき武烈崩御を伝えたものである。よって継体の没年は、書記注で、ある本にあるという「甲寅にお崩れになった」の534年とみなされ、それは継体4年に相当。なお、翌年以降、皇位継承の混乱により継体皇位年が皇統化して存続</p>				<p>継体4年、②病が重くなり、継体51歳没 ⑫継体を藍野へ葬る</p>	534
535	(5)/(……)		(36歳)	初期擁立 欽明 (1)/5歳	<p>継体5年、⑩都を山背の筒城に移す</p>			<p>継体皇統5年(欽明第1期1年)、⑩都を山背の筒城に移す</p>	535	
536	(6)/(……)		(37歳)	(2)/6歳	<p>継体6年、④穂積臣押山を百済へ遣すため、筑紫国の馬40匹を賜う ⑫百済が使を遣して調をたてまつり、任那国の上哆唎、下哆唎、娑陀、牟婁、四県を請う。哆唎国守穂積臣押山の助言で大伴大連金村も同調し、物部大連鹿火を以て勅を宣す。大兄皇子(安閑天皇)は事情があってこのことに関与せず※継体崩御後の安閑、欽明並立前年の混乱期に相当 あとで宣勅のあったことを知り、驚き残念がってこれを改めようとした※これは安閑天皇を擁立する大伴方に対し、欽明天皇擁立を主張する蘇我方の行動記憶と思われるこのことに「大伴大連と、哆唎国守穂積臣押山が、百済の賄賂を受けた」という流言があった(大伴大連金村による仁那四県割譲) 継体23年※新羅法興王23年(536)の誤認 ③百済王が下哆唎国守穂積臣押山臣に加羅の多沙津(蟾津江河口の地)を賜りたきことを奏上</p>			<p>継体皇統6年(新羅法興王23年)、③百済王が下哆唎国守穂積臣押山臣に加羅の多沙津(蟾津江河口の地)を賜りたきことを奏上 ④穂積臣押山を百済へ遣すため、筑紫国の馬40匹を賜う ⑫百済が使を遣して調をたてまつり、任那国の上哆唎、下哆唎、娑陀、牟婁、四県を請う。哆唎国守穂積臣押山の助言で大伴大連金村も同調し、物部大連鹿火を以て勅を宣す。大兄皇子(安閑天皇)は事情があってこのことに関与せず。あとで宣勅のあったことを知り、驚き残念がってこれを改めようとした。このことに「大伴大連と、哆唎国守穂積臣押山が、百済の賄賂を受けた」という流言があった(大伴大連金村による仁那四県割譲)</p>	536	

537	(7)/(……)	安閑1/(38歳)	安閑並立 欽明 1/7歳	<p>継体7年、⑥百済が姐彌文貴將軍と州利即爾將軍を遣し、穗積臣押山に従わせて五経博士段楊爾をたてまつり、別に伴跛国が己汶の地を略奪したので奪い返してほしいと奏上</p> <p>※仁那北部の一国である伴跛国が百済の己汶の地を略奪…割譲による混乱</p> <p>⑧百済太子淳陀薨す※淳陀は武寧王の子ではなく、聖明王の子と思われる</p> <p>⑪朝廷に、百済の姐彌文貴將軍、新羅の汶得至、安羅の辛己奚及び貢巴委佐、伴跛の既殿奚及び竹汶至等を召集し、勅を宣して己汶、帶沙(蟾津江河口の地)を百済国に賜う。この月、伴跛国は戢支を遣して珍寶を献上し、己汶の地を乞うたが、賜らず</p> <p>※百済が己汶を賜うも、珍寶を献上した伴跛国は賜らず</p> <p>⑫勾大兄(安閑)に「皇太子として自分を助けて仁政を行ない、至らないところを補うように」という詔あり</p> <p>※これは、書紀編纂者の主観で口語体として編集されているが、もとは継体没後の欽明と安閑の皇位継承争いの中で、安閑がこの年の3月に仁賢天皇の女の春日山田皇女を皇后に立てたことにより、正式に皇位継承を認められたことを意味するものと思われる</p> <p>継体23年3月中の記事※以下の記事は前年の新羅法興王23年(536)の誤認から派生する翌年の情景誤認で、己汶、帶沙を百済に賜う勅宣を契機にし、翌年にかけての情勢</p> <p>加羅は新羅と結び、日本を怨んだ。加羅の王は新羅の王の女を娶り、子をもうけた。しかし、新羅の支配強まり、加羅と新羅間の対立深まり、ついに新羅は刀伽、古跋、布那牟羅、三つの城を奪い、北境の五城も占領する</p> <p>※この時期、伴跛国は新羅と結んでいるものと思われ、継体24年9月の以下の記事が、本来ここでの情景を説明し得るものとなる。→(下欄へ)</p>	<p>安閑1年継体皇統7年(継体皇統7年・安閑並立欽明1年・新羅法興王24年)、②百済人己知部が帰化。倭国の添上郡の山村(奈良市)に置く</p> <p>⑤～⑥百済が姐彌文貴將軍と州利即爾將軍(下部修徳嫡徳孫・上部都徳己州己妻が同行?)を遣し、穗積臣押山に従わせて五経博士段楊爾をたてまつり、別に伴跛国が己汶の地を略奪したので奪い返してほしいと奏上</p> <p>⑦都を磯城郡の磯城嶋に遷した</p> <p>⑧百済太子淳陀薨す。同月、高麗、百済、新羅、任那がともに使を遣して物を献じ、朝貢した(百済太子淳陀薨すと関係か?)。秦人、漢人等、帰化した人々を集め、各地に住まわせて、戸籍に登録。秦人の戸数七千五十三戸。大藏掾を秦人の管理者として秦伴造とした</p> <p>⑨前年12月の仁那四県割譲以来、加羅が新羅と結び日本を怨んだ。加羅の王は新羅の王の女を娶り、子をもうけた。しかし、新羅の支配強まり、加羅と新羅間の対立深まり任那王の阿利斯等是新羅からの離反の気持ちをおこし久禮斯己母を帰国させ、奴須久利を百済に使して兵を請う。新羅は百済兵の来ることを聞き、背評に迎へ討って半数が死傷。百済は奴須久利をとらえて鉄の鎖で身体をしばり、阿利斯等を責めた。新羅は一ヶ月滞留し、久禮牟羅城と名付ける城を築いて帰還した。帰還の道すがら、騰利枳牟羅、布那牟羅、牟雌枳牟羅、阿夫羅、久知波多枳、五つの城を攻略</p> <p>同月(9月)難波祝津宮に幸す。大伴大連金村、許勢臣稻持、物部大連尾與等が従う。天皇、諸臣に「どれだけの軍兵があれば新羅を伐つことができるかたずねた。物部大連尾與等は「少しばかりの軍卒では、征討できません。→(下欄へ)</p>	537
-----	----------	-----------	--------------------	---	--	-----

				<p>任那王の阿利斯等は毛野臣からの離反の気持ちをおこし久禮斯己母を新羅に遣し、奴須久利を百済に使用して兵を請う。毛野臣は百済の兵来ると聞いて、背評【背評は地の名なり。亦の名は能備己富里】に迎へ討って半数が死傷した。百済は奴須久利をとらえて鉄の鎖で身体をしぼり、新羅とともに城を囲み阿リス等を責めたが、毛野臣が城を固めていたのでとらえることができず、二つの国は一ヶ月滞留し、久禮牟羅城と名付ける城を築きて帰還した。帰還の道すがら、騰利枳牟羅、布那牟羅、牟雌枳牟羅、阿夫羅、久知波多枳、五つの城を攻略した</p> <p>※書紀編年をそのまま解釈すると、毛野臣に離反した任那王の阿利斯等が、久禮斯己母を一方の新羅に、また他方で奴須久利を百済に遣わして救援を求めるが、以下の点で不自然である。一つは、新羅征討のために毛野臣が派遣されているのであるから、毛野臣が横暴だとしても新羅に救援を求めること。二つ目は毛野臣から離反して百済へ通報した奴須久利が鉄の鎖を付けられ、任那王の阿リス等とともに嚴重に罪を問われていること。三つ目は百済と新羅が結んで毛野臣に対してのこと。このことは、書紀編纂者が記事年代を誤認したことにより、同時期に存在していた毛野臣の事件を、「毛野臣が城を築いた」=「久禮牟羅城」と誤認し、編集した結果と思われる。そこで、「毛野臣」にかかわる記述を除外し、ここにおいて修正をこころみると、以下のように道理が通ってくる。→(下欄へ)</p>				<p>かつて男大迹天皇(継体)六年に、百済が使を遣して、任那の上哆唎、下哆唎、娑陀、牟婁、四県を求めた時、大伴大連金村は、あつさりとして四県を賜うことを許しました。このことで新羅はずっと怨んでいるので、軽々しく征討すべきではありません」このため、大伴大連金村は宅にこもり、病氣だと云って出仕しなかった。天皇は、青海夫人勾子を遣し、なぐさめ、罪とせずにいっそう手厚く待遇された</p> <p>①朝廷に、百済の姐彌文貴將軍、新羅の汶得至、安羅の辛已奚及び貴巴委佐、伴跛の既殿奚及び竹汶至等を召集し、勅を宣して己汶、帶沙(蟾津江河口の地)を百済国に賜う。この月、伴跛国は戢支を遣して珍寶を献上し、己汶の地を乞うたが、賜らず ②安閑、仁賢天皇の女の春日山田皇女を皇后に立て、正式に皇位継承を認められる</p>
--	--	--	--	---	--	--	--	--

				<p>任那四県の割譲に端を発し、加羅が新羅と結び、倭側の百済への対応に抵抗。しかし、新羅が加羅への支配を強化する中で双方離反。そうした情勢のなかでこの記述を追うと、任那王といわれる阿リス等が遣わしたとされる久禮斯己母は、加羅に常駐していた新羅人として加羅、新羅の関係悪化により逃げ帰ったもの。また他方の奴須久利は前業を顧みずに百済へ救いを求めたものと解釈されてくる。つまり、奴須久利が鉄鎖され、任那王の阿リス等とともに百済側に叱責される要因がここに潜在していたことになる。</p> <p>以下、元の記録を想像復元すると 二十四年秋九月(新羅法興王24年) 任那王の阿リス等は新羅からの離反の気持ちをおこし久禮斯己母を帰国させ、奴須久利を百済に使用して兵を請う。新羅は百済兵の来ることを聞き、背評に迎へ討って半数が死傷。百済は奴須久利をとらえて鉄の鎖で身体をしばり、阿リス等を責めた。新羅は一ヶ月滞留し、久禮牟羅城と名付ける城を築いて帰還した。帰還の道すがら、騰利枳牟羅、布那牟羅、牟雌枳牟羅、阿夫羅、久知波多枳、五つの城を攻略</p> <p>※こうして見ると、「五城攻略」を記す、継体24年9月と先の継体23年3月の条文は同一事件の異なる記録から出ていることが濃厚となる。このことにより、継体24年9月の本条文は新羅法興王24年(537)の記録に基づく誤編集 安閑1年、⑤百済が下部修德嫡德孫・上部都德己州己婁らを遣わして来朝し常例の調をたてまつり、また上表文をもたてまつった※この記事は、継体7年6月の百済が姐彌文貴將軍と州利即爾將軍を遣すと同一事跡の別伝と思われる</p>				
--	--	--	--	--	--	--	--	--

					<p>安閑並立欽明1年※以下は安閑に欽明が並立して立った段階の欽明1年の記事 ②百濟人己知部が帰化。倭国の添上郡の山村(奈良市)に置く ⑦都を磯城郡の磯城嶋に遷した ⑧高麗、百濟、新羅、任那がともに使を遣して物を献じ、朝貢した※百濟太子淳陀薨すと関係か? 秦人、漢人等、帰化した人々を集め、各地に住まわせて、戸籍に登録。秦人の戸数七千五十三戸。大藏掾を秦人の管理者として秦伴造とした ⑨難波祝津宮に幸す。大伴大連金村、許勢臣稻持、物部大連尾輿等が従う。天皇、諸臣に「どれだけの軍兵があれば新羅を伐つことができるかたずねた。物部大連尾輿等は「少しばかりの軍卒では、征討できません。かつて、男大迹天皇(継体)六年に、百濟が使を遣して、任那の上哆唎、下哆唎、娑陀、牟婁、四県を求めた時、大伴大連金村は、あっさり四県を賜うことを許しました。このことで新羅はずっと怨んでいるので、軽々しく征討すべきではありません」このため、大伴大連金村は宅にこもり、病氣だと云って出仕しなかった。天皇は、青海夫人勾子を遣し、なぐさめ、罪とせずにいっそう手厚く待遇された。是年、太歳庚申※庚申は書紀編年観による誤認。書紀編年では任那割讓から大伴失脚まで28年経過。修正年紀では翌年に相当</p>					
538	(8)/(……)	(38歳)	2/(39歳)	2/8歳	<p>継体8年、①安閑妃の春日皇女が子の無きことを悲嘆し、名を後世へ伝えるため匝布屯倉を賜う ③伴跋(任那北部の一國)は城を子呑と帯沙(蟾津江河口の地)に築き、満奚と結んで日本に備えた。また城を爾列比、麻須比に築き、麻且奚、推封と結び、軍や兵器を集めて新羅を圧迫し、村々を略奪  安閑2年、⑫勾金橋宮で安閑70歳没※70歳は書紀の編年観による誤認で、正しくは39歳ほど  安閑並立欽明2年※以下は安閑に欽明が並立して立った段階の欽明1年の記事 ④安羅の次早岐夷吞奚、大不孫、久取柔利、加羅の上首位古殿奚、卒麻の早岐、散半奚の早岐の子、多羅の下早岐夷他、斯二岐の早岐の子、子他の早岐などと、任那の日本府吉備臣とが、百濟に赴き、ともに天皇の詔書を承った。百濟の聖明王ら任那復興を協議 ⑦百濟、安羅の日本府と新羅と計を通ずを聞き、安羅の日本府の河内直を責め任那復興を協議。 同月、百濟、紀臣奈率彌麻沙と中部奈率己連を遣して来朝し、下韓(南加羅か?)や任那問題を奏上し、表をたてまつる</p>			<p>安閑2年(継体皇統8年・安閑並立欽明2年)、  ①安閑妃の春日皇女が子の無きことを悲嘆し、名を後世へ伝えるため匝布屯倉を賜う  ③伴跋(任那北部の一國)は城を子呑と帯沙(蟾津江河口の地)に築き、満奚と結んで日本に備えた。また城を爾列比、麻須比に築き、麻且奚、推封と結び、軍や兵器を集めて新羅を圧迫し、村々を略奪 ④安羅の次早岐夷吞奚、大不孫、久取柔利、加羅の上首位古殿奚、卒麻の早岐、散半奚の早岐の子、多羅の下早岐夷他、斯二岐の早岐の子、子他の早岐などと、任那の日本府吉備臣とが、百濟に赴き、ともに天皇の詔書を承った。百濟の聖明王ら任那復興を協議 ⑦百濟、安羅の日本府と新羅と計を通ずを聞き、安羅の日本府の河内直を責め任那復興を協議。 同月、百濟、紀臣奈率彌麻沙と中部奈率己連を遣して来朝し、下韓(南加羅か?)や任那問題を奏上し、表をたてまつる ⑫勾金橋宮で安閑(39歳ほど)没。</p>	<p>春、百濟、高句麗軍の南下により熊津から南方の扶余へ遷都百濟本紀</p>	538

539	(9)/(……)	宣化1/(39歳)		3/9歳	<p> <b>繼体9年</b>、②百済の使者文貴將軍等が帰国を乞うので、勅して、物部連を副へて帰す〔百済本記に云く、物部至々連〕。この月、沙都嶋に着くと、伴跋の人が恨を懷き暴虐の限りをつくしているとのうわさを聞いた。そこで物部連は、水軍五百を率て帯沙江(蟾津江河口の地)に到着し、文貴將軍は新羅を経由して百済へ入った。<b>※百済の使者、文貴將軍帰国。同行の物部連、伴跋人の暴虐を知り水軍500を率いて帯沙江へ</b> ④物部連、帯沙江(蟾津江河口の地)に停泊すること六日。伴跋が軍を興して攻めてきた。物部連等、恐れて逃げ、命からがら汶慕羅に停泊した〔汶慕羅は嶋の名也〕<b>※物部連、帯沙江より敗走</b>  <b>繼体23年</b>、この月(3月)<b>※「この月に」と</b>、はじまる記事は繼体23年3月の記事とするが、ここには「この月」という接続が二か所あり、内容に時間経過や異質な情況がみられ、断片化した資料の誤認接続と思われる。本記事は物部伊勢連父根(繼体9年2月の物部至々連)の記述関連より、繼体9年の2月につづく3月に置くべき誤認記事と思われる。物部伊勢連父根、吉士老等を遣し、多沙津(蟾津江河口の地)を以て百済の王に賜わろうとした。すると加羅の王が勅使に反論し、勅使一行を通行を阻止。勅使父根等、一旦大嶋に退き。別に録史を遣して百済に多沙津(蟾津江河口の地)を賜う<b>※「大嶋」は繼体9年4月の汶慕羅のことを指すものと思われる</b> </p>		<p> <b>宣化1年</b>(繼体皇統9年)、②多沙津(蟾津江河口の地)を以て百済の王に賜わるため、百済の使者文貴將軍等の帰国に随行させ、物部伊勢連父根、吉士老らを遣わすことを勅す。この月、沙都嶋に着くと、伴跋の人が恨を懷き暴虐の限りをつくしているとのうわさを聞いた。③水軍五百を率て帯沙江(蟾津江河口の地)へ到着。多沙津を百済王に賜わろうとする父根らに加羅の王が反論し、勅使一行の通行を阻止。そこで父根らとは別行動で、百済に多沙津を賜うための録史を随行させた文貴將軍が新羅經由で百済へ向かう ④帯沙江に停泊すること六日、伴跋が軍を興して攻めてきた。父根ら、恐れて逃げ、命からがら汶慕羅に停泊した〔汶慕羅は嶋の名也〕 </p>	539
-----	----------	-----------	--	------	---	--	--	-----

540	(10)/(……)	2/(40歳)	後代に確定される安閑 並立欽明1	4/10歳	<p>継体10年、⑤百済、前部木菟不麻甲背を遣して、物部連等を己汶に迎え、先導して国に入る。群臣らは物部連を慰問し、たまいものを送った ⑨百済が州利即次將軍を物部連に従わせて倭へ遣わし、己汶の地を賜わったことを感謝。別に五経博士漢高安茂をたてまつり、博士段楊爾に代えることを許可。戊寅に、百済は灼莫古將軍、日本の斯那奴阿比多を遣わし、高麗の使、安定等に付き添わせて来朝し、修好した※百済、物部連に従わせて州利即次將軍を遣し、己汶の地を賜ったことを謝す</p> <p>宣化2年、⑩新羅が任那を侵略したため、大伴金村大連に詔し、その子の磐と狭手彦を遣わし任那を助ける。磐は筑紫に留まって三韓に備え、狭手彦はかの地に赴いて任那をはずめ、百済を救った</p> <p>安閑並立欽明4年、④百済の紀臣奈率彌麻沙等が帰国※二年前の7月、日本府の中に新羅へ内通する河内直羅がいたことを奏上に来た紀臣奈率彌麻沙らの帰国を伝える記事 ⑨百済の聖明王が前部奈率眞牟貴文と護徳己州己婁と物部施徳麻奇牟等を遣し、扶南の財物と奴二口を献上する※継体10年9月と同一事跡の別伝と思われる ⑪百済に津守連を遣し、詔して「任那の下韓にある百済の郡令、城主を日本府に属させるように」。また詔書を持たせ、早く任那を復興するよう宣した。聖明王、三人の佐平内頭及び諸臣と協議 ⑫百済の聖明王は群臣に詔を示す。この月、施徳高分を遣して、任那の執事と日本府の執事とを召集したが、応じず</p>	<p>宣化2年(継体皇統10年・安閑並立欽明4年)、④百済の紀臣奈率彌麻沙等が帰国 ⑤百済、前部木菟不麻甲背を遣して、物部連等を己汶に迎え、先導して国に入る。群臣らは物部連を慰問し、たまいものを送った ⑨百済が州利即次將軍を物部連に従わせて倭へ遣わし、己汶の地を賜わったことを感謝。別に五経博士漢高安茂をたてまつり、博士段楊爾に代えることを許可。戊寅に、百済は灼莫古將軍、日本の斯那奴阿比多を遣わし、高麗の使、安定等に付き添わせて来朝し、修好した。同月の別伝として、百済の聖明王が前部奈率眞牟貴文と護徳己州己婁と物部施徳麻奇牟等を遣し、扶南の財物と奴二口を献上する ⑩新羅が任那を侵略したため、大伴金村大連に詔し、その子の磐と狭手彦を遣わし任那を助ける。磐は筑紫に留まって三韓に備え、狭手彦はかの地に赴いて任那をはずめ、百済を救った ⑪百済に津守連を遣し、詔して「任那の下韓にある百済の郡令、城主を日本府に属させるように」。また詔書を持たせ、早く任那を復興するよう宣した。聖明王、三人の佐平内頭及び諸臣と協議 ⑫百済の聖明王は群臣に詔を示す。この月、施徳高分を遣して、任那の執事と日本府の執事とを召集したが、応じず</p>	⑨王は將軍燕会に命じて高句麗牛山城を攻めたが克てなかった百済本記	540
541	(11)/(……)	3/(41歳)	2	5/11歳	<p>安閑並立欽明5年、①百済国は使を遣し、任那の執事と日本府の執事とを再召集したが、またも応じず。この月、百済は再々度、任那の執事と日本府の執事とを召集。しかし、日本府と任那は執事を遣らず身分の低い者を派遣。よって、百済は任那国の復興を協議できなかった ②百済は施徳馬武、施徳高分屋、施徳斯那奴次酒等を任那に遣し、日本府と任那の早岐等に天皇の詔をうけたまわるように強く申しわたす ③百済は奈率阿毛得文、許勢奈率奇麻、物部奈率奇非等を遣し、上表 ⑩百済の使人奈率得文、奈率奇麻等、帰国。〔百済本記に云く、冬十月に、奈率得文、奈率奇麻等、日本より還りて曰へらく、奏す所の河内直、移那斯、麻都等が事は、報勅無しといへりといふ〕 ※こうした状況を押し量ると、百済への任那四県割譲を挙行した大伴金村大連とそれを批判した物部大連尾輿の対立が、半島において、河内直を筆頭に百済を良しとせぬ親新羅派の官人たちの抵抗を生みだしていたことが映し出されてくる。 ⑪百済、使を遣はして日本府の臣、任那の執事を召集し任那復興を計画。久禮山の五城についても協議</p>	<p>宣化3年(安閑並立欽明5年)、①百済国は使を遣し、任那の執事と日本府の執事とを再召集したが、またも応じず。この月、百済は再々度、任那の執事と日本府の執事とを召集。しかし、日本府と任那は執事を遣らず身分の低い者を派遣。よって、百済は任那国の復興を協議できなかった ②百済は施徳馬武、施徳高分屋、施徳斯那奴次酒等を任那に遣し、日本府と任那の早岐等に天皇の詔をうけたまわるように強く申しわたす ③百済は奈率阿毛得文、許勢奈率奇麻、物部奈率奇非等を遣し、上表 ⑩百済の使人奈率得文、奈率奇麻等、帰国。〔百済本記に云く、冬十月に、奈率得文、奈率奇麻等、日本より還りて曰へらく、奏す所の河内直、移那斯、麻都等が事は、報勅無しといへりといふ〕 ⑪百済、使を遣はして日本府の臣、任那の執事を召集し任那復興を計画。久禮山の五城についても協議</p>		541

542	(12)/(……)	4/(42歳)	3	<p>6/12歳</p> <p>継体12年、③弟国へ遷都※この遷都には地理的な位置から見て、深草里で見い出され、富を為して欽明の財政をつかさどったとされる秦大津父との関係が想定でき、そのことから欽明擁立とかがわることが指摘できる</p> <p>宣化4年、②檜隈廬入野宮で宣化73歳没※73歳は書紀の編年観による誤認で、正しくは42歳ほど</p> <p>安閑並立欽明6年、③膳臣巴提便を使として百済へ遣わした ⑤百済は奈率用奇多(物部連)・施徳次酒(斯那奴次酒)等を遣わして上表した ⑨百済は中部護徳菩提らを任那に遣わし、呉(中国江南地方)の財物を日本府の臣や早岐等に贈った。この月、百済は天皇ならびに百済・任那の徳福を願い六丈仏を造った ⑩膳臣巴提便が百済から帰国※書紀ではこの記事につづき、「この年、高麗(高句麗)が大いに乱れる」を挿入しているが、これは宣化が没した後、欽明への皇位継承が最終的に確定した段階の欽明皇位年の誤。なお、後に正統化されるこの欽明皇位元年は、宣化に並立するものとして1年遅れた宣化2年に起されているが、この1年のずれは、欽明擁立方が、継体からの流れをつくらんとする宣化方へ、幼少の欽明擁立にあたり安閑皇后の春日山田皇后への政務依頼など、懐柔策をとっていたことによるものと思われる。その遠因は、安閑擁立に尽力した大伴金村大連の任那割譲による失脚(この時点より2年前に遡る安閑元年に並立する欽明元年)。春日山田皇后への政務依頼は欽明即位前紀の「四年」に記されるが、これは宣化4年ではなく、安閑に並立して立てられた時期の欽明の皇位年として記憶されたもので、宣化皇位年では2年相当。→(右欄へ)</p>		<p>宣化4年(継体皇統12年・安閑並立欽明6年)、②檜隈廬入野宮で宣化没、42歳ほど</p> <p>③弟国へ遷都。同月、膳臣巴提便を使として百済へ遣わした ⑤百済は奈率用奇多(物部連)・施徳次酒(斯那奴次酒)等を遣わして上表した ⑨百済は中部護徳菩提らを任那に遣わし、呉(中国江南地方)の財物を日本府の臣や早岐等に贈った。この月、百済は天皇ならびに百済・任那の徳福を願い六丈仏を造った ⑩膳臣巴提便が百済から帰国</p> <p>(左欄より継続)→ よって、宣化元年から2年を皇位の定まらぬ混乱期と見て、この懐柔策がとられていたことが一年のずれ生じさせたことが想定できる。おそらく、この混乱は宣化4年までつづき、その宣化が没した段階で、一年のずれをもって並立して立てられていた欽明の皇位年が正統化され、従前の宣化期まで延ばされていた安閑に並立する欽明皇位年が、宣化の没したその6年を終止として、この一年のずれをもつ宣化並立皇位年へ統合されたように理解される</p>	542
-----	-----------	---------	---	---	--	--	-----



543	(13)/(……)	4/13歳	<p>←後代に確定される宣化並立欽明4年へ統合</p>	<p>継体21年※百濟聖明王21年(543)の誤 ⑥近江毛野臣が六萬の兵を率て、任那に赴き、新羅に破られた南加羅、濙己吞を再興して任那に合せようとした。筑紫国造磐井はかねて反逆をくわだてていたが、それを知った新羅は賄賂を贈り、毛野の軍を防ぐように勧めた。磐井は海路を遮断し、高麗、百濟、新羅、任那等の毎年の朝貢の船を奪い、毛野臣の軍を抑える※ここまでの情景は、この年の三月と思われる毛野臣の任那への出立までの描写をまとめししたもの。以下が6月の記事      天皇は大伴大連金村、物部大連鹿火、許勢大臣男人等に詔し、鹿火を將軍とすることを許可 ⑧天皇、物部鹿火大連に磐井討伐の將軍を命じ、全權を委任(磐井の反乱)      継体23年3月の最終の記事※6月の磐井の反乱記事の先頭と同じ文面。また継体24年9月の毛野臣は久斯牟羅に家を構えて二歳滞留[一本に三歳とある…]より、本記事は543年のものと判断される      この月(3月)、近江毛野臣を安羅に遣わし、勅して新羅に勧め、南加羅・濙己吞を再建させようとした。百濟は將軍君尹貴・麻那甲背・麻鹵等を安羅に遣し、天皇の詔勅を聴かせた。このとき新羅は、任那の官家を破ったことを恐れ、身分の低い者を遣わした。安羅は高堂を新築して勅使をみちびき、次に任那の国王が階段をのぼったが、百濟の將軍らは堂の下にあり謀議の間、いく月も庭に控え、それを恨んだ ④任那の王己能末多干岐が来朝した[己能末多とは阿利斯等である]。大伴大連金村を通し新羅の侵入から救ってほしいことを奏上。天皇、新羅と任那の和解をさす。この月、使を遣はして己能末多干岐を送り、任那にいる近江毛野臣に任那の王の奏上するところをよく問いただし、任那と新羅を和解させるように勅す。そこで、毛野臣は、熊川にあつて[一本には、任那久斯牟羅とある →(下欄へ)</p>		<p>宣化並立欽明4年(百濟聖明王21年)、③近江毛野臣を安羅に遣わし、勅して新羅に勧め、南加羅・濙己吞を再建させようとした。百濟は將軍君尹貴・麻那甲背・麻鹵等を安羅に遣し、天皇の詔勅を聴かせた。このとき新羅は、任那の官家を破ったことを恐れ、身分の低い者を遣わした。安羅は高堂を新築して勅使をみちびき、次に任那の国王が階段をのぼったが、百濟の將軍らは堂の下にあり謀議の間、いく月も庭に控え、それを恨んだ ④任那の王己能末多干岐が来朝し、大伴大連金村を通し新羅の侵入から救ってほしいことを奏上。天皇、新羅と任那の和解をさす。この月、使を遣はして己能末多干岐を送り、任那にいる近江毛野臣に任那の王の奏上するところをよく問いただし、任那と新羅を和解させるように勅す。そこで、毛野臣は、任那久斯牟羅(熊川?)にあつて、新羅・百濟の二国の王を召集。新羅の王佐利遲は、久遲布禮[久禮爾師知于奈師磨里?]を遣し、百濟は恩率彌騰利を遣して毛野臣のもとへ赴かせ、二王自身は参集しなかつた。毛野臣は大いに怒り二国の使を責めた。久遲布禮、恩率彌騰利は帰国して王に召に応じるように伝えた。すると新羅は、改めて上臣伊叱夫禮智干岐(異斯夫)を遣して、[新羅では、日本の大臣にあたるものを上臣とする。伊叱夫禮知奈末とも] 三千の兵を率いてきて、勅を聞こうとした。毛野臣は兵備を整えた数千の軍兵を遠くに見て、熊川より、任那の己叱己利城に入った。伊叱夫禮智干岐は、多多羅原(釜山南方の多大浦)にあつて、帰服のさまを示すことなく三ヶ月も待ち。しきりに勅を聞くことを要請したが、毛野臣はとうとう勅を宣しなかつた。たまたま伊叱夫禮智士卒が聚落で食物を求めていると。毛野臣の従者の河内馬飼首御狩のもとに立ち寄つた。御狩は、他人の家にかくれ、士卒の過ぎるのを待って、→(下欄へ)</p>	543
-----	-----------	-------	-----------------------------	--	--	---	-----

				<p>そこで、毛野臣は、熊川にあって【一本には、任那久斯牟羅とある※当時の動向からみて任那の久斯牟羅が有力と思える 新羅・百済の二国の王を召集。新羅の王佐利遲は、久遲布禮【一本には、久禮爾師知于奈師磨里とある】を遣し、百済は恩率彌騰利を遣して毛野臣のもとへ赴かせ、二王自身は参集しなかった。毛野臣は大いに怒り二国の使を責めた。久遲布禮、恩率彌騰利は帰国して王に召に応じるように伝えた。すると新羅は、改めて上臣伊叱夫禮智干岐(異斯夫)を遣して、〔新羅では、日本の大臣にあたるものを上臣とする。一本には伊叱夫禮知奈末とある〕三千の兵を率いてきて、勅を聞こうとした。毛野臣は兵備を整えた数千の軍兵を遠くに見て、熊川より、任那の己叱己利城に入った。伊叱夫禮智干岐は、多多羅原(釜山南方の多大浦)にあって、帰服のさまを示すことなく三ヶ月も待ち。しきりに勅を聞くことを要請したが、毛野臣はとうとう勅を宣しなかった。たまたま伊叱夫禮智士卒が聚落で食物を求めっていると。毛野臣の従者の河内馬飼首御狩のもとに立ち寄った。御狩は、他人の家にかくれ、士卒の過ぎるのを待って、こぶしを握って遠くからなぐるまねをした。士卒たちはそれを見つけ、「謹んで三ヶ月も勅旨を聞こうと待っているのに、いつこうに宣しようと思わず、勅を聞く使いを苦しめている、これはだまして上臣を殺そうというつもりだったのだ」といい、見たままを上臣に話した。上臣、四つの村を〔金官、背伐、安多、委陀を四村とする。一本には多多羅、須那羅、和多、費智を四村とある〕(いずれも任那の洛東江口の地方か)を侵し、ひとびとをすべて連れ去って本国に入った。→(下欄へ)</p>			<p>こぶしを握って遠くからなぐるまねをした。士卒たちはそれを見つけ、「謹んで三ヶ月も勅旨を聞こうと待っているのに、いつこうに宣しようと思わず、勅を聞く使いを苦しめている、これはだまして上臣を殺そうというつもりだったのだ」といい、見たままを上臣に話した。上臣、四つの村を〔金官・背伐・安多・委陀、あるいは多多羅・須那羅・和多・費智とも〕(いずれも任那の洛東江口の地方か)を侵し、ひとびとをすべて連れ去って本国に入った。「多多羅などの四村が掠奪されたのは、毛野臣の過失だ」という人があった ⑥近江毛野臣が六萬の兵を率て、任那に赴き、新羅に破られた南加羅、喙己吞を再興しようとした。筑紫国造磐井はかねて反逆をくだてていたが、それを知った新羅は賄賂を贈り、毛野の軍を防ぐように勧めた(この時系列からすると、毛野臣と磐井が直接交戦した記録が無いことも含め、磐井の反乱は、勅を奉じる毛野臣の渡航を直接阻止するものではなく、渡航後の任那での毛野臣の横暴を利用した新羅の画策をうけての、毛野臣を討伐しようとしたのが事の発端ではなかったか?)。磐井は海路を遮断し、毛野臣の軍を抑えようとした(補給路と朝廷との連絡網の遮断?)。そこで天皇はこの月に大伴大連金村、物部大連麁鹿火、許勢大臣男人等に詔し、麁鹿火を將軍とすることを許可 ⑧天皇、物部麁鹿火大連に磐井討伐の將軍を命じ、全権を委任(磐井の反乱)</p>	
				<p>「多多羅などの四村が掠奪されたのは、毛野臣の過失だ」という人があった ※和解のため毛野臣を派遣するが失敗      継体21年※これは百済聖明王21年(543)の誤      ⑥近江毛野臣が六萬の兵を率て、任那に赴き、新羅に破られた南加羅、喙己吞を再興して任那に合せようとした。筑紫国造磐井はかねて反逆をくだてていたが、それを知った新羅は賄賂を贈り、毛野の軍を防ぐように勧めた。磐井は海路を遮断し、高麗、百済、新羅、任那等の毎年の朝貢の船を奪い、毛野臣の軍を抑える※ここまでの情景は、この年の3月と思われる毛野臣の任那への出立までの描写をまとめしるしたもの。以下が6月の記事 天皇は大伴大連金村、物部大連麁鹿火、許勢大臣男人等に詔し、麁鹿火を將軍とすることを許可 ⑧天皇、物部麁鹿火大連に磐井討伐の將軍を命じ、全権を委任(磐井の反乱)</p>				

544	(14)/(……)	5/14歳	<p>継体22年※百濟聖明王22年(544)の誤 ①大將軍物部大連麁鹿火が磐井と筑紫の御井郡に交戦し、磐井を斬って反乱を鎮定 ②筑紫君葛子、父(磐井)の罪に連座することを恐れ、糟屋屯倉を献上して死罪を贖う</p>				<p>宣化並立欽明5年(百濟聖明王22年)、①大將軍物部大連麁鹿火が磐井と筑紫の御井郡に交戦し、磐井を斬って反乱を鎮定 ②筑紫君葛子、父(磐井)の罪に連座することを恐れ、糟屋屯倉を献上して死罪を贖う</p>	544	
545	(15)/(……)	6/15歳	<p>宣化元年※高句麗陽原王元年(545)の誤 ⑦物部大連麁鹿火没※麁鹿火の没年は、545の高句麗大乱にともなう陽原王元年に併記された記録を宣化元年に誤認したものと思われる      欽明6年、この年、高麗大きに亂れて、誅殺さるる者衆し。〔百濟本記に云く、十二月の甲午に、高麗國の細群と麁群と、宮門に戦ふ。鼓を伐ちて戦闘へり。細群敗れて兵を解かざること三日。盡に細群の子孫を捕へて誅しつ。戊戌に、貊國の香岡上王(安原王)薨せぬ〕</p>				<p>宣化並立欽明6年(高句麗陽原王元年)、⑦物部大連麁鹿火没。この年、高麗大きに亂れて、誅殺さるる者衆し。〔百濟本記に云く、十二月の甲午に、高麗國の細群と麁群と、宮門に戦ふ。鼓を伐ちて戦闘へり。細群敗れて兵を解かざること三日。盡に細群の子孫を捕へて誅しつ。戊戌に、貊國の香岡上王(安原王)薨せぬ〕</p>	<p>この年から翌年にかけて、高句麗王の外戚に王位継承を巡る内乱が起こり、王が乱中に死去で破れた側には2千人あまりの死者が出たという(高句麗大乱)百濟本記</p>	545
546	(16)/(……)	7/16歳	<p>継体24年※百濟聖明王24年(546)の誤 ②詔あり※この詔は書紀編纂者の脚色があると云えども、その根底には任官にかかわる自責の念が映し出されており、磐井の反乱を経ての半島での毛野臣の動向を伝え聞いているの詔のように感得されてくる ⑨任那の使が、毛野臣は久斯牟羅に滞在して二年〔一本に三歳とあるのは、往復の歳をあわせたものである〕※前年までで満三年。二年は書紀の編年観による誤認 政務を怠っていることを奏上。天皇、その行状を聞き、調吉士(毛野を召還する使いか)を遣し呼び戻そうとするが応じず。ひそかに河内の母樹馬飼首御狩を都に送り、天皇に勅命を果たさずには帰れない旨を奏上。その後、調吉士をそのまま返したら行状が知れると、調吉士に軍兵を率いさせて、伊斯祇牟羅城を守らせた。任那王の阿利斯等は、帰朝を聞き入れない毛野臣のすべての行状を知り、離反※以下5城を攻略した記事は537年(継体23年…536新羅法興王23年の誤認から派生する翌年の情景誤認)とした新羅が5城を攻略した関連記録の誤認編集とみられる 久禮斯己母を新羅に遣し、また奴須久利を百濟に使用して兵を請う。毛野臣、百濟の兵来ると聞きて、背評に迎へ討つ。〔背評は地の名なり。亦の名は能備己富利〕毛野臣が城を固めていたのでとらえることができず、二つの国は一ヶ月滞留し、久禮牟羅城と名付ける城を築きて帰還した。帰還の道すがら、騰利枳牟羅、布那牟羅、牟雌枳牟羅、阿夫羅、久知波多枳、五つの城を攻略した ⑩調吉士が任那より帰り、毛野臣が加羅を混乱におとしめていることを奏上。そこで天皇は目頼子を遣し、毛野臣を召還させた。〔目頼子は、未だ詳ならず〕 この年、毛野臣は召され、対馬に至り病死 一(下欄へ)</p>				<p>宣化並立欽明7年(継体皇統16年・百濟聖明王24年)、①百濟の使人中部奈率己連等が帰国についたので、良馬七十匹、船一十隻を賜わった ②任官の意義にかかわる詔あり ⑥百濟、中部奈率掠葉禮等を遣し調を奉った ⑨任那の使が、毛野臣は久斯牟羅に滞在して三年間政務を怠っていることを奏上。天皇、その行状を聞き、調吉士(毛野を召還する使いか)を遣し呼び戻そうとするが応じず。ひそかに河内の母樹馬飼首御狩を都に送り、天皇に勅命を果たさずには帰れない旨を奏上。その後、調吉士をそのまま返したら行状が知れると、調吉士に軍兵を率いさせて、伊斯祇牟羅城を守らせた。任那王の阿利斯等は、帰朝を聞き入れない毛野臣のすべての行状を知り、離反 ⑩調吉士が任那より帰り、毛野臣が加羅を混乱におとしめていることを奏上。そこで天皇は目頼子を遣し、毛野臣を召還させた。この年、毛野臣は召され、対馬に至り病死。そのほか、皇位継承問題で高麗大いに亂る</p>	546	

					<p>欽明7年、①百済の使人中部奈率己連等が帰国についたので、良馬七十匹、船一十隻を賜わった ⑥百済、中部奈率掠葉禮等を遣し調を奉った。この年、皇位継承問題で高麗大いに亂る※宣化が没して三年目にあたるこの年の記事から、欽明皇位年で表記された記事に限り、書紀編年上の年代観の誤認は解消される。なお、書紀の構造的な年代誤認が解消するのは、欽明18年とする威徳王即位の誤認(安閑並立欽明皇位年で記録)までで、欽明19年以降は誤認要素がほぼなくなり、既存の欽明皇位年の年代観と一致してくる</p>						
547	(17)/(……)		8/17歳		<p>欽明8年、④百済が前部徳率眞慕宣文、奈率奇麻等を遣し、救の軍を乞う。そのため下部東城子言を奉り、徳率汶休麻那と代える</p>				<p>宣化並立欽明8年、④百済が前部徳率眞慕宣文、奈率奇麻等を遣し、救の軍を乞う。そのため下部東城子言を奉り、徳率汶休麻那と代える</p>	547	
548	(18)/(……)		9/18歳		<p>繼体18年、①太子明(聖明王)即位※書紀の編年観による挿入誤認。正しくは523年  欽明9年、①百済の使人、前部徳率眞慕宣文等が帰国を願い出たので、救援軍の派遣を約束 ④百済は中部杆率掠葉禮等を遣し「徳率宣文等が勅を奉り帰国し援軍の要請を受けてくれたことを感謝。しかし、安羅と日本府が高麗を呼び寄せ、馬津城を攻略したという流言があり、調査を要請するとともに、派兵の一時中断を請う ⑥使を遣して百済に詔し、「徳率宣文の帰国後、そちらの様子はどうか。高句麗の侵略をうけたとのことだが、任那と共に策謀をめぐらし敵を防ぐように 閏⑦、百済の使人掠葉禮等が帰国 ⑩三百七十人を百済に遣し、城を得爾辛に築くのを助けさせた</p>				<p>宣化並立欽明9年、①百済の使人、前部徳率眞慕宣文等が帰国を願い出たので、救援軍の派遣を約束 ④百済は中部杆率掠葉禮等を遣し「徳率宣文等が勅を奉り帰国し援軍の要請を受けてくれたことを感謝。しかし、安羅と日本府が高麗を呼び寄せ、馬津城を攻略したという流言があり、調査を要請するとともに、派兵の一時中断を請う ⑥使を遣して百済に詔し、「徳率宣文の帰国後、そちらの様子はどうか。高句麗の侵略をうけたとのことだが、任那と共に策謀をめぐらし敵を防ぐように 閏⑦、百済の使人掠葉禮等が帰国 ⑩三百七十人を百済に遣し、城を得爾辛に築くのを助けさせた</p>	<p>①高句麗が穢兵六千と百済の独山城(馬津城)を攻める。②百済の求めで新羅三千の兵を派遣し、破る百済本記・新羅本記</p>	548
549	(19)/(……)		10/19歳		<p>欽明10年、⑥將徳久貴、固徳馬次文等が帰国を願い出たので詔し、「延那斯、麻都がひそかに使を高麗へ遣せたことにつき、問いただすために使いを遣わす。救援の軍については、願いでに従って停止する</p>				<p>欽明10年、⑥將徳久貴、固徳馬次文等が帰国を願い出たので詔し、「延那斯、麻都がひそかに使を高麗へ遣せたことにつき、問いただすために使いを遣わす。救援の軍については、願いでに従って停止する</p>	549	

550	(20)/(……)		11(20歳)	<p>継体20年、⑨磐余の玉穗へ遷都〔一本には七年とある〕※書紀注の「七年」は、本来の「廿」を「七」に読み違えたものと思われる。</p> <p>欽明11年、②使を遣して百済に詔して、百済王の片腕でもある奈率馬武を太子として朝廷へ派遣することを要請〔百済本記に云く、三月十二日辛酉に、日本の使人阿比多、三つの舟を率て、都下に来り至る〕④百済に滞在していた日本の使者の帰国に際し、高麗の奴を献上。百済、中部奈率皮久斤、下部施徳灼干那等を遣し、高句麗の虜十口を献上</p> <p>欽明23年、⑧大將軍大伴連狭手彦を遣わし兵数万を率いて高麗を討たせる。狭手彦は百済の計略を用い、高麗をつ破り、宮中の珍宝を奪い帰国。高麗王の内寝に掛けられていたと云う七織帳を天皇に奉り、他の珍宝と美女媛とその従女吾田子を蘇我稲目宿禰大臣に送った。大臣は二人の女を召し、妻として軽の曲殿へ住まわせた【一本には、十一年に大伴狭手彦連が百済国とともに高麗王陽香(陽原王陽崗)を比津留都に追いしりぞけるとある※この記事は高句麗討伐後のことまで記録しており、おそらく欽明23年8月は、珍宝の由緒に添えた伝承の記録日の誤認と思われる、狭手彦の事跡は明らかに550年1月の百済による高句麗の道薩城攻略を映し出している</p>			<p>宣化並立欽明11年(継体皇統20年)、②使を遣して百済に詔して、百済王の片腕でもある奈率馬武を太子として朝廷へ派遣することを要請〔百済本記に云く、三月十二日辛酉に、日本の使人阿比多、三つの舟を率て、都下に来り至る〕④百済に滞在していた日本の使者の帰国に際し、高麗の奴を献上。百済、中部奈率皮久斤、下部施徳灼干那等を遣し、高句麗の虜十口を献上 ⑨磐余の玉穗へ遷都。この年、大將軍大伴連狭手彦を遣わし兵数万を率いて高麗を討たせる。狭手彦は百済の計略を用い、高麗をつ破り、宮中の珍宝を奪い帰国。高麗王の内寝に掛けられていたと云う七織帳を天皇に奉り、他の珍宝と美女媛とその従女吾田子を蘇我稲目宿禰大臣に送った。大臣は二人の女を召し、妻として軽の曲殿へ住まわせた</p>	①百済、高句麗の道薩城攻略 ③高句麗、百済の金峴城を攻略。新羅は両国の兵の疲れに乘じ、伊浪異斯夫に命じ、兵を出してこれを撃ち二城を取り増築、甲士一千を留めてこれを守らせる 百済本記・新羅本記	550
551	(21)/(……)		12/21歳	<p>欽明12年、③麦種一千斛を以て、百済王に賜う。この年、百済の聖明王は、みずからの軍兵と新羅、任那二国の兵を率て高麗を伐ち、漢城の地をとり、平壤を討ち六郡の地を得て旧領を回復</p>			<p>宣化並立欽明12年、③麦種一千斛を以て、百済王に賜う。この年、百済の聖明王は、みずからの軍兵と新羅、任那二国の兵を率て高麗を伐ち、漢城の地をとり、平壤を討ち六郡の地を得て旧領を回復</p>		551
552	(22)/(……)		13/22歳	<p>欽明13年、⑤百済、高靈加羅、安羅が中部徳率木菟今敦・河内部阿斯比多を遣わし、高麗と新羅が結び任那を滅ぼそうとしていることを上表し、救援の軍兵を乞う ⑩、百済聖明王、〔更名聖王〕、西部姫氏達率怒喇斯致契等を遣し、釈迦の金銅像一体、幡蓋若干、経論若干巻を献上し、仏教の功德を上表。この年、百済は漢城と平壤(南平壤)とを放棄し、新羅が漢城へ入った</p>			<p>宣化並立欽明13年、⑤百済、高靈加羅、安羅が中部徳率木菟今敦・河内部阿斯比多を遣わし、高麗と新羅が結び任那を滅ぼそうとしていることを上表し、救援の軍兵を乞う ⑩、百済聖明王、〔更名聖王〕、西部姫氏達率怒喇斯致契等を遣し、釈迦の金銅像一体、幡蓋若干、経論若干巻を献上し、仏教の功德を上表。この年、百済は漢城と平壤(南平壤)とを放棄し、新羅が漢城へ入った</p>		552

553	(23)/(……)		14/23歳	<p>継体23年、⑨巨勢男人大臣没  <b>欽明14年</b>、①百濟は上部德率科野次酒、杆率禮塞敦等を遣わし、軍兵を乞う。(十三年五月来朝) 中部杆率木劬今敦、河内部阿斯比多等が帰国  ⑥内臣[名を闕せり]を遣して、百濟に使せしむ。仍りて良馬二疋、同船二隻、弓五十張、箭五十具を賜ふ。勅して云はく、「請す所の軍はを遣して、軍兵を乞す。、王の須みむ隨ならむ」。別に勅したまはく、「醫博士、易博士、曆博士等、番に依りて上き下れ。今上件の色の人は、正に相代らむ年月に當れり。還使に付けて相代らしむべし。又ト書、曆本、種種藥物、付送れ」 ⑦樟勾宮に幸す。蘇我大臣稻目宿禰、勅を奉りて王辰爾を遣して、船の賦を數へ録す。即ち王辰爾を以て船長とす。因りて姓を賜ひて船史とす。今の船連の先なり ⑧百濟は上部奈率科野新羅、下部固徳汶休帶山を遣わし上表し、救援を乞う。日本府の官人的臣が没し、代わりの政務官を要請 ⑩百濟の王子餘昌〔明王子。威徳王なり〕 悉に國の中の兵を發して、高麗國に向きて、百合野塞を築きて、軍士のなかに眠ね食ふ。是の夕に、觀覽せば、鉅野墳ち腴え、平原瀰く遠び、人跡罕に見、犬聲聞くこと蔑し。俄にして倏忽之際に、鼓吹の聲を聞く。餘昌乃ち大きに驚きて、鼓を打ちて相應ふ。通夜固く守る。凌晨に起きて曠野の中を見れば、覆へること青山の如くにして、旌旗充滿めり。會明に頸鎧着る者一騎、鏑挿せる者二騎、并せて五騎有るて、連轡ひて到來りて問ひて曰く、「少兒等の言へらく、『吾が野の中に、客人有在す』 何ぞ迎へ禮はざること得む →(下欄へ)</p>		<p><b>宣化並立欽明14年</b>(継体皇統23年)、①百濟は上部德率科野次酒、杆率禮塞敦等を遣わし、軍兵を乞う。(十三年五月来朝) 中部杆率木劬今敦、河内部阿斯比多等が帰国 ⑥内臣[名を闕せり]を遣して、百濟に使せしむ。仍りて良馬二疋、同船二隻、弓五十張、箭五十具を賜ふ。勅して云はく、「請す所の軍はを遣して、軍兵を乞す。、王の須みむ隨ならむ」。別に勅したまはく、「醫博士、易博士、曆博士等、番に依りて上き下れ。今上件の色の人は、正に相代らむ年月に當れり。還使に付けて相代らしむべし。又ト書、曆本、種種藥物、付送れ」 ⑦樟勾宮に幸す。蘇我大臣稻目宿禰、勅を奉りて王辰爾を遣して、船の賦を數へ録す。即ち王辰爾を以て船長とす。因りて姓を賜ひて船史とす。今の船連の先なり ⑧百濟は上部奈率科野新羅、下部固徳汶休帶山を遣わし上表し、救援を乞う。日本府の官人的臣が没し、代わりの政務官を要請 ⑨巨勢男人大臣没</p>		553
				<p>今欲はくは、吾と禮を以て問答ふべき者の姓名年位を早く知らむ」。餘昌對へて曰く、「姓は是同姓、位は是杆率、年は廿九」。百濟、反りて問ふ。亦前の法の如くにして、對答ふ。遂に乃ち標を立てて合ひ戦ふ。是に、百濟、鏑を以て、高麗の勇士を馬より刺し墮して首を斬る。仍りて頭を鏑の末に刺し擧げて、還り入りて衆に示す。高麗の軍將憤り怒むこと益甚なり。是の時に、百濟の歡ひ呼ぶ聲、天地も裂けぬべし。復其の偏將、鼓を打ちて疾く闘ひて、高麗の王を東聖山の上に追ひ却く</p>				

554	(24)/(……)		15/24歳	<p>欽明15年、①百済は中部木笏施徳文次、前部施徳日佐分屋等を筑紫に遣し、内臣、佐伯連等に来年正月の派兵の情況について尋ねる。内臣、勅を奉りて答報し、「即ち助の軍の數一千、馬一百匹、船卅隻を遣らしめむ」</p> <p>②百済は、下部杆率將軍三貴、上部奈率物部烏等を遣し、救援の軍兵を乞う。これとともに、徳率東城子莫古をたてまつり、前の番奈率東城子言に代える。五経博士王柳貴を固徳馬丁安に代りとし、僧曇慧等九人を僧道深等七人の代りとした。このほか勅命に従い、易博士施徳王道良、曆博士固徳王保孫、醫博士奈率王有俊陀、採藥師施徳潘量豊、固徳丁有陀、樂人施徳三斤、季徳己麻次、季徳進奴、對徳進陀をたてまつった</p> <p>③百済使人中部木笏施徳文次等が帰国</p> <p>④内臣、軍船を率いて百済へ向う</p> <p>⑤百済は、下部杆率汶斯干奴を遣わし、新羅との戦の情況を上表。さらなる援軍を乞う</p> <p>欽明18年、③威徳王即位※この欽明18年は安閑並立欽明15年(554)の誤認で、この誤認から安閑に並立する欽明皇位年の存在が立証される。この安閑並立欽明皇位年が使用されなくなってから12年が経過し、突如現れているので、おそらくこの記事は、本朝の動静から久しく切り離されていた者が記憶にある過去の皇位年をもって威徳王即位年を本朝の皇位年に対比添え書きしたものであろう。憶測すれば、五経博士の交代と関係か？ なお、この記事を最後に、書紀編纂者が年代を誤認する構造的要因はほぼ消失し、書紀の編年観が正常に機能しはじめる</p>				<p>宣化並立欽明15年(安閑並立欽明18年)、①百済は中部木笏施徳文次、前部施徳日佐分屋等を筑紫に遣し、内臣、佐伯連等に来年正月の派兵の情況について尋ねる。内臣、勅を奉りて答報し、「即ち助の軍の數一千、馬一百匹、船卅隻を遣らしめむ」</p> <p>②百済は、下部杆率將軍三貴、上部奈率物部烏等を遣し、救援の軍兵を乞う。これとともに、徳率東城子莫古をたてまつり、前の番奈率東城子言に代える。五経博士王柳貴を固徳馬丁安に代りとし、僧曇慧等九人を僧道深等七人の代りとした。このほか勅命に従い、易博士施徳王道良、曆博士固徳王保孫、醫博士奈率王有俊陀、採藥師施徳潘量豊、固徳丁有陀、樂人施徳三斤、季徳己麻次、季徳進奴、對徳進陀をたてまつった</p> <p>③百済使人中部木笏施徳文次等が帰国</p> <p>④威徳王即位</p> <p>⑤内臣、軍船を率いて百済へ向う</p> <p>⑥百済は、下部杆率汶斯干奴を遣わし、新羅との戦の情況を上表。さらなる援軍を乞う</p>	<p>⑦百済、新羅へ出撃するも失敗し、聖明王戦死。威徳王即位百済本記（新羅領土を拡大、百済と結び任那の衰退を挽回せんとした日本の意図は失敗）</p> <p>推古15年(欽明15年の誤)、中臣鎌子勅使として楯原神宮に参拝、菊の御紋章を御寄進</p> <p>北村某の家記※本文では同15年として推古朝としているが、鎌子の存在から欽明皇位年の誤認と思われる</p>	554
555	(25)/(……)		16/25歳	<p>欽明16年、②威徳王が王子恵を遣わし、聖明王の戦死を奏上。武器の下賜を乞う</p>				<p>宣化並立欽明16年、②威徳王が王子恵を遣わし、聖明王の戦死を奏上。武器の下賜を乞う</p>		555
556			17/26歳	<p>欽明17年、①百済王子恵が帰国</p> <p>⑦蘇我大臣稲目らを吉備の児嶋郡へ遣わし、屯倉設置して葛城山田直瑞子を田令とする</p> <p>⑩蘇我大臣稲目らを倭国の高市郡へ遣わし、韓人大身狭屯倉・高麗人小身狭屯倉を置かせ、また紀国に海部屯倉を置く</p>				<p>宣化並立欽明17年、①百済王子恵が帰国</p> <p>⑦蘇我大臣稲目らを吉備の児嶋郡へ遣わし、屯倉設置して葛城山田直瑞子を田令とする</p> <p>⑩蘇我大臣稲目らを倭国の高市郡へ遣わし、韓人大身狭屯倉・高麗人小身狭屯倉を置かせ、また紀国に海部屯倉を置く</p>		556
557			18/27歳							557
558			19/28歳							558
559			20/29歳							559
560			21/30歳	<p>欽明21年、⑨新羅が調賦</p>				<p>宣化並立欽明21年、⑨新羅が調賦</p>		560
561			22/31歳	<p>欽明22年、この年、新羅が調賦、待遇が劣っていたので恨んで帰国</p>				<p>宣化並立欽明22年、この年、新羅が調賦、待遇が劣っていたので恨んで帰国</p>		561

562		23/32歳	<p>欽明23年、①新羅が任那の官家を滅ぼす ⑦新羅が調賦をたてまつる。その使人は、新羅が任那を滅ぼしたことを恥じて帰国せず。この月、大將軍紀男麻呂宿禰を遣わし、新羅が任那を攻めたことを問責しようとする ①新羅が調賦をたてまつる。使人は天皇の憤りを恐れ、帰国せず※この記事は、7月と同じ内容を記録しており、新羅の国としての朝献ではなく、新羅が任那の官家を滅ぼしたことに對する国内の新羅系帰化人らの天皇の怒りを鎮めるための調賦か? 欽明32年、③坂田耳子郎君を新羅に遣わし、任那の滅んだ理由を問責※欽明年齡年の誤認</p>				<p>宣化並立欽明23年、①新羅が任那の官家を滅ぼす ③坂田耳子郎君を新羅に遣わし、任那の滅んだ理由を問責 ⑦新羅人が調賦をたてまつる。その使人は、新羅が任那を滅ぼしたことを恥じて帰国せず。この月、大將軍紀男麻呂宿禰を遣わし、新羅が任那を攻めたことを問責しようとする ①新羅人が調賦をたてまつる</p>	加羅、新羅に降伏新羅本記・百濟本紀威德王8年に同記事(任那滅亡)	562
563		24/33歳							563
564		25/34歳							564
565		26/35歳	<p>欽明26年、⑤高麗の人頭霧喇耶陸らが筑紫に帰化してきたので、山背国に住まわせる</p>				<p>宣化並立欽明26年、⑤高麗の人頭霧喇耶陸らが筑紫に帰化してきたので、山背国に住まわせる</p>		565
566		27/36歳							566
567		28/37歳	<p>欽明28年、諸国に大水があり、飢人に近傍の郡の穀を運ばせて救う</p>				<p>宣化並立欽明28年、諸国に大水があり、飢人に近傍の郡の穀を運ばせて救う</p>		567
568		29/38歳							568
569		30/39歳	<p>欽明30年、①胆津を遣わし白猪田部の丁籍の調査を詔 ④胆津の功をほめ、白猪史とし、田令に任じて瑞子の副官とする</p>				<p>宣化並立欽明30年、①胆津を遣わし白猪田部の丁籍の調査を詔 ④胆津の功をほめ、白猪史とし、田令に任じて瑞子の副官とする</p>		569
570		31/40歳	<p>欽明31年、③蘇我大臣稲目宿禰没 ④泊瀬柴籬宮(奈良桜井市初瀬)へ行幸、そのとき越の人江淳臣裙代が漂着した高麗人にたいする郡司の不正を奏上。この月、東漢氏直糠児・葛城直難波を遣わし高麗の使人を呼び寄せる ⑤膳臣傾子を遣わし、高麗の使に饗応させる。そのさい、膳臣は道君が高麗の調を奪ったのを知り、探し出して返し、京へ帰って広告 ⑦高麗の使が近江へ到着。この月、許勢臣猿と吉士赤鳩を遣わし、難波津から船を出し狭々波山(滋賀県大津市逢坂山)に引き上げ、飾船に仕立てて近江の北の山で高麗の使を迎えさせ、それより山背の高槓館(相楽館)に入らせ、東漢坂上直子麻呂・錦部首大石を遣わして警護にあたらせ饗応</p>				<p>宣化並立欽明31年、③蘇我大臣稲目宿禰没 ④泊瀬柴籬宮(奈良桜井市初瀬)へ行幸、そのとき越の人江淳臣裙代が漂着した高麗人にたいする郡司の不正を奏上。この月、東漢氏直糠児・葛城直難波を遣わし高麗の使人を呼び寄せる ⑤膳臣傾子を遣わし、高麗の使に饗応させる。そのさい、膳臣は道君が高麗の調を奪ったのを知り、探し出して返し、京へ帰って広告 ⑦高麗の使が近江へ到着。この月、許勢臣猿と吉士赤鳩を遣わし、難波津から船を出し狭々波山(滋賀県大津市逢坂山)に引き上げ、飾船に仕立てて近江の北の山で高麗の使を迎えさせ、それより山背の高槓館(相楽館)に入らせ、東漢坂上直子麻呂・錦部首大石を遣わして警護にあたらせ饗応</p>		570
571		32/41歳	<p>欽明32年、③高麗の献物を呈上し表文を奏上することができず、数十日間、占いによって良い日を持った ④病にかかり欽明没 ⑤河内の古市で殯 ⑧新羅が甲遣未叱子失消らを遣わし、殯に挙哀の礼をささげる ⑨檜隈坂合陵へ葬る</p>				<p>宣化並立欽明32年、③高麗の献物を呈上し表文を奏上することができず、数十日間、占いによって良い日を持った ④病にかかり欽明41歳没 ⑤河内の古市で殯 ⑧新羅が甲遣未叱子失消らを遣わし、殯に挙哀の礼をささげる ⑨檜隈坂合陵へ葬る</p>		571
									※「北村某の家記」は大正期の『大阪府全志』所